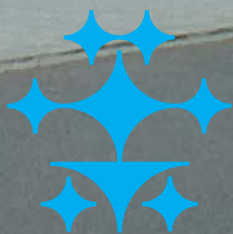


大阪薬科大学報

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



67

2013年(平成25年)6月30日発行

CONTENTS

新入生へのメッセージ	新入生の皆さんへ	学 長	藤田 芳一…… 3
	自分の未来のために	教務部長 教授	浦田 秀仁…… 4
	学生主導で授業マナーの意識改革を！	学生部長 教授	三野 芳紀…… 5
	新入生へのキャリアサポート部からのメッセージ	キャリアサポート部長 教授	天野富美夫…… 6
	図書館への招待—今読みたい本はありますか—	図書館長 教授	高岡 昌徳…… 7
中期計画策定	大阪薬科大学 中期計画策定について	理事長	井上 通敏…… 8
学術講演会	「第1回大阪薬科大学学術講演会 in 東京」の開催について	学 長	藤田 芳一……10
在学生へのメッセージ	学生気質今昔：私にとって学生時代とは、そして今	総合科学系環境医学グループ 教授	松島 哲久……11
実務実習	平成24年度 実務実習を終えて	実務実習実施部会責任者 教授(特任)	鈴木 芳郎……12
CBT	平成24年度 CBT を終えて	CBT 実施部会責任者 准教授	井上 晴嗣……14
OSCE	平成24年度 OSCE を終えて	OSCE 実施部会責任者 准教授	恩田 光子……15
薬剤師国家試験	第98回薬剤師国家試験結果と今後の方針	薬剤師国家試験対策委員長 教授	藤本 陽子……16
公開教育講座	平成25年度 公開教育講座の案内	公開教育講座委員長 教授	高岡 昌徳……18
市民講座	平成25年度市民講座	市民講座委員長 教授	松村 人志……19
就任のご挨拶	総合科学系 人間文化学グループ	教授	宗前 清貞……20
	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)	恩田 誠二……21
	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)	金 美恵子……21
	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)	小森 勝也……22
	臨床実践薬学教育研究室	教授(特任)	脇條 康哲……22
	製剤設計学研究室	講師	門田 和紀……23
	製剤設計学研究室	助手	中代 里美……23
研究室の紹介	有機薬化学研究室		……24
	微生物学研究室		……25
	薬剤学研究室		……26
	臨床実践薬学研究室		……27
進路・就職状況	平成24年度 進路・就職状況報告	キャリアサポート課	……28
国際交流基金海外派遣事業	ヨーロッパ薬学研修旅行	総合科学系言語文化学グループ 准教授	スミス 朋子……30
TOEIC IP テスト	TOEIC IP テスト受験の勧め	総合科学系言語文化学グループ 准教授	スミス 朋子……33
私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	平成24年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業活動状況	研究代表者 教授	辻坊 裕……34
三大学医工薬連携科学教育研究機構	三大学医工薬連携科学教育研究機構の活動状況(その4)	准教授(特任)	銭田 晃一……35
教育研究施設の紹介	薬用植物園	薬用植物園長 教授	谷口 雅彦……36
学校法人決算・予算	平成24年度学校法人決算及び平成25年度学校法人予算	事務局長	秋月 延夫……37
学生相談室	学生相談室だより	学生相談室相談員	川端 康雄……40
教員研究業績	教員研究業績 (2012 年)		……41
事務局だより	総務課……50	学生課……54	教務課……55
	入試課……56	図書課……58	臨床教育支援課……55
薬用植物の紹介	シナマオウ(マオウ科)	薬用植物園長 教授	谷口 雅彦…巻末



本学は公益財団法人大学基準協会による2011(平成23)年度認証評価の結果、2012(平成24)年3月9日付で同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けました。

認定期間：2012(平成24)年4月1日より
2019(平成31)年3月31日



D 棟北側階段から望む JR 高槻駅付近の高層ビル（教育・住居・医療・商業施設）

新入生の皆さんへ

学 長 藤田 芳一



新入生の皆さん、ご入学おめでとう。教職員一同は、皆さんのご入学を心より祝福いたします。大阪薬科大学はこれまで、薬剤師としてあるいは薬学研究者・企業・行政職など、多岐多様な分野で活躍している多くの卒業生を輩出しており、1904年の創立以来、本年で109年を迎える歴史と伝統ある医療系大学です。

皆さんの入学を機に、次の3つのことを皆さんにお願いしたいと思います。1つ目は、「出会いとふれあいを大切に」です。新たな一步を踏み出した皆さんは、本学での出会いを大切にしてください。人生は出会いに尽きます。何故なら“人生の扉は、他人が開く”からです。出会った後に、お互いが相手に信頼と敬意を持って接する長い日々の積み重ねが絆をつくり、その結果が「かけがえのない友や恩師」をつくっていくのです。プロとしての医療人に求められるのは、他者の心情に共感、理解する心と病める人々を包容できる人間としての豊かさです。「他者への深い思いやり」すなわち「仁」が、医療の原点であると、私は思っています。そして「人を思いやる」ためには、人と人との“ふれあい”がまず必要です。そして「ふれあう」ためには、「笑顔と挨拶」です。笑顔と挨拶は、相手だけでなく自分自身も元気に、幸せに、そして優しい気持ちにしてくれます。「他者への深い思いやり」をはぐくむために、是非「常に笑顔と挨拶」を忘れないで「出会いとふれあいを大切に」してください。

2つ目は、「継続すること」です。とにかく、何でもよいですから、毎日、継続できるものを決めて取り組んでみてください。プロとしての医療人になるためには、地道な継続が最大の武器であり、大成する王道です。「継続は力なり」です。継続する中で、皆さんは、

様々な挫折を味わうでしょうが、決して落ち込んだり、くじけてはいけません。大切なことは、日々遭遇する目の前の一つ一つに逃げずに、ひたむきに向き合うことです。日々の地道な積み重ねが、その後の自分を形づくっていくのです。「挫折の数だけ、^{つよ}強く、そして優しくなれる」ことを信じて、継続して研鑽してください。

最後の3つ目は、「誇りを持つこと」です。誇りは、他人に対する優越感を誇示するものではなく、自分自身に対する覚悟であり、生きていくための自信につながります。人生の道々で出会うであろう様々な苦難に立ち向かうとき、自分を支えてくれる最大、そして唯一のより所になるのが、誇りです。「実るほど、頭をたれる稲穂かな」という言葉がありますが、自分自身に誇りを持つとともに、謙虚さや感謝も忘れてはなりません。夢の実現のために皆さんの一人ひとりが、自分自身に誇りを持ち、大阪薬科大学に誇りを持ち、それぞれの夢に向かって挑戦を続け、日本の未来、そして、人類社会の未来を担うという使命感と誇りを持つリーダーに育っていただきたいと思います。

大阪薬科大学には、皆さんの夢の実現を、手助けしてくれるパワー、エネルギーが満ち溢れています。「この大阪薬科大学に入学してよかった、卒業してよかった」と皆さんに思ってもらえるよう教職員一同、全力で支援していきます。大学生活は、皆さんにとって最もかけがえのない時間です。皆さんは、勉学に励むとともに、友とふれあい、楽しく、エキサイティングで、実り豊かな、学生生活を過ごしてください。そして、くれぐれも健康には充分留意され、医療人として、そして人として、大きく成長されることを期待しています。

(本文章は、平成25年4月1日の入学式での
「学長式辞」を改変したものです。)

自分の未来のために

教務部長 教授 浦田 秀仁

新入学生の皆さん、皆さんが大阪薬科大学に入学してきてから約3ヶ月が経ちました。毎日をどのように過ごされていますか？

4月3日の新入生ガイダンスでは、私がガイダンス開始時刻の10分前にD301講義室に到着した時にはすでに皆さん全員が集合し、静かに着席されていました。その時刻なら、まだ多くの学生がそろそろとD301講義室に向かっている頃だろうと思っていた私には予想外のことで、その嬉しさに次のような話をしたことを思い出します。

「大勢のマナーをわきまえた学生さんに入学していただいたことを大変嬉しく、また誇りに感じます。皆さんの今後の活躍を大いに期待しています。」

皆さんの多くは、今もそうした心構えで授業や実習に臨んでいただいているものと推察します。実際、何人かの先生方から授業での態度も良いと聞いています。薬学生として初心を忘れることなく、さらに将来医療に携わる人間としてあるべき態度・倫理観を身につけていながら勉学に励んでいただきたいと思います。

5年後、皆さんは就職戦線の最前線に出征していかねばなりません。本学のキャリアサポート課は強力に皆さんを後方支援してくれますが、最前線に出たとき頼れるのは自分だけです。アベノミクスで景気が上昇傾向とはいうものの、バブル景気を境に社会は年功序列型から実力主義に大きく変化し、企業は大学のブランドではなく（ブランドによる採用が完全になくなったとは言えませんが）、あくまでも学生個人の知識・能力・態度を試験や面接を通じて推し測り採用を決定します。つまり、「大学に関係なくいい人材を採用する」というのが採用側の考えです。ですから、

「大学へ入学することがゴール」という考えは捨て去



4月3日の新入生ガイダンス。みんな真剣でした。

らねばなりません。

学生生活を安穩と過ごすのではなく、日々自分自身を磨き、人間力を向上させていく心がけてください。さもなければ5年後には玉砕が待っています。まさに皆さんはそのスタートラインに立ったところなのです。この5年間をどのように過ごすかで、皆さんの進路や就職活動の結果も大きく左右されることになるでしょう。

「では、これから5年間をどう過ごせばいいんですか？」

何人かの人からはこんな質問が出てくるかもしれません。しかし、こういう問題に「自ら気づき、自ら考え、自ら答えを出し、それを実践できる人間」こそが社会から求められている人材だと思います。つまり、大学生ともなれば「自分で考えなさい」ということです。それを考える上でのヒントを私からのメッセージとして皆さんに贈ります。

「あなたが、企業や病院、薬局の人事採用担当者だったら、どんな学生を採用しますか？」

知識（薬学専門、語学、教養）、問題発見能力（観察力・洞察力）、問題解決能力（論理的思考力・創意工夫力）、学びに対する態度（向上心）、他者を思いやる心、協調性等々について考えたとき、どんな学生を採用しようと思いますか？ 恐らく、皆さん同じような『結論』に至るでしょう。まずは自分自身を客観的に見つめ直し、その『結論』に向かって、自己改革すべき点に「気づき」、その方策を「考え」、そして「実践」してください。

それをいつから始めればいいですか？

「今でしょ！」



4月4日に開催された職種紹介学内企業セミナー。
5年次生、6年次生は懸命です。

学生主導で授業マナーの意識改革を！

学生部長 教授 三野 芳紀

新入生の皆さん、入学から3ヶ月が経ち、大学にも随分慣れてきたころと思います。皆さんは、将来、薬剤師等の立場で社会に貢献できるりっぱな医療人に成長することでしょう。そのためには大学生活をエンジョイしつつも、学業に興味をもち且つ真摯な態度で勉学に取り組むことが求められます。思いっきり遊び、思いっきり勉強し、各自の夢を叶えてください。

学生部は、経済的、精神的また勉学の面でも学生の立場に立って皆さんを応援したいと思っています。まず、経済的な面では奨学金制度があります。色々な形式があるので分からないことがあれば学生課のほうで確認してください。また、皆さんの中で精神的にストレスが掛かったり孤立していたり、勉学に意欲が沸かない人はいませんか。そのような場合は、学生相談室もありますので、遠慮なくカウンセラー（臨床心理士）に相談してください。次に、健康面についてお話ししたいと思います。本人の問題でもあり、周りのヒトへの影響も大きいのは喫煙の問題です。本学はそれを踏まえ、昨年度からキャンパス及び周辺を全面禁煙にしています。「タバコは百害あって一利なし」と言いますが、実際に、私の周辺でも喫煙による肺がん、流産等の健康被害が多く見受けられます。現在タバコを吸っていないヒトでも、過去の喫煙、特に若いときの喫煙習慣が後になって大きく影響してきます。学生部としては、新入生の皆さんが将来的に健康リスクを抱えてしまう、喫煙習慣を身に付けないように極力指導していきたいと思っています。

次に、マナーの問題をお話ししたいと思います。まず、バスでの乗車マナーです。「お年寄りに席を譲らない」、「大声でうるさい」とかの苦情が寄せられています。そのような学生はほんの一握りですが、一人でもいると本学の学生みんなが乗車マナーを守らないと勘違いされます。将来、薬剤師として医療の分野に身をおくものとして、お年寄りへの配慮や周辺の人々への心遣いは特に大事と思われます。大薬の学生として恥ずかしくないような乗車マナーを是非守って頂きたいと思います。一人の心無い態度が大阪薬大の全体のイメージも悪くしてしまいます。

このようなマナーの改善ももちろん大事なことです。が、これと同様に大事なのは授業におけるマナーです。「私語がうるさい」と周りの学生から苦情が寄せられることがあります。また、大胆に寝ているヒト、教科

書を持たず、内職をしている学生も散見されます。このような学生が数人でもいると、われわれ教員からすると、全体が真面目に講義を聞いていないかのように勘違いしてしまい、「こんな授業態度なら単位未修得の学生が相当数でても当然だ」と思ってしまいがちです。授業態度の悪い学生は、本人だけではなく、多くの学生に色々な意味で迷惑を掛けていると認識してください。

充実した大学生活を送るためには、まず、順調に進級していくことが不可欠です。必ず6年間で卒業し、最初の薬剤師国家試験で合格してください。そのためには、学生自身が、勉学に対する態度、試験勉強に対する考え方等、再度、考え直す必要があります。学生たちの代表である学友会の皆さんも、学生の方から真面目に学業に取り組むという雰囲気づくりを積極的に進めていって頂きたいと思います。学生たちと教員が一緒になって留年の少ない良い大学にしていきたいものです。学生主導による授業マナーの意識改革が望まれます。

余談ですが、私の好きな歌に、“プリテンド (pretend)”があります。pretend は、「～の振りををする」という意味です。「悲しい時でも幸せな振りをしていると、笑顔になり、そして笑顔になると友達もでき、恋人もでき、本当に幸せになるよ。だから、幸せな振りをしてみたら？」とナット キング コールが1960年ごろ歌っていました（古ッ！）。自分は不真面目だと思っているヒトも、一度、真面目な振りをしてみたらどうでしょうか。30分で良いから、各科目の予習・復習をしてみたら、どうでしょう。授業内容が分かり、楽しく講義が聞けるかも知れませんね。気がついたら、本当に真面目な学生たちの仲間入りをしているかも。



Nat King Cole (Capitol Records) のレコードジャケットから

新入生へのキャリアサポート部からのメッセージ

キャリアサポート部長 教授 天野 富美夫

皆さん、大阪薬科大学へご入学、おめでとうございます。キャリアサポート部長を拝命しております、生体防御学研究室の天野富美夫です。どうぞ宜しくお願い致します。皆さんへのお祝いとともに、一言、ご挨拶を述べさせて戴きます。

皆さんの多くは、6年制薬学教育を受け、これから順次、高度な学問を学び、いろいろな経験を積んで、6年後には薬剤師資格をもって社会に巣立って行くと思います。本学からも既に、皆さんの先輩の第一期、第二期生たちが、ほぼ全員、希望する職種に採用され、あるいは進学し、今、さまざまな職場で活躍しています。

6年制に移行してからも、本学の就職実績は、以前の4年制薬学教育の時と同様、大変素晴らしいものになりました。これも偏に、学生たちの努力とともに、その家族、先輩方、企業・病院・薬局、ならびに地方自治体などの受け入れて戴いた先の皆様方、そして教職員の皆様のご支援・ご指導のお蔭です。ここに改めて御礼申し上げます。

キャリアサポート部・課では、これを踏まえ、学生の皆さんが、さらに多くの満足と成果を得ることができるよう努力をしたいと考えています。昨年度より、「就職におけるミスマッチを無くす」をテーマに、学生に対するガイダンスを含めた指導を早期より行い、自分の能力を最大限発揮でき、適性を活かすことのできる職種・職場を見出せるように指導しています。また、「社会に対する感性を備え、自己研鑽する努力を促す」指導を行っています。ですから、新入生の皆さんは、「就職なんか、まだ先の話さ！」なんて思わ



ないで、常日頃より、自分にとって、「大切なもの」、「やりたい仕事」、「充実感のあるもの」、「好きなこと」、「楽しいこと」、「苦手、あるいは嫌なこと」など、振り返って考える習慣を身につけてください。

「感性のある人」は強いです。皆さんの向かう職場は、「薬学」をベースに、医療に深く関わるものが多いです。そこでは、「大学の科目で何点取ったか」、ではなく、「あなたは何を感じ、何をしたいか」を問われます。これからの学生生活で、勿論、継続した勉強は大切です。真面目に努力を重ねて良い成績を取ることとは、皆さんの大事な仕事でもあります。それと共に、豊かな感性、感受性を身につけ、育ててください。

大学生活を通じ、クラブ活動、アルバイト、友人との付き合いなど、たくさんの人に出会い、良い経験一杯してください。そして、皆さんが、知らず知らずのうちに、個性豊かな、そして明確な意思と自覚を持つ人になるように、期待しています。

これからは、学生ロッカー室の向いにあるキャリアサポート部・課を忘れず、時には足を向けてください。

最後に、皆さんの健康と活躍を祈っております。

図書館への招待 ― 今読みたい本はありますか ―

図書館長 教授 高岡 昌徳

新入生の皆さん、大学に入学してから図書館で本を読みましたか？ 図書館に入ると最初に「新着雑誌」コーナーや「新着図書・DVD」コーナーがあります。そこで、本を一冊手にとってパラパラと読み、次に別の本をペラペラめくっていくうちに、思いがけず心に残る言葉に出会います。そして、ついには読み終えてしまう本もあります。そうすると今度は、その作者の本を次々と読みあさることになってしまいます。好きな作者が一人、また一人と増えていきます。これが本を読む醍醐味かもしれません。

蔵書検索

本学の図書館には沢山の資料が配架されています。和・洋合わせた蔵書約92,000冊、学術和洋雑誌約650種類、視聴覚資料約2,000本の薬学・自然科学系図書や教養図書とともに、一般の小説や雑誌も所蔵されています。探したい資料があれば、「情報検索コーナー」のパソコンを利用してください。また、電車やバスの中で読みたい本や作者がふと思い浮かんだ時には、スマートフォンやタブレット端末を利用して、本学の図書館 (<http://lib.oups.ac.jp/>) にアクセスして、調べてください。例えば、図書館のホームページ画面で「蔵書検索」のボタンをクリックし、次画面の「検索キーワード」に「有川浩」と書き込むと、「阪急電車」、「図書館戦争」、「空飛ぶ広報室」、「県庁おもてなし課」など、この女性作家の著書が本学図書館に24冊所蔵されていることがわかります。人気作家ですので貸出し中の本も多いですが、読みたい本があれば、予約も可能です。ぜひ一度、蔵書検索を試してください。



ただ今「学生選書」中

学生選書

図書館では、学生の皆さんから新規の希望図書やDVDに関するアンケートを採り、採択可能なものを随時購入していますが、昨年度から「学生選書」という新企画を実施しています。この企画は、学生の皆さんが自らの目線で図書を選定することによって読書推進を図り、本に対する愛着を深めることを目的としています。購入希望図書のリクエストは、あくまでも「個人の読みたいもの」ですが、この企画では自分だけでなく、他の学生にとっても「読みたい！」と思えるような本を選び、推薦理由を付けて書棚に配置することになっています。本年度第1回「学生選書」は5月6日～8日の3日間、学内のブックセンターで行いました。現在、12名の学生が選定した書籍の一部が推薦理由とともに3階の「学生選書」コーナーに並べられています。それ以外にも、背表紙に黄色のシールを貼り付けている本が学生に選ばれたものです。秋には本年度の2回目を実施しますので、新入生の皆さんもぜひ参加してください。

最後に、大学が配布しているシラバス（授業の内容）には、各教科の教科書と参考書が記載されていますが、新入生の皆さんが教科書以外にも高価な参考書を全て購入することは不可能に近いと思います。本学では、図書館4階に「教科書・参考書」コーナーを設け、そこに教科書と参考書をそろえていますので、購入できそうもない参考書はここで読んでみてください。教科書だけでなく、参考書から情報を得ることはより深い学習につながり、自分で調べた内容はより身につくと思います。大いに活用してください。



「教科書・参考書」コーナー



大阪薬科大学 中期計画策定について

理事長 井上 通敏

理事長に就任して2年近くになります。この間に大阪薬科大学について感じたことは次のようなことです。

- 1、真面目で明るい学生が多く、食堂や学生集会室においてグループで食事や学習をしている光景は大変良い。クラブ活動や研究室配属に熱心なことも好感が持てる。
 - 2、教員は学生の教育（進級、国家試験合格）に一生懸命だし、研究においても論文をよく書いている。また、学生からの相談や就職活動にも親身で取り組んでいる。
 - 3、事務職員はどの課も熱心に学生や教員の支援に取り組んでいる。
- 以上、挙げたことは良いことですが、ちょっと離れて大学全体を見ると
- 4、歴史と伝統があって大学の経営状態もよいからでしょうか、保守的というのか、このままでよいという雰囲気学内に漂っていて、エネルギーが外へ明日へより内部に向かいがちである。
 - 5、上記のことのせいでしょうか、将来計画やビジョンが明確でなく、大阪薬科大学の特色を何でアピールしていくのが学内に徹底していない。
- ということを感じました。

それで理事会の席上、理事長から「大阪薬科大学の中期計画」を策定しようじゃないかと提案したところ、理事全員の賛同を得ることができました。せっかく中期計画を策定するのだから全職員に途中の議論を公開し、意見を求めながら進めようということにしました。

以下に総論部分を示します。各論については現在も作業中ですが、まとめ次第公表します。

中期計画総論

総論は、理事会メンバーが中心になって論議し、途中の議論は全職員に開示して進めたもので、最終的には理事長がまとめて理事会の賛同を得て策定した。

1、理念と使命

最初に「理念」があり、この理念に基づいて「使命」が構想され、理念と使命を実行するために「学校法人」が組織され、次いで法人によって「大学」が設立される。創立者が唱えた「理念と使命」は「建学の精神」として法人と大学に引き継がれていくが、時代の変化を受けて「建学の精神」は変化して行く。

これまで大阪薬科大学の「理念」と「使命」が職員・学生・保護者・同窓生・一般社会に十分浸透していない

かったので、中期計画の冒頭に記載して明示するとともに、大学の広報誌、入学案内、ホームページなどにも掲載する。

・理 念

“大学は学生のため、社会のために存在する。”

・使 命

- 1)、医療人として主体的に医療に貢献できる薬剤師の養成
- 2)、創薬の研究開発や薬事行政・環境問題に貢献できる人材の養成
- 3)、薬学の研究と教育者・研究者の輩出

2、大阪薬科大学が目指す重点項目

中期計画の基本として、これまで教学が行ってきた自己点検・評価の「改善すべき点」や公益財団法人大学基準協会の認証評価で指摘されたことを計画に盛り込み実行することはよいことである。しかし、基準協会の指針はすべての薬科大学（薬学部）共通に求めている基準ですから、大学ごとの特色を打ち出すにはそれぞれの薬科大学がどこに重点を置くかを示すべきです。

以下の5項目を大阪薬科大学中期計画の重点項目とする。

- 1) 薬学と医学の接近
- 2) グローバル化に対応できる大学
- 3) ガバナンスの強化
- 4) 生涯教育（卒後教育）の充実と強化
- 5) 地域における大学の貢献（COC 構想）

以下、重点項目の趣旨を簡潔に述べる。

1) 薬学と医学の接近

新入教育段階から薬学生と医学生や看護学生との交流の機会を与える。研究においても薬学と医学とがもっと密接に取り組めば Translational Research、創薬や環境問題において大きな成果を挙げ得ることが期待できる。そこで、単科の薬科大学の短所を補うため、地域の医科大学、大阪の中核病院や地域の病院、創薬に関する代表的な研究所、薬剤師会や医師会、自治体といったところとの太いパイプ作りを行う。（部会⑤で計画策定）

2) グローバル化に対応できる大学

学生は海外の研究所や製薬メーカーに就職して国際的に活躍して欲しい。留学生の受け入れや海外からの教員採用も視野に入れて、世界に通じる大学になるよう努力する。このためには教職員および学生に「語学研修の目標設定や達成のための支援」、「異文化の理解や専門の異なる人たちとの交流など多様性への適応力を

培う」ことなどの環境を整える必要がある。

(部会①で計画策定)

3) ガバナンスの強化

「少子化と高齢化社会」、「グローバル化」、「社会的なニーズの高まりと変化」など、時代の変化は大きくて早い。これらのことに柔軟に速やかに対応するには、学内のガバナンスを確立し、強化しておくことが必要。理事会、評議員会、教員組織、事務組織の役割を明らかにするとともに、教育と研究の執行を理事会から委任されている学長がリーダーシップを発揮できるよう「教学のガバナンス」を確立する必要がある。(部会③で計画策定)

4) 生涯教育(卒後教育)の充実と強化

大阪薬大はこれまでも卒後教育(本学出身者だけを対象とせず)に力を注いできたが、薬学教育が6年制教育に移行した後、医療における薬剤師の役割と期待は膨らんでおり、卒後研修・生涯教育をこれまで以上に充実・強化しなければならない。(部会①で計画策定)

5) 地域における大学の貢献

(COC、Center of Community 構想)

地域の医師会・薬剤師会・看護や介護、地域の病院や老健施設、保健所や自治体と協力して大阪北摂部における地域医療の充実に貢献したいと願っている。たとえば、在宅医療の充実と在宅看取りの普及において薬剤師の参画と貢献を考え実行したい。

(部会⑤で計画策定)

3、使命、中期計画、単年度事業計画の一貫性

中期計画策定の狙いの一つは、使命達成と単年度事業計画を結びつけることにある。単年度では達成できないことが多く、したがって達成目標も立て難い。中期(4～6年間)であれば使命達成に向けた目標や戦略も考えやすく、中期計画が策定されておれば単年度事業計画も生き生きとしたものになると考えた。

4、評価について

1) 「中期計画」と「使命」の達成度の評価について

(実施目標：評価法については2年以内)

理事会は、学長へ委任した使命の達成について監視し、評価を行わなくてはならないが、評価方法を予め明示しておくことと、評価方法はできるだけ客観的尺度を採るほうがよい。そのためには使命、中期計画、単年度事業計画において「目標」を明示し、その目標も可能な限り数値目標とすることが望ましい。また理事会での評価に当たっては「アウトカム評価」だけでなく、「プロセスでの努力に対する評価」や「構造的あるいは制度的な条件についても配慮した評価」を採り入れるべきである。

参考1 大学改革 評価領域と指標のイメージ

(文部科学省大学改革実行プラン p.19)

2) 学外識者による評価委員会の設置

(1年以内に実施の可否を結論、設置の場合は2年以内に実施)

認証評価(大学基準協会)と分野別評価(薬学教育評価機構)は外部からの第三者評価として権威があり、

全国的に実施され、その結果も公表されているので比較評価も可能である。これ以外に、大学ごとの特色を学外から評価する仕組みを設けてよいのではないかと考える。独自の学外評価委員会(仮称)を設置している大学は多い。学識経験者、就職先の幹部、民間企業の経営者、マスメディアの人、地域の人、医療関係の他職種の人などで構成してはどうか。理事会と教授会が独走、独善に陥らないように外部の識者の意見を傾聴する意義もあるし、開かれた大学としての意義もある。議事録は残すが、権限も責任もフリーとすることを原則に。

3) 人事考課について

「教職員の任期制とテニュア制について」を自己点検・評価の改善すべき事項に挙げているが、実施するには多くの問題点があるので、他大学の動向を参考にして理事会で議論をすべきであろう。

職員の人事考課については、企業や行政では行われているので、大学においても他大学の例など評価法を調査の上、できるだけ客観的な評価法を採り入れるべきである。

また教育と研究において顕著な成績をあげた職員には優遇を図るべきである。

任期制やテニュア制の問題は個人評価が定着した段階で導入の是非を議論してはどうか。

5、各論(部会)のテーマと担当

- ① 教育に関する改革
(学長・教学・教務課・学生課・入試課)
- ② 研究に関する改革(学長・教学・教務課)
- ③ 学内制度に関する改革(理事会・事務局)
- ④ 施設・設備・職員数への投資計画
(理事会・事務局)
- ⑤ 学外諸機関との連携促進
(学長・理事長・事務局長)
- ⑥ 財政基盤の安定(理事会・事務局)

6、自己点検・評価および大学基準協会「認証評価」への対応

自己点検・評価の「改善すべき点」や大学基準協会の「認証評価」は公表しているので計画に盛り込むことを原則とします。自己点検・評価は10項目に分類されているので、部会との対応関係を示しておきます。学内に設置されている自己評価委員会の対応結果を参照してください。

- | | |
|--------------|-----------|
| 1 理念・目的 | (理事長・学長) |
| 2 教育研究組織 | (部会①、②) |
| 3 教員・教員組織 | (部会①) |
| 4 教育内容・方法・成果 | (部会①) |
| 5 学生の受け入れ | (部会①) |
| 6 学生支援 | (部会①→③) |
| 7 教育研究等環境 | (部会④) |
| 8 社会連携・社会貢献 | (部会①、⑤) |
| 9 管理運営・財務 | (部会③、④、⑥) |
| 10 内部質保証 | (部会②、③) |

「第1回大阪薬科大学学術講演会 in 東京」の開催について

学長 藤田 芳一

平成25年2月24日(日)に、同窓会と本学の共催で、八重洲富士屋ホテルにて、「第1回大阪薬科大学学術講演会 in 東京」が開かれました。

本会の開催は、昨年行われました関東支部の支部総会・懇親会の際、話題に上がり、その後、武枝敏之同窓会長の強い推進力により、実現できたものです。本学が主催する主な講演会としては、市民講座、公開教育講座、健康講座、北摂地域薬剤師交流研修会等、ありますが、開催場所はいずれも本学あるいは本学の近隣地域ばかりでした。東京近郊には本学卒業生も多く、また東京で開かれること自体、大変大きな意味・意義があると考えられます。

当日は、井上理事長、秋月事務局長の大学関係者をはじめ、100名を超える参加者のもと、行われました。今回は、第1回に相応しく、各界で活躍されています2名の卒業生をお招きしました。1席目の特別講演として、「ファーマシューティカルケアの実践～臨床(病棟)業務での薬剤師の役割～」の演題で、聖マリアンナ医科大学病院薬剤部長 増原慶壮先生(写真左、S50年卒、座長は帝京平成大学教授 森本一洋先生、S48年卒)に、第2席目の招待講演として、「iPS細胞

研究の現況」と題して、京都大学 iPS 細胞研究所副所長 林 秀也先生(写真右、S44年卒、座長は日本薬科大学教授 木村正幸先生、S45年卒)にご講演いただきました。増原先生、林先生、お二人のそれぞれ歩んで来られた道にかける熱い情熱と誇りが感じられ、私も素晴らしい感動と高揚感を得ることができ、また会場からも多くの質問も寄せられ、大変活発で有意義な講演会になりました。

その後に開かれました懇親会もお二人を囲み、熱気に満ち、そしてあたたかくて、和やかな雰囲気の中、無事終了することができました。講演者・座長とも本学の卒業生であり、このような講演会が東京で開かれるのは、大阪薬科大学として、そして卒業生として、大変誇らしいものであり、嬉しいものです。本当に良い講演会だったと思います。

最後になりますが、本講演会を誠心誠意、企画・運営していただきました武枝同窓会長はじめ関東支部同窓会の皆様に厚く感謝申し上げますとともに、次回以降はどのような講演会になるのか、今から期待感が大いに膨らんでいます。



増原慶壮先生 (S50年卒)



林 秀也先生 (S44年卒)

学生気質今昔：私にとって学生時代とは、そして今

総合科学系環境医療学グループ 教授 松島 哲久

教師とは、接する学生との年齢差が、年を重ねるにつれて大きくなっていく宿命を負った存在である。教師になりたての頃は、毎回毎回教えるのが精一杯で、そのようなことは微塵も考えたことはなかった。ある時期からであろうか、ふと学生との年齢差を感じるようになって、以後そのことを次第に意識するようになってきた。

「私は何のために存在しているのか」、「なぜ教師なのか」、「私の目指すべきことは何だったのか」、「今のままで良いのか」。学生との距離が開くことによって、それはかえって、私自身が学生時代の私に回帰して、その私が何を理想として追い求めていたのかを思い起こす良い機会となった。学生時代に抱いた希望と理想、それを忘れていたわけでは決してなかったし、理想が挫折したわけではなかった。しかし、日々の忙しさに紛れて、理想に向かっての道程が、時として意識から遠ざけられてしまっていたのだと思う。もう一度私の学生時代に何を決意し、そして今の教師としての私があるのかを根本から問われ直されることとなった。

私が京都大学法学部に入学したのは1967年である。医者以外になることが許されない古い伝統を長く受け継いできた医家の内で育った私が、兄たちとは違って、医師以外の道に進むことを親族会議で初めて許されることになって、喜びに胸を膨らませて私は大学のキャンパスに立った。そこに私は無限の可能性を見ていた。「法の精神」の著者モンテスキュー、「社会契約論」のルソー、そして当時必読とされた「資本論」のマルクスと「死にいたる病」のケルケゴール、そして一世を風靡していた実存哲学者のサルトルなど、私の目指すべき思想家は枚挙に暇がないほどであった。そして当時の学生は、貪るようにしてそのような偉大な思想家たちの本を読みあさった。そのようにして一年が過ぎようとしていた1月のことであった。

「法学部にいて法哲学など勉強したからといって、偉大な思想家たちの思想を自分のものとする事ができるのだろうか」、「このままで創造的な思想を生み出すことができるのだろうか」。様々な疑問が浮かんで消えていって、京の雪の一夜を下宿の外で過ごすことになった。そして、「そうだ、法学部に移って本格的

に哲学を学ぶことにしよう。それによっていまひとつ突きぬけないでいる難問に立ち向かってみよう」、そう決意するに至った。その決断は天啓のような突然の決断であった。文学部に移って、そこで多くの生涯の友に出会うことができた。法学部にいたときと違って、皆、志を同じくする仲間のような存在であった。議論をし、研究会を立ち上げ、そして熱烈な恋愛もしたし、親しい友の死にも遭遇しなければならなかった。しかし、私の大学時代は、幸福な時であれ、不幸な時であれ（1969年2月からは東大の紛争がとうとう京大まで波及することとなり、文学部の講義は秋までなされることはなかった。この学生の叛乱は1968年パリの「5月革命」の世界的波及とベトナム戦争への反対運動とが合流したものでもあった。）、私の生を生き切っていたと言えるほど充実していた。当時の学生気質は、世界の中で自己を見つめる視線において成立していたと言っていい。そして、自己を再び構築し直さなければならない年齢になったとき、今、現に接している学生の意識を自分のものとするを通して、その都度の現在を生き直す必要を感じたのである。かつて抱いた理想との落差は、この新たな現実を生き直すことによって埋められるべきであると考えようになった。

では現在の学生の意識はどうであろうか。豊かな物質生活の実現している社会において、しかし、世界では多くの子供たちが飢えていることも、また知っている時代である。私たちの時代のように、鋭い意識をもった現在の学生諸君は、古典の示す理想へと自己を忘れて逃げ込むことはできない。物質的豊かさは、同時に環境の危機を否応なく意識させる。現実的な、しかしグローバル化を意識して世界的視野から自己の生きる道を模索せざるをえないのが現在の学生諸君の状況かと思われる。

かつての学生気質が理想から現実へと降下していく中で自己を実現していこうとするものであったとするならば、現在の学生諸君に課されているのは、鋭い現実認識の上に立って、自分自身の理想を築き上げていくことではないであろうか。私は、真摯な学生諸君の姿を見ていてそのように感じている。

平成 24 年度実務実習を終えて

実務実習実施部会責任者 教授(特任) 鈴木 芳郎

本学臨床薬学教育カリキュラムでは4年次に臨床導入実習、薬学総合演習を行った後、薬学共用試験(OSCE、CBT)を受けます。その後5年次に、病院及び薬局の各々2ヶ月半に及ぶ実務実習を受けることになります。そして共用試験に合格すると医療の現場である病院及び薬局における実務実習が可能になります。実務実習は従来の『見学型実習』ではなく『参加型実習』であるため、共用試験に合格することは、資格(薬剤師免許)のない薬学生に調剤の実習をさせていただくための重要なステップです。このことを肝に銘じておいてください。平成24年度は共用試験に合格した256名が、病院及び薬局での実務実習を終了しました(表1)。また、Ⅲ期実習の終了した平成25年3月23日(土)に新5年次生、新6年次生を対象に報告会(写真左)を開催するとともに、当日午後からは新5年次生を対象に白衣授与式(写真右)を開催しました。報告会は実務実習に参加した新6年次生には実習全般にわたる総

括することと、新5年次生へ向けて心構えを伝える意味が込められています。また、白衣授与式は医療人の心を大切にしてほしいとの気持ちを込めて、藤田芳一学長より白衣を授与していただきました。医療機関では真っ白な白衣に身を包んで、実習に励んでほしいと思います。平成24年度は第Ⅲ期にインフルエンザが大流行したこともあり、インフルエンザにより病休する学生が多くみられました。医療機関での実習は感染の機会が増大しますので、しっかりと予防対策を行う必要があります。また、感染症ではありませんが3名の体調不良による長期実習中断があり、今年度に補習を予定しています。実務実習は長期間になりますので、体調管理が大きな課題です。

昨年度までは5年次前期に必修科目があったため、Ⅱ期、Ⅲ期だけの実習でしたが、平成25年度より、カリキュラムの変更が行われ3期制Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期(一部の病院では4期制Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期)の

表1 平成24年度 病院・薬局実務実習「都道府県別」リスト

	Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期		計
	病院	薬局	病院	薬局	病院	薬局	
大阪府	4(4)	2(2)	11(1)	95(4)	96	103	311(11)
滋賀県	1(1)		10	10(1)	10	9	40(2)
京都府		1(1)	9(1)	13	10	19	52(2)
兵庫県			13(1)	18	14	13	58(1)
奈良県			7	9	8	7	31
和歌山県			6	2	4	5	17
三重県			1			1	2
愛知県			1				1
計	5(5)	3(3)	58(3)	147(5)	142	157	512(16)

※ () は大学院生・研究生を示す(内数)



報告会



新5年次生対象 白衣授与式

多様な時期の実習選択が可能となっています。今後は、この体制で全期間の実習が可能となります。しかし、時期や実習場所の選択は最終的には近畿地区調整機構（正確には病院・薬局実務実習近畿地区調整機構：薬剤師会、病院薬剤師会、大学の代表者で構成）で決定されるため、学生個々の希望や実習先の指定は原則できません。本校では毎年5～6月頃に当該学生にアンケート調査を行い、できるだけ学生の希望に沿うように大学内で一度調整を行ってから、調整機構に大学の希望案を送ります。しかし、最終的には各大学間の調整や受け入れ施設の意向も考慮されて決定されるため、希望の時期や施設で実習できるとは限りません。その点は了承をお願いいたします。また、平成25年度からは近畿地区以外の地域での「ふるさと実習」も実施可能にしています。出身地での実習を希望される方は、アンケート調査時に記載してください。ただ、故郷での実習場所や時期の調整は、その地区の調整機構にゆだねることになりますので、受け入れてもらえない場合もあります。

実務実習においては、これを円滑に行うために、担当の教員が実習施設を訪問して、指導薬剤師の先生と学生に面談する機会を設けています。実習施設の希望で回数が減る場合もありますが、原則4回訪問して、実習が支障なく行われるように、支援する体制をとっ

ています。また、ほとんどの施設では実習記録システムとして、Webを利用した富士ゼロックスシステム（実習時に使用法を説明します）が採用されていますので、このシステムを利用して簡単に担当教員との連絡が可能です。訪問時や記録システム、または電話連絡も可能ですので、実習時のいろいろな問題も安心して気軽に相談してください。また、本年4月からは事務部門に「臨床教育支援課」が誕生して、事務的にもより一層の充実が図られています。

実習を終えた学生が自信に満ちた表情でしっかり挨拶してくれる姿を見るにつけ、社会人としても、医療人としても「大きくなったなあ！」と感激しており、実務実習による教育成果を実感しています。一方、実務実習は長期間医療の現場で実習させていただくため、ストレスも多いと思われます。体調管理をしっかりして、また、医療機関で働く上での倫理観を持って、気持ちをしっかりして臨むことが大切です。担当する我々特任教授もしっかりフォローしますので、何でも相談してください。実習が終了すると報告書提出と実習に関するアンケート調査を行います。アンケートには無記名で自由に実習に関する意見を記載してもらいます。いつも多数の意見が記載されますので到底すべては載せられませんが、以下には今回多かった内容を中心に列挙しますので、参考にしてください。

実務実習に関する学生の声(抜粋)

- ・服薬指導が多くできた。患者さんと関わることは実習の一番の醍醐味であると思う。
- ・服薬指導の際、失敗してもどんどん行こうと言ってくださり、楽しくなってきました。
- ・患者さんと接する機会を多く与えてくれた。
- ・在宅、学校薬剤師、休日診療所など施設以外の実習がよかった。
- ・疑問点など多くの質問にも丁寧に真剣に答えてくださった。
- ・一般名と商品名との対応ができない。
- ・忙しいときは放任状態となる。
- ・注射剤（輸液、抗がん剤等）について事前にもう少し詳しく勉強したほうがよかった。
- ・抗がん剤のミキシングがよかった。
- ・薬理、薬治、薬動の知識不足。
- ・病態に関する知識が不足している。
- ・コミュニケーション能力の不足。
- ・手術見学やチーム医療への参加がよかった。
- ・NSTや感染予防対策における薬剤師の役割が重要である。

- ・薬理の知識と病態の知識を合わせて考えることができていなかった。
- ・新薬についての勉強会がよかった。
- ・理不尽なことで怒られた。
- ・調剤の時間が長かった。
- ・MRの方と接する機会があり、医薬品業界全体の流れについても学ぶことができた。
- ・経験豊富なベテランの先生が多かったので、貴重なお話を多く聴かせていただいた。
- ・漢方薬局や薬剤師会、医薬品卸などに行き薬局業務の幅広さを感じることができた。
- ・先生方が優しく甘えてしまった。もっと自分自身で積極的に自習すべきだった。
- ・薬の特徴について処方せんが来るたびに説明してくださった。
- ・レセプト請求など実習でしか学べないことを学ぶことができた。
- ・処方内容が偏っている。
- ・薬剤の充填やハンコ押し等雑用ばかりだった。
- ・就職活動との両立が辛すぎた。
- ・在宅医療が精神的に重い。

平成24年度CBTを終えて

5年次生で長期実務実習を履修するためには、薬学共用試験センターが開催する薬学共用試験に合格することによって、基礎的知識や技能・態度が一定の基準に達していることが保証されなければなりません。薬学共用試験には基礎的知識を評価するCBTと技能・態度を評価するOSCEの二つの試験があります。CBTでは、薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠して出題された五者択一問題310問がゾーン1～3の3ゾーン（各ゾーン2時間ずつ）に分けられ、受験者はパソコンを用いて解答していきます。186問以上の正解（60%以上の正答率）で合格となります。

平成24年のCBT本試験は、12月13日と14日の2日間、本学のD棟コンピューター演習室と自習室において行われました。昨年まではパソコンの都合上、3日間で行っていたのですが、情報科学演習室のパソコンをD棟自習室に移動することによって2日間で行うことができました。この2日間で薬学科4年次生と大学院薬科学専攻M2生の合計360名が受験しました。本学では過去3回のCBTで受験者全員が本試験で合格し、再試験が行われることがなかったのですが、残念ながらこの伝統が崩れ、平成25年2月22日に本学で初めてとなるCBT再試験が行われました。しかし再

CBT 実施部会責任者 准教授 井上 晴嗣

試験の結果、大変残念ですが、本学初のCBT不合格者が出てしまいました。CBTが不合格になるとOSCEが合格でも薬学共用試験不合格となり、次年度の長期実務実習を履修できなくなることから、必然的に進級できなくなります。



CBTの各問題の正答率は20～95%と幅がありますが、全体として約80%となるように組み合わせられており、実際の全国平均点もほぼ80%になっています。薬剤師国家試験では、必須問題の90問が出題内容やレベルにおいてほぼCBT問題に相当しますが、国家試験では必須問題の各科目に50%、必須問題全体で70%の足切りがあります。これからCBTを受験する諸君は、単にCBTだけではなく、その2年後の国家試験のことも考え、短期集中で短期記憶とするのではなく、1年間かけてコツコツと勉強し、長期記憶となるよう努力してください。

CBT受験者のコメント・アドバイス

- 早めにたくさん問題を解いて下さい。がんばって下さい(M.T.)。
- 夏休みには始めておいたほうが良いと思う。対策授業、模試の復習は大事だと、CBT終わって感じました(M.O.)。
- 5年次生の科目がおりてきているので、勉強する時間が1つ上の先輩方より少なくなっています。夏休みは時間がたくさんあったので、あの時やっておけばよかったと後悔しました(アラン・ドロン)。
- モシより本試験の方が難しく感じました。広く浅くの勉強がすごく大事だと思います。これはいらんやろーみたいな問題も出たので少しびびりました(AM.)。
- 学校で対策をやってくれるかが重要とかではなく、自分で勉強するかが一番大切(K.M.)。
- 早くから勉強に取り込むことが1番いいと思いました。あと、何回も問題集、模試を繰り返しみることが大切だと思いました(S.M.)。
- 何度も問題を解きなおすのも良い方法ですが、まちがえた問題をしっかり理解して進めていった方が良いとCBTがおわってから気がつきました。そうならないように頑張ってください(M.K.)。
- 勉強する優先度→生物、物理、化学(ゾーン1)。大学の定期マジメにやれば多少ラク!(K.U.)。
- CBTは今まで授業でやってきたことの復習テストみたいなものなので、授業で習ったことをきちんと理解し、勉強することで、CBTのテスト勉強がはかどると思います(K.T.)。
- 基本の基本を確実に押さえるようにした方が良い。今までの授業プリントはとても役に立つ。特に大喜多先生の薬理プリントなど(M.M.)。
- 毎日こつこつちょっとずつやればそんなにしんどい試験じゃないはず。みんな受かるから大丈夫とか思わんと、ちゃんと勉強すべきです。頑張ってください(Y.M.)。
- がんばれ。私はがんばった(S.T.)。

- CBTのネット講座やった方がいい(M.N.)。
- 問題集をとっかかりにポイント集を読むとよいです(M.D.)。
- 4年次生以外の人も普段の勉強をコツコツとやった方がCBTの勉強をする時に役立つので頑張ってください(匿名希望)。
- 自分より早くしっかりと勉強を始めた友達には模試等で差がつけられ、その差を埋めるのはとても大変ですよ(K.Y.)。
- 内容が多いので、苦勞すると思いますが、基礎をまとめて、反復を繰り返せば点はあがります。あとは、模試は結果も大切やけど復習に重点を置くことが大切だと思います。模試とリンクした部分をテキストで確認すると印象が強くなります(S.F.)。
- できるだけ早い時期に問題を解き始めた方がいいと思います。少々覚えていないところでも、実際に問題を解いて解説を読んでいけば徐々に解けるようになっていきます(S.T.)。
- 直前になって焦らないためにも1日に勉強する量は少なくてもいいので早くから勉強することをお勧めします。特に夏休みは利用すべきだと思います(M.O.)。
- やればやるほど点が取れる。早めの対策で、直前に焦らずできるので早めに。衛生薬理は大切(C.G.)。
- 国試まで覚えていられるような勉強をした方がいいと思います。量が多いので全て目を通すだけでも時間がかかりました(M.H.)。
- 今まで全員合格していたけど、勉強しないと絶対落ちると思います。直前でつめたので結構しんどかったです(A.T.)。
- 年々難化していつてると思います。先輩が大丈夫って言われても油断せずに勉強してほしいです。(教科書の赤字からじゃなく、小さい文字の所まで聞かれてました)(T.S.)。

平成 24 年度 OSCE を終えて

OSCE 実施部会責任者 准教授 恩田 光子

平成24年度薬学共用試験 OSCE (Objective Structured Clinical Examination) の実施に際し、教職員の皆様方には多大なるご支援・ご協力を賜り心より御礼申し上げます。簡単ではございますが、実施状況を報告させていただきます。

表1には本試験の概要についてまとめました。本試験において、学生は5つの領域からの合計6つの課題(表1最下欄参照)を受験しました(各課題の試験実施時間は5分で移動時間等を含めると9分)。学生の

表1 平成24年度 OSCE 本試験実施概要

実施日	平成24年12月22日(土)		
実施時間	7:50~18:00 (試験9:30~12:33、13:38~17:41)		
試験場所	D棟2階		
受験学生	4年次生 360名		
評価者	学内(大阪薬科大学)		43名
	大学		52名
	学外	病院	25名
		薬局	24名
模擬患者	56名		
スタッフ	152名		
試験領域(課題)	患者・来局者対応(病棟での初回面談)、 薬剤の調製(散剤調剤および計数調剤)、 調剤鑑査(調剤薬鑑査)、無菌操作の実 践(注射剤混合)、情報の提供(薬局で の薬剤交付)		

試技は、各レーンにつき2名の評価者が担当し、定められた評価表にもとづき評価(細目評価と概略評価)を行いました(同時に受験する48名の学生に対し、96名の評価者が評価)。また、6課題のうち、「病棟での初回面談」および「薬局での薬剤交付」については、それぞれ模擬患者が必要であり、本学 SP 会、神戸 SP 研究会、本学教職員の方々にご協力いただきました。

OSCE 終了後、当日来校されたモニターから、問題なく実施されたとの総括をいただき、無事終了いたしました。各ステーション責任者の先生方等からいただきましたご提示の内容も含め、今年度の OSCE に反映させていただきたく存じます。

OSCE の結果については表2に示しますが、受験生360名全員が本試験にて合格となりました。

今年度はさらに受験生の増加が見込まれております。どうぞよろしくご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

表2 平成24年度OSCE合否結果

試験区分	実施日	受験者数	合格者数	合格基準
本試験	平成24年 12月22日(土)	360名	360名	細目評価70%以上 概略評価5以上

OSCE 体験学生からのコメント

◆「臨床導入実習」「薬学総合演習2」「OSCE」を通して調剤の基礎を身につけることができました。コミュニケーション項目では、自分では気づかなかった話し方や仕草を指摘され、客観的に自分を見つめなおす良い機会となりました。OSCE で学んだことをベースとして、実務実習でさらにスキルアップしたいと思います。(中野 翔太)

◆臨床導入実習、薬学総合演習2は調剤だけでなく対人スキルや、医療現場での薬剤師の関わりも学べるよい機会でした。また、OSCE 本番では緊張のため日頃しないようなミスをしてしまうこともあり、戦々恐々とする場面もありました。4年次生以下の方はこの実習をただこなすだけではなく、1回1回の演習を OSCE 本番だと思い、緊張感を持って授業に勤しむとよいと思います。

(川口 祐司)

◆OSCE に向けていろいろな手技を学ぶことで、調剤の基礎に触れ、一つ一つの動作、手順の意味を考えながら学ぶことができました。薬学総合演習2で項目内容の中で他に得られる知識・情報もたくさんあるのでその日のうちに内容を振り返り、その積み重ねを大切にしながら OSCE 本番に向けて頑張ってください！ 時間をかけて行った分、頑張った分、記憶に残り身につくのではないかな、と思います。

(下村 真美子)

◆私は注射剤の調剤がとても苦手で、何度もアンプルカットの練習をしました。そのおかげで、本番ではきちんと調剤ができました。OSCE は臨床導入実習でしっかり学んでおけば、ちゃんと合格できる試験です。なので、実習でも手を抜かずしっかり学んで欲しいと思います。また OSCE はこれから病院や薬局に実習に行く時に、必要な手技を学ぶものです。ただ単に試験に受かるためにやるのではなく、自分の将来のために活かせるように学んで欲しいと思います。

(正野 貴子)

◆OSCE の本番では、「臨床導入実習」や「薬学総合演習2」で行っている時以上に緊張してしまいました。しかし、あわてず落ち着いて、それまで受けてきたことをしっかりと思い出せたので、安心してできました。この経験を活かして、実務実習に臨みたいと思います。

(藤井 真吾)

◆「臨床導入実習」「薬学総合演習2」「OSCE」を通して、初めて薬剤師としての実践的な学習をすることができ、知識はもちろんコミュニケーションの大切さを学びました。また、実際現場で働いている先生のお話を聞くことで薬剤師としての姿勢ややりがいに対し意識を持つようになりました。この経験を実務実習に活かしていきたいです。

(春日 美香)

第 98 回薬剤師国家試験結果と今後の方針

薬剤師国家試験対策委員長 教授 藤本 陽子

第98回薬剤師国家試験は、平成25年3月2日・3日の両日に実施されました。前年の第97回薬剤師国家試験に続いて、今回が6年制薬学教育課程修了者に対する2回目の国家試験となります。今年の薬剤師国家試験における本学の成績、そして薬剤師国家試験対策の今後の方針について記載します。

第98回薬剤師国家試験における本学の成績を示す前に、まず薬剤師国家試験の実施概要を説明します。表1を見てください。

- (1) 問題数は全部で345問です。
- (2) 問題は必須問題（90問）及び一般問題（255問）に区分され、一般問題についてはさらに薬学理論問題（105問）及び薬学実践問題（150問）に区分されます。
- (3) 必須問題の科目は、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」及び「実務」の7科目です。一般問題のうち、薬学理論問題の科目は「実務」を除いた6科目、薬学実践問題の科目は「実務」を除いた6科目と実務の複合問題及び「実務」単独で構成されます。問題数は記載の通りです。

- (4) 合格基準として、1. 全問題への配点の65%を基本、2. 必須問題は全問題への配点の70%以上、かつ各科目の配点の50%以上、3. 一般問題は各科目の配点の35%以上、となっています。

それでは、表2の第98回薬剤師国家試験成績を見てください。全国（全71校）の合格率は、総数（6年制学生とその他の学生の総和）で79.10%、6年制（6年制学生のみ）で83.60%でした。本学の合格率は、総数で89.55%、6年制で90.15%でした。総数、6年制の両区分とも、全国と私立大学（全54校）の平均合格率を上回りました（総数でプラス10%以上、6年制でプラス7%程度）。また、表3にあるように必須問題、薬学理論問題及び薬学実践問題のいずれの区分においても科目別換算点は全国の平均を上回りました。これらのデータから、本学受験生は奮闘してくれたと思います。第97回薬剤師国家試験での合格率は全国では、総数で88.31%、6年制で95.33%でした。第97回に比べて第98回の全国の合格率は低くなりましたが、前年に掲げた6年制学生の合格率95%以上という本学の目標に届かなかったこと、委員長として申し訳なく存じております。さらに、卒業生から返送されてきた「自

表1 薬剤師国家試験の問題区分

科目	必須問題		一般問題				出題数計	合格基準
	出題数	合格基準	薬学理論問題	薬学実践問題	出題数計	合格基準		
物理・化学・生物	15	各科目 50%以上	30	15 (実務との複合)	45	各科目 35%以上	60	
衛生	10		20	10 (実務との複合)	30		40	
薬理	15		15	10 (実務との複合)	25		40	
薬剤	15		15	10 (実務との複合)	25		40	
病態・薬物治療	15		15	10 (実務との複合)	25		40	
法規・制度・倫理	10		10	10 (実務との複合)	20		30	
実務	10		—	65 (実務以外の複合)	85		95	
			20					
出題数計	90	70%以上	105	150	255		345	65%以上

己採点」の分析結果から、表1に記載されている科目別の足切りが、前年度と同様に厳密に実施されたことがわかりました。今年度の国家試験対策では、第98回薬剤師国家試験成績における反省とともに科目別の足切りを十分に考慮して、実施していきたいと思っております。

ご存じのように、本学は6年制（薬学科）とともに4年制（薬科学科）を併設しています。第98回薬剤師国家試験では6年制（薬学科）の6年生とともに4年制（薬科学科）卒業後さらに修士課程を修了した、いわゆる4+2学生の8名が受験し、全員が合格しました（表2の本学の「その他」に含まれる）。この結果に安堵しているというのが率直な感想です。

これらの結果を踏まえて、ここからは、平成25年度の薬剤師国家試験対策の方針について記載します。

4+2学生については約5ヵ月間の実務実習期間以外で薬学総合演習3・4を実施する計画を立てています。一方、6年制（薬学科）は「薬剤師養成」を第一の目的として設定されたものです。従って、薬学科の6年生については高い国家試験合格率の目標を今年度も掲げたいと思います。すなわち、新卒6年制学生に対して合格者を95%以上に保つこと及び全科目の正答率を全国平均値より上回ることを目標にして国家試験対策を行います。具体的な対策方針は以下の通りです。

1. 6年制学生の国家試験の成績を全国レベルに保つため、個々学生の弱点克服に主眼を置く。
2. 薬学総合演習3・4は本学教員が主体となっており、効果的に授業を進める。
3. 学習到達度の評価を徹底して行い、学習到達度別クラス編成を行って、学生の能力に適した授業を進める。
4. 複数回の総合試験を国家試験形式（345問、2日間）で実施し、その結果を公表して学生の弱点克服に活用する。
5. 薬学総合演習3・4の単位認定は後期後半に実施する正規試験で評価するが、その基準は「第99回

表2 第98回薬剤師国家試験成績

			受験者	合格者	合格率
			(人)	(人)	(%)
本 学	6 年制	男	112	101	90.18
		女	162	146	90.12
		計	274	247	90.15
	その他		13	10	76.92
	総 数		287	257	89.55
私 立	6 年制		9,817	8,153	83.05
	その他		632	90	14.24
	総 数		10,449	8,243	78.89
全 国	6 年制		10,557	8,826	83.60
	その他		731	103	14.09
	総 数		11,288	8,929	79.10

表3 第98回薬剤師国家試験 学校別・科目別・換算点

		受験者	全体	必須	一般	理論	実践
全 国 (A)	合 計	11,288	70.86	84.19	66.16	62.83	68.49
	6 年制	9,664	72.70	86.01	68.00	64.76	70.27
	その他	1,624	59.92	73.36	55.17	51.31	57.87
本 学 (B)	合 計	287	73.54	86.94	68.81	65.68	71.01
	6 年制	271	73.80	87.12	69.09	65.83	71.38
	その他	16	69.26	83.96	64.07	63.10	64.75
差 異 (B)-(A)	合 計		2.68	2.75	2.65	2.85	2.52
	6 年制		1.10	1.11	1.09	1.07	1.11
	その他		9.34	10.60	8.90	11.79	6.88

薬剤師国家試験に合格できる学力を十分に有しているかどうかで判断する。

最後に、薬学総合演習の授業時間は限られているため、すべての項目を取り上げることは不可能です。従って、授業はあくまでも「学習のチェック」に用いるべきであり、学習の本体はあくまでも「自己学習」に置かなければなりません。薬学総合演習3・4の講義、複数回の実践的模擬試験で構成される国家試験対策を最大限に有効活用できるように「自己学習」に励むことが合格への近道であることを肝に銘じてください。

平成25年度 公開教育講座の案内

公開教育講座委員長 教授 高岡 昌徳

大阪薬科大学の公開教育講座は「卒後教育講習会」として1983年に発足して以来、本年で31周年を迎えました。これは全国薬系大学の公開教育講座としては最も長い歴史を持つものの一つであり、参加者も極めて多数にのぼっています。1992年からは「薬剤師の生涯教育」に焦点を絞るとともに、2005年度からは「くすりの作用と副作用～薬物治療における安全管理のために～」をテーマに、医薬品の適正使用をめぐる様々な問題点について、討論の場を提供してきました。

平成25年度は「循環器関連領域」、「小児関連領域」、「アレルギー関連領域」を話題に取り上げ、それらの領域に関する最新の情報から、新しい治療薬の作用と副作用まで、幅広く討論していく予定にしています。

本学の公開教育講座は、日本薬剤師研修センターならびに日本薬学会近畿支部との共催であるとともに、大阪府薬剤師会ならびに大阪薬科大学同窓会の後援により開催されています。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

第63回公開教育講座 平成25年 5月25日(土)

本年度は、初回となる第63回公開教育講座を5月25日(土)に開催しました。まず、本学循環病態治療学研究室教授の林哲也先生に「動脈硬化とアンチエイジング～最新の薬物療法～」についてご講演いただきました。次いで、高槻赤十字病院循環器科部長の大中玄彦先生に「虚血性心疾患～急性期治療から二次予防へ～」

という演題で、臨床の立場からご講演いただきました。会場である梅田スカイビルには、本学の卒業生を含む300名余りの参加者が集い、活発な討論が行われました。

第64回公開教育講座 平成25年 7月27日(土)

今回の第64回公開教育講座では、「小児関連領域をめぐる最近の話題」として、大阪医科大学小児科講師の瀧谷公隆先生と大阪府立急性期・総合医療センター薬局長の室井政子先生に、それぞれ「授乳の生理、母乳と薬剤」および「小児医療の特性と小児特有の服薬指導」について、ご講演いただく予定です。

第65回公開教育講座 平成25年11月30日(土)

次々回の第65回公開教育講座では、大阪医科大学耳鼻咽喉科教授の河田了先生と本学製剤設計学研究室教授の戸塚裕一先生から、「アレルギー関連領域」に関する最近の話題を取り上げていただく予定にしています。

最後に

公開教育講座の詳細は本学ホームページ(<http://www.oups.ac.jp>)にて順次案内しています。また、実務実習を終えた5、6年次の学生は言うまでもなく、新入生から4年次生も自己学習の場として大いに利用してください。



平成25年 5月25日(土) 第63回公開教育講座

平成25年度市民講座

市民講座委員長 教授 松村 人志

大阪薬科大学市民講座は、市民の皆様に医薬品や健康についての理解をより一層深めていただきたいとの趣旨で、本学の特色を活かした講演活動の一環として、企画・開催しているものです。お蔭様をもちまして、本学周辺を中心に、地域住民の方々の年間行事として定着し、この度第35回を開催することができました。これもひとえに多くの皆様方のご支援の賜と、関係者一同、心より感謝いたしております。

去る6月1日(土)に、第35回市民講座を下記の内容で開催いたしました。当日は、367名(学生含む)もの方々にお越しいただきました。今年度の市民講座は、昨年度に引き続き『西洋医学と東洋医学シリーズ』と題して、西洋医学及び東洋医学双方の立場から、病気のとらえ方、向き合い方などについて、際立って成果をあげておられる先生方にご講演をいただきました。さらに講演の後、参加者とともに議論を深めていただくパネルディスカッションを催してまいりました。

今回は「認知症に備え、認知症に取り組む」というサブタイトルで開催いたしました。認知症という身近なテーマということもあり、聴衆の皆様方はとても熱心に講演を聴いておられました。熱のこもったご講演をいただきました武田先生、針田先生のお二人には、心より御礼申し上げます。参加者の皆様方には貴重な情報が得られたのではないかと推察いたします。また、「薬用植物園の見学」、「くすりの相談室」及び「図書館、資料展示室の特別公開」も多くの方々にご参加い

ただきました。ご参集いただきました皆様方とともに、ご協力いただきました先生方や学生の皆様にも心より御礼申し上げます。

さて、今回の第36回につきましては、「健康と長寿のための食を築く」とのサブタイトルを掲げ、西洋医学の観点からは、特定医療法人 仁真会 白鷺病院 副院長 奥野仙二先生にご講演をいただきます。西洋医学の医療現場での知識やご経験に基づき、病気を早く治癒させるための食の工夫や栄養の取り方などについて貴重なお話が伺えるものと思います。他方、東洋医学の観点からは、明德漢方内科 院長 篠原明德先生にご講演をいただくことになっております。篠原先生は漢方医学の専門家でいらっしゃる、日本の食文化と風土に合った食養生、薬膳について、興味深いお話が伺えるものと楽しみにしております。皆様方の健康のために役立つ情報、知識、知恵を発信して参りたいと存じますので、この秋の本講座にも、ふるってご参加いただけますよう、ご案内を申し上げます。

さらに、本学では、高槻市の都市文化の振興とまちの活性化に協力するために、様々な高槻市の事業に参画しております。本年度も「高槻市大学交流センター事業市民講座」を下記のとおり開催いたします。

いずれも、地元の市民の方々はもちろん、本学教職員や学生、ならびにそのご家族の皆様方のご参加をお待ちしております。

第35回大阪薬科大学市民講座 2013.6.1 開催



講師の 武田 雅俊先生(左) と 針田 伸子先生(右)



パネルディスカッション

〔平成25年度市民講座〕（敬称略）

第35回 平成25年6月1日（土）

13:00~16:10（開催済）

『西洋医学と東洋医学シリーズ』

ー第3回 認知症に備え、認知症に取り組むー』

1. アルツハイマー病の早期診断と創薬
大阪大学大学院 医学系研究科精神医学教室
教授 武田 雅俊
2. 漢方の力で、認知症と生きる
医療法人竹村医学研究会 小阪産病院
医長 針田 伸子
3. パネルディスカッション

第36回 平成25年10月5日（土）

13:30~16:40（予定）

『西洋医学と東洋医学シリーズ』

ー第4回 健康と長寿のための食を築くー』

1. 講師：特定医療法人 仁真会 白鷺病院
副院長 奥野 仙二

2. 講師：明德漢方内科 院長 篠原 明徳

3. パネルディスカッション

〔平成25年度高槻市大学交流センター事業関連〕

市内5大学リレー市民講座 夏休み子ども大学

平成25年8月3日（土）9:30~12:00（予定）

『ミクロの世界をのぞいてみよう』

大阪薬科大学 生体機能解析学研究室 講師 坂口 実
大阪薬科大学 生薬科学研究室 准教授 芝野 真喜雄
大阪薬科大学 生体機能解析学研究室 助手 田中 智
会場：大阪薬科大学（C404実習室 予定）

平成25年度高槻市大学交流センター事業市民講座

平成25年11月30日（土）14:00~15:00（予定）

『生活習慣病の予防と治療』

大阪薬科大学 病態分子薬理学研究室
准教授 大喜多 守
会場：高槻市立総合市民交流センター
（7階 第6会議室 予定）

就任のご挨拶



総合科学系 人間文化学グループ
教授 宗前 清貞

ヌチグスイの島から赴任して

私は平成25年4月に人間文化学グループの教授として着任しました。「そうまえ」という名字の字面や響きから前任校のあった沖縄出身だと思われるがちですが、埼玉県出身です。都内の中高を経て東北大学の法学部に進み、アメリカ留学を挟んだ長い大学院生活を送りました。専門は政治学で、特に医療政策を中心に研究を進めています。

政治とは何かをヒトコトで答えるのは大変なのですが（学問では得てしてシンプルな質問こそ難問です）、定義らしきことを言うと「価値の対立を調整する過程」、要するに「意見が分かれて揉めた世の中をまとめること」です。政治学では、数々のもめ事で誰がどういう立場を取ったかを詳

しく分析していくのが通例です。現実の政治では、激しい利害対立があっても各自の主張はそれぞれ相応に正当性があり、譲り譲られを繰り返しながらいては何か収まる。人間社会というのはよくできているものだなあ、という社会観が政治学者である私の基盤にあります。

人間にとって切実な医療という営みでは、専門家の発言力が強いものです。だから私は講義を通じて、科学的知識と社会的文脈の連関を皆さんに意識するような機会を作りたいと考えています。いわゆる理系の訓練と少し趣が違い、最初は（お互いに）戸惑うことも多いでしょう。しかしそれも含めてすべてはうまくいこうと私は楽観しています。なぜか。そうした努力の果てには、薬学知識を媒介に社会全体との対話が可能になるはずですが、薬学を志した者ならその意思を必ず持っています。そしてそういう薬学専門家こそ、社会という生命を支える薬、ウチナーグチ（沖縄語）で言うヌチグスイ（命薬）なのだと私は思います。



臨床実践薬学教育研究室

教授(特任) 恩田 誠二

この度、平成25年4月1日付で、臨床実践薬学教育研究室教授(特任)に就任いたしました。

私は、兵庫県西宮市にありますが「医療法人明和病院」に37年余勤務しておりました。当院は、阪神タイガースのホームグラウンドである甲子園球場の近くにあるため、野球開催日には歓声がよく聞こえます。その「ワァ〜」の声援から今日はビールが美味しく飲めるぞと急いで帰宅するのですが…、裏切られること多々ありでした。(でも、今年こそは〇〇でしょ!?)

4月からの「臨床導入実習」では、コミュニケーション項目を担当しております。環境の違いに戸惑いながら、学生たちから元気・感動を貰いながら、只今一生懸命中です。

6年制卒業の薬剤師の輩出とともに、薬物療法

の有効性、安全性の向上に資する薬剤関連業務に腰を据えた取組がなされ、医療従事者及び患者のための薬物療法に貢献することで「顔の見える薬剤師」から「存在感ある信頼される薬剤師」へとアピールすべく、活動業務を展開していこうとしています。真に「信頼される薬剤師」として認知されるには、我々薬剤師自身が「4年制薬剤師」と「6年制薬剤師」を区分、意識せず融合し、一体化して「薬剤師能」を発揮していけば、その日は速くなり、6年制薬剤師の第1期生、2期生が中堅となる頃には実を結ぶと信じます。

日々変遷する医療に自己研鑽を怠らず、医療人としての資質、基礎知識を備え、良好なコミュニケーションスキルを有した「存在感ある信頼される臨床薬剤師」の育成教育に少しでも寄与できるよう、努力するとともに、「大きな花を咲かせるより、大きく根を張る薬剤師」の育成を自己目標に、臨床基礎教育に微力ながら尽力する覚悟です。

歳は重ねていますが、まだまだ未熟者です。皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。



臨床実践薬学教育研究室

教授(特任) 金 美恵子

この度、平成25年4月1日付で採用になり、早速「臨床導入実習」ではコミュニケーション項目と、「実務実習」を担当しております。大好きなさくらや花々を愛でる間もなくあっというまに3ヶ月が経ち何とか手探りで日々過ごしています。

私は昭和56年に神戸女子薬科大学薬学科を卒業し薬剤師免許取得後、高石加茂病院に入職し、外来調剤を中心にした薬剤師業務と臨床検査業務など広範な業務に追われる毎日でした。その後守口敬任会病院に移り薬局長として、新薬の開発に伴い劇的に変遷してきた病院薬剤師業務に遅れることなく取り組んできました。常に患者さんを自分の家族と想い寄り添い、薬物療法が患者さんを害することがないように最善を尽くす薬剤師でありたいと思ってきました。そのためにも、身近にいる医師や看護師とも治療方針についてディスカッ

ションを行い、臨床検査技師や放射線技師など技術系スタッフや医療ソーシャルワーカーなど様々な医療従事者とのチーム医療を実践してきました。チーム医療を推進するために、コミュニケーションを円滑にすることも大事なことです。病院内のクラブ活動には積極的に参加し、テニスやゴルフ、マラソン、野球などの体育系だけでなく、音楽部ではボーカル、作法、きもの着付けなどの文化系クラブも、またノミケーションなど、得意も不得意もまとめて、「参加することに意義がある」と頑張ってきました。

32年間のこれらの臨床経験を本学の教育の場で貢献できるよう、講義・演習・実習を工夫して、楽しく学んでいただけるようにしたいと思っています。

薬剤師は多方面に涉って能力を発揮できる職業です。「優れた教養」「高い専門性」「豊かな人間性」を備え、「時代の変化に対応できるしなやかな医療人」の養成に努力していきたいと思っています。

皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



臨床実践薬学教育研究室

教授(特任) **小森 勝也**

「起立、礼、お願いしま〜す」で始まった臨床導入実習。自分はこの響きがとても好きだ。まだ、3か月で戸惑いもあるが、学生達との触れ合いを楽しんでいる。

昭和51年に本学を卒業後、薬剤師として国立病院 8 施設に35年間勤務。その間、医療現場が求める薬剤師の役割は大きく変遷し、「薬剤師が主体的に薬物療法に参画するチーム医療の重要性」をひしひしと肌で感じてきた。併せて多くの人との出会いにより、一人ひとりの人間には様々な限界があること、医療は協働で成り立っていること、その源泉には心の交流が存在することを知り得たのである。

病気に苦しむ患者さんがいれば医療が存在する。医療があれば医薬品が必要とされる。患者さんが望むことを突き詰めれば、有効で安全な医療を受けたいという一点に集約されるであろう。医薬品

の使用を最終的に決めるのは、患者さん自身である。薬剤師は「薬剤の適正な使用のために必要な情報を提供しなければならない(薬剤師法第25条の2)」と法的に提供義務が規定されている。情報は人から人へ提供されるものであり、患者さんが自己決定し得るよう、医師とは別の視点から事実に基づいた生きた情報をわかりやすく伝えることが求められている。導入学習では薬の専門家として期待されている役割や手法についてお話することになるが、各個人のモチベーションが向上できるように、お互いが声をかけやすい環境の中で取り組んでいきたいと考えている。

最後に趣味をひとつ。素潜りを始めて35年になる。ポイントは妻の実家。島根半島の北、日本海に浮かぶ隠岐島。眼前に広がるエメラルド色した内海がとても美しい。幼少の頃から海とともに育った妻の教えを受け、今ではサザエ、アワビ、ムール貝と何でもござれ。漁を終え、汐を流した後は海の幸尽くし。アワビは刺身に残酷焼き。サザエは壺焼きもいいが、刺身にすればコリコリ感は最高。白イカは舌に吸いつき、噛めば甘みが追いかけてくる。あまりの美味に思わず目をつむってしまい、隠岐誉(地酒)はぐいぐいすすむ。久々の帰省となる今年の夏がとても待ち遠しい。



臨床実践薬学教育研究室

教授(特任) **脇條 康哲**

平成25年4月1日付で、臨床実践薬学教育研究室に着任いたしました。よろしくお願いいたします。『臨床導入実習』では調剤関連項目を担当しております。

私は、昭和51年に大阪薬科大学を卒業後、民間病院勤務を経て、翌年大阪府技術吏員に採用され、大阪府立羽曳野病院薬局に配属されました。同病院を約10年間勤務したあと、昭和62年、行政職の薬務課勤務を命ぜられ薬務行政に10年間携わりました。平成9年再び医療職に転じ旧府立病院で勤務後、地方独立行政法人大阪府立病院機構に承継し大阪府立成人病センター薬局長を経て、大阪府立急性期・総合医療センター薬局長として勤務い

たしました。

薬務行政時代は、薬局や医薬品販売業と麻薬・毒劇物の監視指導の担当で大阪府麻薬取締員に任じられ麻薬事犯の捜査などにも従事いたしました。また、阪神大震災(平成7年)の際に大阪府の医療救援チームの薬剤師派遣の調整を担当したことから大阪府立急性期・総合医療センターでは、国立災害医療センターの災害医療従事者研修を受講し、災害医療に携わりました。先の東日本大震災(平成11年)では基幹災害医療センターの任務として、薬剤師もメンバーとなっているDMAT隊派遣、その後大阪府立病院機構として医療救援チーム派遣を行いました。

これまでの薬剤師としての麻薬行政や災害医療などの経験をも生かし、母校である本学での優秀な薬剤師養成のために役立ち、薬の専門家だけでなく薬の責任者である薬剤師を育てたいと考えております。

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



製剤設計学研究室

講師 門田 和紀

この度、平成25年4月1日付で、製剤設計学研究室（戸塚裕一教授）の講師として着任いたしました。大阪薬科大学の皆様にご挨拶を申し上げます。

私は、平成18年に同志社大学大学院工学研究科の博士課程を修了後、製薬企業の製剤研究部で6年間勤務しておりました。今回、ご縁があり本学の製剤設計学研究室の講師として着任できたことを大変光栄に思います。

大学では、化学工学を専門としており「粉体」を扱っておりました。中でも特に粒子生成に関する研究を行っておりました。また、コンピューターシミュレーションを用いて、原子レベルでの粒子設計を行っておりました。その後、製薬企業の製剤研究部においては口腔内崩壊錠の処方設計および製法開発や小児用製剤の処方設計から商業化までを担当してきました。皆様も御存知のように、製薬企業ではすでにグローバル時代に突入しており、様々な国の方々とコミュニケーションをとりプロジェクトを進めていく必要があります。特に、製剤学では医薬品の最終剤形として患者様に提供するため、様々な国の法規制の担当者や工場スタッフなどと連携して開発を進める必要があります。

私たちの研究室では海外の方々とともに積極的にコミュニケーションをとり、ともに研究を進め問題を解決することができるような人材育成を目指しております。また、薬剤師を目指す皆様においても、医師、医療スタッフや患者様とのコミュニケーションは非常に重要であります。私は、研究テーマなどに関して日々のディスカッションや問題解決をともに行うこと、コミュニケーション能力を高めることにより社会に貢献できる医療人の輩出を目指しております。

昨年から立ち上がった新しい研究室の一員として、大阪薬科大学の発展に貢献できたら幸いです。皆様方からのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

昨年から立ち上がった新しい研究室の一員として、大阪薬科大学の発展に貢献できたら幸いです。皆様方からのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



製剤設計学研究室

助手 中代 里美

この度、平成25年4月1日付で製剤設計学研究室の助手に就任しました中代里美と申します。今年の春に本学修士課程を修了し、年度を境に学生から教員になりました。現在は、4年次生の「薬

剤学実習」を担当しております。所属する研究室は、平成24年度に戸塚裕一教授が立ち上げられ、今年度から第1期生となる学生が配属されたばかりの新しい研究室です。まだ人数は少ないですが、研究室の立ち上げに携わりたいと意欲を持って集まった学生ばかりなので、とても心強く感じています。

今後は、母校でもある本学の教育と研究に少しでも貢献できるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

有機薬化学研究室

有機薬化学研究室の場所は、研究棟6階北にあり、私の部屋からは、高槻市内が一望できます。雨上がりには、鮮やかな虹をよく見ることができます。また、机から顔を上げると薄暗い山の端からゆっくり美しい月が出てきて驚かされることがあります。

研究室の構成は、私と准教授の宇佐美吉英先生、さらに助手の米山弘樹先生、大学院生が3名、6年次生16名、5年次生18名、4年次生1名それに研究生を合わせて40名を超える大所帯です。

研究内容は、私が以前からの1) ヒスタミン H_3 , H_4 受容体アンタゴニストの研究、2) RNA 触媒の反応機構解明のための化学プローブの合成、宇佐美先生は3) 海洋天然物の合成研究、4) ピラゾールを基質とするクロスカップリングの研究などですが、米山先生が来られ、5) 乳癌増殖抑制物質の研究などの新しいテーマも行っています。有機合成化学を用いる標的化合物の合成から生理活性物質の創製と研究範囲も基礎から応用と広範囲のものです。私達の研究はリン、硫黄といったヘテロ重原子の特性を生かした合成反応か

ら出発しましたが、今は、国内外の他の分野の研究者と協力して研究することが多くなりました。

昨年、アムステルダムで研究発表をしました。その際、アムステルダム自由大学のライデン・アムステルダムセンターを訪問しました。ここは、ヒスタミン研究の中心地として有名で、私がヒスタミン H_3 , H_4 受容体分子の研究をする切っ掛けも、ここからの報告を読んだことからです。以前、私がデザインと合成をした化合物をここに送り、薬理評価していただきました。その中から、世界初となるヒスタミン H_4 受容体選択的リガンドを発見し、共同で報告したことがありました。そのため、私がここを訪問することは長年の願いでした。訪問した時、Maikel Wijtmans 准教授に丁寧な広い研究施設を案内していただきました。同じ研究分野であり、共同で研究発表しましたので、私のことはみなさん知っていました。

私達の研究室でみんなと研究した結果は、実験担当者が通常、学会発表します。その後、論文として報告を世に出しますが、評価の高い研究をいつも目標にしています。

宇佐美先生と米山先生は、学生にとって研究室が楽しく、意義あるものとするため常に配慮されており、学生も機会あるごとに自主的にコンパを開いたり、研究室内で料理をしたり、旅行に出かけたりしています。私も以前のように学生とともに特研旅行にも行きたいのですが、雑務が多くなり、まとまった休みは論文を纏めることにしています。（記：教授 春沢 信哉）



アムステルダム自由大学のライデン・アムステルダムセンターで、Wijtmans 博士と。6/28/2012.
オランダの人は、大きな人が多いということで、彼も巨漢で優しい人でした。



花曇りの摂津桜公園にて。4/3/2013.

（所属学生のコメント）

私達の研究室は、遊びも研究も全力で取り組んでいます。同じ学年だけではなく、後輩、院生、先生方との仲が良く毎日とても楽しく研究活動しています。去年は、研究室のみんなで2泊3日の白浜旅行に行き、海水浴や飲み会、花火など盛りだくさんのイベントで思い出になる旅行になりました。また、第二研究室でも毎月の誕生日会やクリスマス会などの交流を深める機会がたくさんあります。そのおかげでどんな些細なことでも気軽に相談することができ、公私ともに充実した毎日を送っています。

研究に対しては、先生方からのアドバイスを日々頂けるので、ひとつひとつ理解しながら自分たちのペースで実験に取り組むことができます。

また、実験が終わると最上階から見える夜景は格別で、夏になるとPL 花火も見ることができます。研究に対してお互いに助け合うことにより成長し、人と人とのつながりを大切にしている研究室です。

微生物学研究室

微生物学研究室は、B棟3階北側にあり、現在、教員3名（教授：辻坊 裕、准教授：宮本勝城、講師：土屋孝弘）、学部学生34名（6年次生16名、5年次生18名）、博士研究員1名、研究補助員1名から成る、総勢39名の研究室です。

当研究室では、1：「バイオマスの有効利用を目的とするキチンおよびキシラン分解機構に関する分子生物学的研究」、および2：「感染症治療薬の開発を目的とする病原微生物による疾病発症機構に関する分子生物学的研究」を2本柱として研究に取り組んでいます。現在、我々が取り組んでいる主な研究テーマを簡単に紹介させていただきます。

(1) 細菌のキチン分解機構に関する研究

これまでに、海洋細菌 *Pseudoalteromonas piscicida* O-7株および土壌細菌である好熱性放線菌 *Streptomyces thermoviolaceus* OPC-520株をモデル細菌として用い、キチン分解機構の全体像を分子レベルで明らかにしてきました。現在、*P. piscicida* O-7株ならびに *S. thermoviolaceus* OPC-520株を用い、①細菌がどのような分子を介してキチンに吸着しているのか？、②キチン分解産物（*N*-アセチルグルコサミンおよびキチンオリゴ糖）の輸送系の解析、③キチン分解産物の代謝経路に関与する酵素の特定および役割、④キチン分解系、輸送系および代謝系に関与する遺伝子発現調節機構、および⑤食品素材としてのグルコサミンおよびキチンオリゴ糖の酵素生産技術の開発等を目的に研究を行っています。これらの研究を進め、変形関節症の予防に効果があると考えられている *N*-アセチルグルコサミンの工業生産に寄与できればと考えています。

(2) 日和見感染菌 *Vibrio vulnificus* の鉄取り込み機構および病原性に関する研究

V. vulnificus は、汚染された魚介類の摂食や海水の創傷部曝露等を介して、全身性の感染症を引き起こす細菌です。一般に、鉄はほとんどの生物の生存と増殖に不可欠な元素ですが、宿主生体内において病原菌が自由に利用できる遊離鉄は極めて少量です（ 10^{-18} M）。したがって、宿主生体内で増殖し得る病原菌は、何らかの巧妙な鉄獲得系を保持していると考えられます。そこで、臨床分離株 *V. vulnificus* M2799株の鉄獲得系タンパク質を網羅的に明らかにする目的で、プロテオーム解析を行い、本菌の鉄獲得機構に関与する酵素およびタンパク質を特定することができました。これらの酵素やタンパク質の欠損株を作製したところ、いずれも鉄欠乏条件下において、増殖が抑制されました。現在、これらのタンパク質の発現系を構築し、結晶化を試みているところです。

本菌は、肝硬変などの肝疾患をもつ人に感染しやすいことが認められています。その理由を明らかにする目的で、神戸朝日病院との共同研究を進めようとしていくところです。

本菌の病原因子には、鉄獲得機構の他にメタロプロテアーゼ、ヘモライシン、RTX toxin などがあると考えられています。当研究室では、これらの病原因子のうち、ヘモライシンおよび RTX toxin が病原性発現



に中心的な役割を果たしていることを明らかにしております。現在、その病原性発現機構の詳細について検討しているところです。

(3) 日和見感染菌 *Acinetobacter baumannii* の病原性に関する研究

A. baumannii は、土壌や河川水などの自然環境中に生息する細菌で、通常は無害です。一般に、感染症の流行は集中治療室の患者やその他の重症患者で起こり、医療機関の外で起こることはほとんどありません。多剤耐性菌は、通常のアシネトバクター感染症の治療に使用する抗菌薬がほとんど効かなくなっている菌のことであり、院内感染の原因菌として、緑膿菌とともに大きな問題となっています。

健康な人では、本菌が感染しても免疫システムによって本菌は排除され発症することはありませんが、どのようなメカニズムによって排除されているかは明らかになっていません。そこで、そのメカニズムを解明することによって、治療に役立てないかと研究を進めています。本菌が感染すると、感染部位に浸潤してきた白血球（好中球）によって排除されていることが明らかとなりました。さらに、その白血球の浸潤にはNK細胞と呼ばれるリンパ球が関与していることも明らかとなりました。現在、それら細胞の役割について詳細に検討しているところです。また、東海大学医学部と共同で、多剤耐性の本菌の増殖を抑える薬の開発も行っております。現在、その候補となる物質も見つかっており、さらなる検討を加えているところです。

<所属学生のコメント>

私たち微生物学研究室は、先生3人と、博士研究員1人、研究補助員1人の指導の下、6年次生16人、5年次生18人が、毎日研究に励んでいます。

良い結果を出すため、遅くまで研究室に残り実験を繰り返すこともあります。研究テーマについて、グループで勉強したりすることもあります。

その代わり、遊ぶ時もたくさんあり、研究テーマのグループで遊びに行ったり、旅行に行ったり、学年・男女の関係無くとも仲の良い元気な研究室です。

毎年恒例の先生方3人の誕生日会や、年末の忘年会、5・6年次生の親睦会等、イベント事も多いため先生方との距離も近く、研究内容を始めとして何事も相談しやすい雰囲気があることもこの研究室の魅力だと思います。

薬剤学研究室

薬剤学研究室は、前任の森坂勝昭教授から掛見正郎教授に引き継がれて本年度で23年目を迎えています。現在、掛見教授を中心に、岩永一範准教授、宮崎誠准教授をあわせて合計3名のスタッフが担当しています。本年は14名の6年次生、16名の5年次生および大阪医大附属病院薬剤部からの研究生1名の31名でガヤガヤと研究を行っています。4月の摂津峡でのお花見に始まり、5月の研究室旅行（写真は本年の知多半島への旅行時のものです）、6月の学友会主催球技大会、8月には恒例の8大学の薬剤学研究室が集い2泊3日で行われる生物薬剤学サマーセミナーや研究のBBQと様々なイベントが目白押しの中、その合間を縫うように（？）実験を進めています。

それでは現在進めている研究について少し……

医薬品が生体にとって最も望ましい形状で適用され、その効力を最大限に、かつ最も安全に活用されるような投与方法と投与剤形を研究する領域を「薬剤学」といいます。この薬剤学は、さらに「物理薬剤学」「製剤学」「薬物動態学」「医療薬剤学」「臨床薬剤学」等に細分化されますが、このうち当研究室では主に薬物動態学の領域に関する研究を行っています。

以下に主な研究テーマの概要について紹介します。

(1) 薬物のPK-PD解析に基づいた最適投与計画の設計

薬物投与後の薬理効果の時間的変化は、薬物の生体内動態とは必ずしも一致しません。そこで薬物の生体内動態と薬理効果の時間的変化を数学的モデルを用いて関連づけ（PK-PD解析）、薬効の時間的推移の予測を行うことで、薬物のより安全で有効な投与計画の設計に役立てようとしています。

(2) 日内変動を考慮した薬物の最適投与計画の設計

薬物に対する生体の反応（薬理作用）は、各種生体恒常系によって著しく影響を受けていますが、これまでこれらを考慮した薬物投与計画の設定や、製剤設計はほとんど行われてきませんでした。そこでPK-PD解析の手法を用いて、これら生体恒常系の日内変動

（血糖値や血圧などの生体リズム）をも考慮に入れた、薬物の新しい最適投与計画の設定を行おうとしています。

(3) 難水溶性薬物の消化管吸収機構に基づく合理的薬物投与方法の開発

近年、顕著に増加している難水溶性医薬品の消化管吸収メカニズムの詳細については未だ明らかにされていません。そこで、脂質分散系等の特殊製剤使用時における薬物吸収の変化を調べたりすることにより吸収メカニズムを明らかにし、その知見に基づいて、より合理的な投与方法や新規製剤の開発に役立てようとしています。

(4) セリ科生薬含有漢方製剤がP-glycoprotein活性に及ぼす影響

生体防御機構の1つとして小腸、肝、血液-脳関門等にはP-glycoprotein（P-gp）と呼ばれる排出ポンプが発現しています。一方、キョウカツやジャクシ等のセリ科生薬に含有されるフラノクマリンの中には、P-gp阻害活性を有するものがあります。そこで、フラノクマリン含有漢方製剤がP-gpに及ぼす影響を研究することによって、一般に使用される西洋薬と漢方薬間の薬物間相互作用の予測を行おうとしています。

(5) タクロリムスの体内動態に及ぼす脂肪乳剤の影響

臓器移植時に免疫抑制の目的で頻用されるタクロリムスは、極めて脂溶性が高い薬物です。一方、移植後の患者さんの中には栄養確保の目的で脂肪乳剤の静脈内投与を受けている方もおられます。このような患者さんにタクロリムスを併用すると、タクロリムスと脂肪乳剤間で相互作用が生じる可能性があるため、安全な薬物治療の観点からその詳細について調べています。

全ての配属学生がこれらのテーマのいずれかを担当し、新たな発見を求めて日々努力しています。

（記：准教授 岩永 一範）



<所属学生のコメント>

私たちの研究室は、掛見先生、岩永先生、宮崎先生のご指導のもと、薬物動態をテーマに日夜研究に励んでいます。月例会やセミナー発表などで互いに刺激しあい、切磋琢磨しています。しかし、励んでいるのは研究だけではなく、飲み会や野球などのレクリエーションにも力を入れています。特にお酒が入ると先生方も限りなく学生に近いテンションで一緒に盛り上がってくれます。「オンとオフを全力で切り替える！」そんな充実した研究室です。

臨床実践薬学研究室

当研究室の運営は、教員3名（教授 荒川行生、准教授 恩田光子、助手 田中有香）で行っており、現在、学部学生32名（5年次生17名、6年次生15名）、大学院学生1名（薬学専攻博士課程2年次生）及び研究生1名（病院勤務）が研究室に在籍しています。当研究室は、6年制教育の開始の平成18年4月に新設されましたが、これに合わせて、荒川と恩田は、それぞれ、大学病院および大学（医療福祉学部）より着任し、以後、「大学と医療・臨床現場をつなぐ橋渡し」をモットーに、教育と研究に携わってきました。すなわち、当研究室の教員は、教育に関して、実務実習事前学習、薬学共用試験 OSCE 対策、薬剤師国家試験（実務及び法規・制度・倫理領域）対策、薬局実務教育と病院・薬局実務実習などの薬剤師養成に係る各科目、及び、早期体験学習と薬事関連法・制度の各科目を担当しています。

研究は、医療評価薬学・医薬品情報学分野（統計・推計学的手法および経済学的手法による“dry lab.”）と病態解析薬学分野（内分泌生理化学的手法による“wet lab.”）を担当していますが、所属学生の特別研究においては、前者の分野につき一課題を数人のグループ毎に解析・考究する方式を採っています。また、得られた成果についてはできる限り関連学会で（共同）発表できるように指導しています。なお、研究内容に

関しては、そのモットーに基づき、病院や薬局との共同研究も行っており、これら現場から提案されたテーマについても少なからず研究課題としています。現在、所属学生が取り組んでいる課題としては、(1) 慢性疾患管理による地域ケアモデルの構築とその臨床・経済的効果、(2) 地域医療における薬剤師の積極的関与の方策、(3) 情報の非対称性の影響を考慮した専門サービスの品質評価構造の実証、(4) 薬局等における風邪症状患者支援のための面談アルゴリズム作成と有効性、(5) 保険薬局におけるお薬手帳の普及促進、(6) 調剤併設型ドラッグストアにおける生活習慣指導プログラムの構築と有効性の検証、などが挙げられます。

（記：教授 荒川 行生）



《研究室所属5・6年次学生の声》

私たちの研究室では、テーマごとに3～5人ほどのチームに分かれて研究を行っています。少人数チームで先生からのアドバイスを受けながら自分たちのペースで研究に取り組むことのできるメリハリのある研究室だと思います。研究内容としては、薬剤師や患者さんに調査票の質問に答えて頂き、それをパソコンにより統計的に処理し解析を行うことで医療現場の現状を把握し、薬剤師の働き方を考える業務内容・職能調査などを行っています。現在多くの医療機関で注目されている『在宅医療』も私たちが研究しているテーマの一つです。保険薬局の業務内容について調査を行い、薬剤師の在宅医療への関わり方を臨床現場からのデータをもとに統計処理を行い検証しています。さらに週に一度、統計学の勉強会、スモールグループディスカッション、ディベート等を行っており、パワーポイントを使ったプレゼンテーションの練習もしています。研究テーマごとに少人数グループに分かれていますが、わからないところは互いに教え合ったり、全員で高め合いながら研究を行っています。

女子の割合が多い大阪薬科大学の研究室としては、男女の構成バランスが良く、比較的幅広い年齢層のメンバーが集まりやすいというのが当研究室の特徴で、研究テーマのディスカッションなどでも自由で柔軟なアイデアが生まれやすい環境が整っており、見聞を広めるのに適した研究室だと思います。また、5年次生から院生のメンバーまで分け隔てなく意見を出し合ったり、一緒にご飯を食べに行ったりと、楽しくのびのび研究と勉強に取り組める雰囲気大切にしています。課外活動でも、春先に恒例となったお花見や球技大会、特研旅行（前回は沖縄、前々回は長島温泉）などを通じてメンバー同士の親睦を深めています。

研究では、動物を用いたり科学実験を行うことはありませんが、臨床現場の実態、薬剤師や患者さんの生の声を知ることができ、就職した後にも参考になる臨床データを扱っているのも、研究室メンバーは実際に現場に出た時のことを考えながら、対応力のある薬剤師になれるよう研究室活動に取り組んでいます。

平成24年度 進路・就職状況報告

キャリアサポート課

平成24年度 学部卒業生の進路・就職状況について報告します。

本学の学部学生（6年制）の就職率は97.4%です。内定状況としては、薬業関連企業の内勤職〔研究・開発等〕13.0%、MR17.4%と計30.4%の学生が薬業関連企業に就職しています。また、病院26.3%、病院研修生1.9%、薬局21.9%です。さらに公務員14.8%（大阪府、京都府、大阪市、高槻市等）に就職し、今年度も高い合格率を維持しています（平成25年3月31日現在）。

学部6年次生（当時5年次生）は薬局・病院実務実習を3月下旬で終了後、本格的な就職活動時期を迎えました。平成22年度より5年次生実務実習中の就職活動サポートを1月から3月までの土曜日に開催し、

ガイダンス（エントリーシート・履歴書・集団面接・グループディスカッション・個別面接）の参加者も延べ300名を超え成功裏に終えることができました。これらのガイダンスはキャリアサポート課担当者と外部の面接官が連携して実施し、参加した学生からは「就活に向けて意識が高まった！」「自分の弱点が明確になり、就活力が向上した！」との高い評価がたくさん寄せられました。

本学キャリアサポート課では、1年次生からキャリアサポートガイダンス等を実施しています。多様化している学生のニーズ、興味・能力・価値観に沿った進路・就職先選定のために、キャリアサポート部委員、担当職員等を中心にきめ細かな対応に努めています。



■「5年次生 土曜日ガイダンス」

「面接のポイントガイダンス風景」

メイン進行講師と、サポート講師2名によって面接における「良い例／悪い例」を実際に演じて説明しました。学生は個人面接時に見られているポイントや評価視点を学び、個人面接の流れを理解できます。



■「5年次生 土曜日ガイダンス」

「集団面接トレーニング風景！」

学生は2つのグループに分かれて実践し、他のグループを実際に評価することによって、面接官、試験官の視点も学習することができます。

平成24年度 キャリアサポートガイダンス実施状況

No	開催日程	対 象	内 容
1	4月2日	新入生保護者(育友会)	就職説明会「就職状況・キャリアサポート部(課)の取り組みについて」
2	4月4日	1年次生	新入生キャリアガイダンス「夢をかなえるために！」
3	4月5日	5・6年次生他(全学年)	職種紹介学内企業セミナー(病院・薬局・公務員等80社)
4	4月16日	全学生	第1回公務員対策講座
5	5月7日	5年次生	キャリアサポートガイダンス(就職活動を始めるにあたって等)
6	5月7日	6年次生	病院就活ガイダンス
7	5月15日	6年次生	小論文ガイダンスⅠ(病院・公務員希望者等)
8	5月18日	5年次生	文化放送就職ナビ薬学ガイダンス
9	5月22日	6年次生	小論文ガイダンスⅡ(病院・公務員希望者等)
10	5月25日	全学生	第2回公務員対策講座
11	5月	5年次生	個人面談(進路意向確認)
12	6月4日	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」説明会
13	6月8日	全学生	第3回公務員対策講座「直前小論文対策」
14	6月22日	5年次生	マイナビガイダンス
15	6月	6年次生	病院希望者個人相談会(実務実習担当教員との面談)
16	6月27日	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」選考(個人面談)
17	7月4日	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」選考報告
18	7月6日	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」事前教育
19	7月27日	5年次生・大学院生	自己分析セミナーⅠ
20	8月24日	5年次生・大学院生	自己分析セミナーⅡ
21	8月24日	5年次生・大学院生	リクナビの使い方ガイダンス
22	8月	4・5年次生・大学院生	「インターンシップ」実施
23	8月	5年次生・大学院生	模擬グループディスカッション
24	9月29日	4・5年次生・大学院生	インターンシップ体験報告会～パネルディスカッション～
25	11月19日	全学生	第4回公務員対策講座
26	11月22日	5年次生・大学院生	就活に向けての心構え・就活ガイド活用方法・キャリアサポートスケジュールについて
27	11月22日	5年次生・大学院生	就職内定者を囲む会 企業(MR、研究、開発、管理薬剤師、病院、公務員等)+ガイド説明
28	11月29日	5年次生・大学院生	「薬学生就活の進め方」セミナー
29	12月3日	5年次生・大学院生	MR対策講座1(全5回開催)
30	12月3日	5年次生・大学院生	自己分析セミナー
31	12月7日	全学生	第5回公務員対策講座
32	12月10日	5年次生・大学院生	「自己分析・コミュニケーションを高めよう」グループワークセミナー
33	12月11日	5年次生・大学院生	「履歴書を書いてみよう」セミナー
34	12月12日	1・2・3・4年次生	「キャリアサポートガイダンス」就活の準備と心構えについて
35	12月12日	5年次生・大学院生	グループディスカッション・集団面接・面接のポイントセミナー
36	12月17日	5年次生・大学院生	MR対策講座2(全5回開催)
37	12月17日	5年次生・大学院生	魅力的な自己PRと志望動機の書き方について
38	12月21日	5年次生・大学院生	エントリーシートの書き方について
39	12月26日	5年次生・大学院生	職種紹介学内企業セミナー(研究・臨床開発・MR職等)の活用方法について
40	12月27日	5年次生・大学院生	領域別ガイダンス「開発職について」
41	1月26日	5年次生・大学院生	「エントリーシートの書き方」A入門編・B応用編(土曜日ガイダンス)
42	2月2日	5年次生・大学院生	模擬集団面接(土曜日ガイダンス)
43	2月16日	5年次生他(全学年)	職種紹介学内企業セミナー(研究・臨床開発・MR職等)
44	2月23日	5年次生・大学院生	模擬グループディスカッション(土曜日ガイダンス)
45	3月9日	5年次生・大学院生	「面接のポイント」ガイダンス(土曜日ガイダンス)
★	4月4日	5・6年次生他(全学年)	職種紹介学内企業セミナー(病院・薬局・官公庁)

ヨーロッパ薬学研修旅行—平成24年度国際交流基金海外派遣事業—

総合科学系言語文化学グループ 准教授 スミス朋子

平成24年度の後期にも、学生3名に国際交流基金の助成が行われました。4年次生の高岡静香さん、3年次生の高橋知伽さん、2年次生の野浦梓さんです。この3名からは事前に海外で勉強してみたいが、どこに行けばよいだろうと相談を受けていました。国際交流で海外に出向くためには色々な方法がありますが、自分で全て計画を立てるのはかなりの労力を伴います。インターネットに掲載されている留学情報や薬学雑誌「Apotheker」と日通旅行の企画による「ヨーロッパ薬学研修旅行」などを紹介したところ、結局、3名ともこの研修旅行を選択しました。10日間でイギリス・フランス・ドイツの3か国を回り、製薬企業、病院、薬局、大学などを訪問し、ヨーロッパで薬剤師が活躍する様子を学べる研修旅行です。また、フランスでは本学の薬品作用解析学研究室教授の大野行弘先生のお計

らいにより、パリの研究施設も見学させてもらうことができました。

帰国した3名からは、研修旅行はとても充実したもので、それぞれが多くのことを学び、色々なことを感じ取ったようです。研修旅行には、北は北海道、南は佐賀県と、全国からの薬学生が参加しており、1名の薬剤師の方を含む約30名の参加となったそうです。他大学の薬学生や薬剤師の方と交流するのも非常に有意義だったと思います。

この3名のように、海外に興味を持っていて、短期で留学などをしてみたいと思っている人は他にもいると思います。自分の頭の中だけで終わらせず、是非このようなチャンスを利用して海外に出向き、国際交流を体験してみてください。

国際交流基金助成事業報告書

4年次生 高岡 静香
3年次生 高橋 知伽
2年次生 野浦 梓

1. はじめに

この度、私たちは国際交流基金の助成を受けて、薬学雑誌「Apotheker」と日通旅行の企画による「ヨーロッパ薬学研修旅行」に参加しました。この研修旅行では、平成25年3月18日から27日までの10日間でイギリス・フランス・ドイツの3か国へ渡り、病院、薬局などの医療機関・大学や研究施設などを訪問しました。その他にも薬事博物館を訪問し、ヨーロッパにおける薬学分野について詳しく学習することができました。

2. イギリス・ロンドンでの視察

GlaxoSmithKline (GSK)はイギリスに本社を置く世界第4位の売上と規模を誇る製薬企業です。今回はロンドンのWare支社を訪れ、会社の規模や売上・製品の紹介について説明を受けました。支社で主に生産し

ている製品である Advair/Seretide および新製品 Gemini の開発・製造過程を見ながら、製品の構造や成分について詳しく説明していただきました。Advair のデバイスの部品ごとの説明とともに部品が最初から徐々に組み立てられていく過程をガラス越しに実際に目にすることができ、先端技術を駆使した機械や流れを見学し、その開発にかけた博士や技術者たちの情熱と知識・思考の高さを感じることができました。

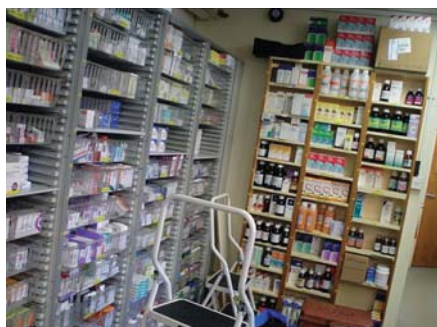
次に、Nelsons Homeopathic Pharmacy を訪問しました。ネルソン社は、1860年にロンドンで最初に設立されたイギリス最大手のホメオパシー薬局です。ホメオパシーとは、日本語で「同種療法」、「類似療法」と訳され、「健康な人間にある特定の症状を起こすものは、その症状を治すことができる。」という「類似の法則」が基本原理で、体の自然治癒力を引き出すことを目的とした治療行為です。日本では科学的・医学的な立証がないことからあまり普及していませんが、イギリス

では王室も古くから利用するなど、普及率と人気は高く、国民健康保険 NHS の適用内でもあるそうです。現在 4 か所のホメオパシー専門の病院があり、イギリスではホメオパスになるための学校も多く設立されているそうです。



ネルソン薬局店内

ロンドンでは、最後に、Royal National Orthopaedic Hospital という19世紀に設立した整形外科専門の第3医療を行う病院を訪問しました。第3医療の病院は、総合病院では十分に対応できない場合、専門の医療を受けるためにあり、総合病院からの紹介で手術の1週間前に転院してきます。使用する薬剤に関しては総合病院で既に決められているため、第3医療病院で新たに調剤することはあまりないそうです。そのため、第3医療病院の薬剤師の重要な役割の一つは、退院する際に、継続して用いる薬を選択することです。二つめは手術後の血栓防止のための薬用量の設定です。また、三つめとしては、看護師に対する薬の教育が挙げられます。イギリスでの薬剤関連の医療事故は1,000床に7回の割合だと言われていますが、この病院では1,000床に1.6回とかなり少ない割合だそうです。薬剤関連の医療事故を減らすための対策として、2か月に1度看護師への教育、ベッド横の薬保管場所に鍵をかけ徹底的に看護師が管理すること、退院時に向けての患者への服用訓練などが実践されています。



病院薬剤部

3. フランス・パリでの視察

パリでは、大阪薬科大学の大野教授に紹介していただき、京都大学大学院を修了後、パリで研究をされている石田さえこ先生を訪問しました。研究施設を見学し、研究内容からパリでの生活まで様々なお話を伺うことができました。石田先生は、パリにある Institut du cerveau et de la moelle epiniere (ICM) という病院と研究室が隣接している施設の研究棟で脳神経についての研究をされています。研究テーマは、てんかんの家族要因についてで、てんかんを持つ家系の DNA を調査し、てんかんを引き起こす遺伝子を特定し、その遺伝子の発現機構など家族遺伝によるてんかんについて調べることでそのてんかん発症を予防できるようになることを目的とされています。

研究施設はとても大きく、様々な機械などの設備がありました。研究室には普段私たちが大学の実験で使用するような器具が多くあり身近に感じましたが、患者の DNA など扱っている機器は見たことのないものばかりだったので、非常に興味深かったです。ICM は病院と隣接していることもあり、研究室と病院との提携が多く、病院に訪れる患者の DNA などサンプルがすぐ手に入るそうです。また、今までの研究に協力してくれた患者のサンプルも保管しており、多種多様なケースのサンプルが迅速に手に入り、すぐに研究に使用することができ、大学などの研究室などと比べるととても大きなメリットがあるそうです。研究室では常に英語で研究室の仲間や上司と交流しているというお話を聞いて、研究意欲や技術だけでなく様々な努力と知識が必要であると感じました。

研究室を見学させていただき、とても貴重な体験となりました。大野先生、石田先生どうもありがとうございました。



ICM 外観



研究所内

4. ドイツ・ハイデルベルグでの視察

ハイデルベルグでは、薬事博物館、ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ大学（通称フランクフルト大学）、そして現地の薬局を訪問しました。まず、薬事博物館では、薬の歴史的な話を伺いました。ドイツでは13世紀ごろから医薬分業が始まり、当時使われていた薬は動物や植物が原料であり、中には原料としてミイラを使ったものまであり、作るのにとても手間がかかりました。そのため、最初は製造も販売も同じところでやっていましたが、それらが分けられるようになり、薬を製造するところが現在の製薬会社に発展していったと考えられているそうです。博物館の中は、昔使われていた薬や、珍しい器具がたくさん展示されており、とても興味深かったです。



薬棚

次に、フランクフルト大学では、薬学部のシステムに関する講義を聞きました。ドイツでは薬剤師国家試験が3回行われます。1回目は2年生修了時に基礎科目を中心とした試験が1つの研究所から出題されます。2回目は4年生修了時に専門分野に関して口頭試験で行われます。3回目は1年間の実習を終えて、実習内容と法律から口頭試験で出題されます。1つの国家試験に対して3回まで受験が可能だそうです。

授業は、45%が実験、20%がセミナー、35%が講義で構成されていますが、ドイツでは動物実験は禁止されているので動物を扱う科目は映像での講義を行うそうです。日本のカリキュラムでは講義が大部分を占めており学生は「受け身」である印象ですが、ドイツのカリキュラムは学生自身が発信する「自発的」な授業が多いように感じました。



講義風景

最後に、ノルトウエスト薬局を訪問しました。ここでは薬局の中を視察しながら、ドイツの薬局のシステムについて説明していただきました。店内は、患者が手に取れる位置にサプリメント、介護用品、化粧品、見えるが手に取れない位置にOTC薬、見えない位置に処方箋薬が置かれていました。ドイツでは薬の販売は箱売りに限られています。例外としては、自分で分けて飲むことが困難な患者に限って、薬を購入後、薬局で保管し朝昼夜分けて届けることが許可されています。

また、ドイツでは薬を売る権限は全て薬局が持っているため、夜中に処方箋をもらった場合は、決められた緊急用の薬局にいかねばなりません。そのため、当番制で必ずどこかの薬局が夜中でも開いています。どの薬局が開いているかは医師や新聞から知ることができます。数か月に1回のペースで当番が回ってくる



ノルトウエスト薬局内

ので、どの薬局にも必ず薬剤師の当直室をつくるのが義務付けられています。他にも、例えば、検査室の壁は三方を壁で囲まなければならないこと、患者の秘密を守ることができる個室の相談室をつくらなければならないことなどが法律で義務付けられています。

5. おわりに

今回、ヨーロッパの3か国の様々な医療機関を訪れることで、日本とヨーロッパの違いを多く見つけました。日本にも取り入れるべきだと思うこと、逆に日本に浸透していることで他国にも知ってほしいと思うことがありました。また、違いだけでなく、新しい情報も多く、これから薬剤師として働くうえで必要な知識をたくさん得ることができ、とても貴重な体験となりました。

ました。そして、将来、自分がどのような薬剤師になるべきかを考えるきっかけにもなりました。

今後、英語の学習もがんばろうと思いました。英語力が十分ではなく通訳の方を介さなければ成り立たない会話も多く、伝えられないもどかしさは相手との距離を遠いものにしていたように感じました。日本でも英語にふれあう機会がたくさんあります。今までその重要性を理解していなかったもので、これからはこの恵まれた環境を最大限に活用していきたいと思います。

助成金をいただき研修旅行に参加できて、多くの知識を得て、貴重な体験ができました。将来薬剤師になるためにこれからの実習や授業、また社会人になってからも今回得られた経験をいかしたいと思います。助成金申請にあたって、大野先生、井尻先生、浅野先生、総務課の方々には大変お世話になり感謝いたします。

TOEIC IP テスト

TOEIC IP テスト受験の勧め

総合科学系言語文化学グループ 准教授 スミス朋子

皆さんは、TOEIC テストを受験したことがありますか？ TOEIC (Test of English for International Communication) は、国際コミュニケーションのための能力を測る英語の試験です。内容的にはビジネスや普段の日常生活で起こるシチュエーションが中心です。就職活動に使えることから、日本ではたくさんの大学生が受験しています。

今回、皆さんにお勧めしたいのが、学内で受験できる TOEIC IP テストです。IP テストは、団体が任意に日時・場所を設定して実施するもので、多くの企業や大学で活用されています。公開テストのような公式認定証は発行されませんが、テスト結果の意味は同じで、スコアは就職活動で十分に使えるそうです。本学では、平成23年度後期より IP テストを実施しており、これまで300名以上（延べ数）の学生が受験しています。昨年度まで育友会の援助を受けていましたが、今年度から受験料は大学が全て負担することになりました。

テストの構成は、リスニングセクション（45分間・100問）とリーディングセクション（75分間・100問）からなり、2時間で200問に答えます。リスニングセクションでは、会話やナレーションを聞いて解答します。リーディングセクションでは、レストランやお店

の広告、Eメール、雑誌の記事の抜粋などを読んで解答します。テストの結果は、可否では行われず、10点から990点までのスコアで評価されます。

TOEIC テストは、スピードが要求され、問題を瞬時に答えなければならず、初めから高得点を獲得するのは容易なことではありません。しかし、じっくり勉強を続け、実力を高めていけば、スコアは自然と伸びていきます。ですから、まず1度受験して自分の実力を把握し、目標を設定してください。そして、できれば半年に1回、最低でも1年に1回受験して、2～3年間で目標のスコアを手にしていく方法が理想的だと思います。実際、本学の学生でも400点台のスコアから数年かけて勉強して、就職で大きく有利になる730点以上を獲得するまでに努力した先輩たちがいます。「まだ、低学年だからもう少し先に受験しよう」とのんびり構えるのではなく、できるだけ早く受験してください。そして高学年の人もこのチャンスを逃さず、是非受験してください！



平成 24 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業活動状況

研究代表者 教授 辻坊 裕

大阪薬科大学では、文部科学省による私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の選定を受けて、平成23年度から「組織的研究体系による次世代型感染症治療薬の開発」を課題とする研究プロジェクトがスタートし、本年度で3年目を迎えます。

近年、数多くの優れた抗菌薬が開発され、臨床での治療効果を上げています。その一方で、新興感染症、再興感染症、日和見感染症、さらには多剤耐性菌による感染症などの問題が多発しています。特に、緑膿菌、結核菌、アシネトバクター菌などの多剤耐性菌は、種々の疾病により免疫力が低下した場合、容易に感染が成立し、現在使用されている抗菌薬ではほとんど効果が期待されません。また、これら多剤耐性菌が医療環境に一旦蔓延すると、駆除や排除が困難であり、それを達成するには多大な労力と経費が必要となります。これらのことから、従来の抗菌薬に代わる新たな作用機作を有する新規抗菌薬の開発が待望されています。

近年、次世代シーケンス法の導入により、感染症原因菌のゲノム情報が次々と明らかにされ、病原菌と非病原菌間の比較ゲノム解析による創薬を行うことが可能となりつつあります。しかしながら、最も基礎研究がなされている大腸菌でさえ、機能未知タンパク質が約40%存在します。さらに、ゲノム創薬において実際にその標的となるのは、受容体や酵素などのタンパク質であります。ゲノム解析のみではタンパク質間相互作用を理解することはできないため、ポストゲノム時代においてはプロテオーム創薬が重要な手法の一つとなっています。我々は、臨床分離株である *Vibrio vulnificus* M2799株を用いて、鉄存在下および欠乏下におけるプロテオーム解析を行い、主に本菌の鉄取り込み機構の全体像を分子レベルで明らかにする目的で研究を行っているところです。現在までに得られた結果に基づいて作成された *V. vulnificus* M2799株の鉄取り込み機構に関するタンパク質をコードする遺伝子の欠損株を作製したところ、いずれの欠損株も鉄欠乏下で増殖が抑制されていることが認められました。これらのタンパク質のうち、細胞内でシデロフォアであ

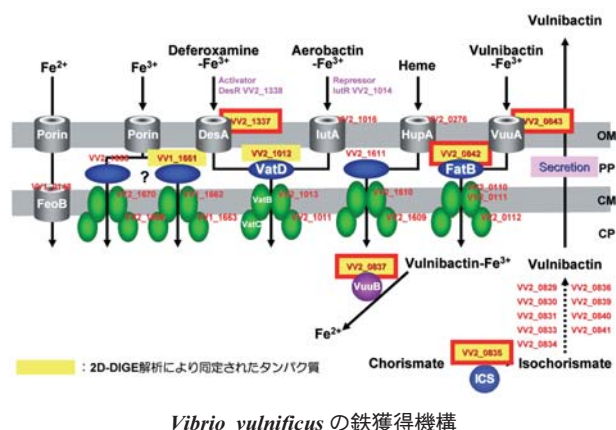
るバルニバクチンと結合した Fe^{3+} を Fe^{2+} に還元する Ferric reductase VuuB の結晶化および解析を行い、原子レベルで VuuB の立体構造を明らかにすることができました。現在、他の酵素およびタンパク質の発現および結晶化を進めているところです。一般に *V. vulnificus* は、肝臓に何らかの基礎疾患のあるヒトに感染しやすいと考えられています。我々は、神戸朝日病院との共同研究で、このメカニズムを明らかにすべく研究を進めているところです。本プロジェクトでは、細菌の増殖に必須である鉄の取り込み機構を明らかにし、それに関わるタンパク質の構造解析や生化学的解析を通じて、感染症治療薬の開発につなげたいと考えています。

本研究プロジェクトは、分子構造・機能解析学領域に所属する薬品物理化学研究室、薬品分析化学研究室、生化学研究室、中央機器研究施設および微生物学研究室によって実施されるため、プロジェクトを組織的に遂行し、効率よく研究成果を挙げることができます。このように、本研究プロジェクトは、大阪薬科大学における共同研究による創薬の基盤形成の核となる役割も担っているものと考えています。さらに1名の博士研究員（ポストドクター）ならびに研究補助員が、本プロジェクトの進展に貢献してくれております。

現在、研究プロジェクト「組織的研究体系による次世代型感染症治療薬の開発」の目標達成に向け、各研究室（表参照）において研究が鋭意推進されているところであります。今後とも皆様方のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究組織

番号	氏 名	研 究 室	課 題
1	辻坊 裕教授 宮本勝城准教授 土屋孝弘講師	微生物学	細菌の増殖機構に関与する新規タンパク質の探索
2	友尾幸司准教授 尹 康子准教授	薬品物理化学	細菌の増殖機構に関与する新規タンパク質の構造解析および新規感染症治療薬の分子設計
3	箕浦 克彦講師	中央機器研究施設	細菌の増殖機構に関与する新規タンパク質の構造解析および新規感染症治療薬の分子設計
4	福永理己郎教授 井上晴嗣准教授 藤井忍講師	生化学	細菌の増殖機構に関与するタンパク質の機能解析および酵素科学的解析
5	三野 芳紀教授 佐藤 卓史講師	薬品分析化学	細菌の無機元素輸送体を標的とする新規阻害剤の探索
6	博士研究員 河野 広朗 研究補助員 五十嵐智子		細菌の増殖機構に関与する新規タンパク質の探索 細菌の増殖機構に関与する新規タンパク質の構造解析



三大学医工薬連環科学教育研究機構の活動状況（その4）

准教授（特任） 銭田 晃一

今回は、関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学三大学医工薬連環科学教育研究機構が行っている「高槻家族講座」について紹介させて頂きたいと思います。

「高槻家族講座」は子どもから高齢者まで、世代を超えて参加していただける企画として考えられたもので、三大学の連携自治体にある高槻商工会議所のご協力や高槻市内に縁のある企業の協賛のもとで実施されています。三大学の事業ですが、初回から現在に至るまで、毎回本学に於いて開催されています。講座は二部構成になっており、第一部は開催テーマに関する「講演」を2名の演者が行い、第二部は「こども体験コーナー」と称して子どもたちがテーマの題材の手作りに挑戦するなど、楽しみながら学ぶ機会を提供しています。前年度は、平成25年1月26日（土）に、通算7回目となる本講座を株式会社 明治 の協力で「おいしいくすり、チョコレート」をテーマに行いました。開催がバレンタインデー目前ということもあってか、講演には過去最多となる234名が、事前予約が必要なこども体験コーナーは小学生34名とその保護者の方々が参加され、定員を増やしての大盛況となりました。

明治の講演ではチョコレートの歴史や豆知識の紹介がありました。特に製造工程についてはサンプルが全員に配布され、参加者は試食をしながらおいしいチョコレートができるまでを文字通り“体感”することができました。カカオ脂の結晶多型は椅子の模型のイラストを用いて説明され、化学になじみの少ない方々に対しても理解しやすいように工夫されていました。

3月末で退官された本学学生薬科学研究室 前教授の

馬場きみ江先生は薬学的視点からカカオに含まれるポリフェノールやテオブロミンなどの化学構造や薬理作用、以前はカカオ脂が坐薬の基剤として用いられたことから坐薬の使い方についてのアドバイスを、最後はチョコレートを楽しむための注意点に至るまで幅広いお話を聞かせてくださいました。

こども体験コーナーは食堂にて「みんな大好き！あのチョコレート菓子に挑戦！」と題して、手作り体験が行われました。子どもたちはパティシエのお手本となる実演を目の前で見たあと、自分達のテーブルに戻って温度計を片手にテンパリングに挑戦し、楽しく学習しながらチョコレート菓子「きのこの山」を完成させました。今回受講した子どもたち全員に「チョコレート博士」の称号の修了書が授与されました。

今年度は12月にクラシエフーズ(株)の共催で本講座を開催することが決定しています。

最後になりますが、本学では2年次生の学生さんに対する前期の選択科目として「医工薬連環科学」の双方向授業が行われています。後期にも関西大学工学部、大阪医科大学との受配信が予定されています。薬学部ではなかなか聞くことができない他学部の講義を本学で聞くことができますので、是非受講して広い視野と知識を身につけてください。



大盛況となった講演会場の風景



パティシエの実演を熱心に見る子どもたち



もうすぐ完成！

薬 用 植 物 園

薬用植物園長 教授 谷口 雅彦

本学の薬用植物園はキャンパスの東端にテニスコートと隣接して設置されています。その敷地面積は4,995 m²で、約300種の重要薬用植物を含め、800種を超える植物が丹念に育てられ、植物名、利用部位、生薬名、薬効、主な漢方製剤名、成分名などが記載されたラベルとともに展示しており、学生や市民の見学に供しています。

標本園区域：多くの薬用植物（トウキ、シャクヤク、ウラルカンゾウ、シナマオウ、オケラ、サフランなど）が植栽されており、季節に応じて様々な植物の形態が観察できます。

温室：熱帯や亜熱帯の薬用植物を中心に、普段目にすることのない珍しい植物（シナニッケイ、ニオイストロファンツ、イランイランノキ、ミラクルフルーツなど）もたくさん展示しています。

水生植物コーナー：温室の周りに設けており、サジオモダカ、コウホネやミクリなどとともに今春、春の七草であるセリと間違え、中毒を起こしたドクゼリも違いが分かるように並べて展示しています。

標本室：C棟4階の標本室に約4,700点の生薬標本と約4,000点のさく葉標本を保管しています。生薬標本は利用部位ごとに整理しているほか、入手した生薬市場（香港、シンガポールなどアジア各地の市場等）や業者からの寄贈等に従って分類しています。また、貴重なメルク標本（棚付き）も保有しています。さらに、同窓生の林 明美氏（昭和24年卒）から寄贈された中国の生薬標本（約200点）は生薬調製の場所や時期、基原植物の栽培または採集などの重要事項が明記されており、その高品質性ととともに生薬標本のモデルになっています。

また、本園の特徴としては以下のことが挙げられます。

- 1) 多くの科にわたる約300種の重要薬用植物を含め、800種を超える植物が植栽されている。科の植物学的特徴を理解するのに役立っている。

- 2) 春から夏にかけて開花する品種が多く集められており、講義の進行に合うように工夫されている。
- 3) 学生が落ちついて植物の観察やスケッチができるように、課題植物が配置されている。
- 4) 温室やビニールハウスが設置されており、季節を問わず様々な薬用植物の観察が可能となっている。
- 5) 研究に供した植物と現在供している植物を標本として保有している。（セリ科植物、ナス科植物、マメ科カンゾウ属植物など）
- 6) 苗床が整備され、苗から植物の成長を観察できる。
- 7) キャンパス内に設置されており、学生が身近に薬用植物にふれあうことができる。

本学学生は自由に本園を見学することができますが、学外の見学希望者に対しては、大学祭時に漢法医学研究部が中心となる見学会のほか、毎月第3土曜日（8月及び12月～3月を除く）10時から教員および植物園のスタッフが対応する見学会が開催されています。

本園は、公益社団法人日本植物園協会の第四部会（薬用植物を扱う専門植物園）に所属しており、各薬用植物園と積極的に共同研究することにより、より充実した薬用植物園を目指しています。その例として、武田薬品工業株式会社京都薬用植物園と「生薬甘草の国内栽培に向けた基礎研究」の共同研究を行い、着実に成果を上げてきました。また、東京都島しょ農林水産総合センターと「高カルコンアシタバの系統育成」の共同研究を行い、栽培種に比べてカルコン含有量が約1.5倍高い系統育成に成功しています。

研究や地域への貢献に対して本学薬用植物園の役割は一応の成果を上げてきたと考えられますが、主たる目的である学生教育への貢献度はまだまだ低いと考えられます。少しでも多くの学生が薬用植物園に足を運び、教科書では学べない新しい発見をしてもらうため、見学の機会を与えていきたいと思っていますが、皆さんの自主的な活用も期待しています。



標本園区域



温室と水生植物コーナー



標本室（メルク標本）

平成24年度学校法人決算及び平成25年度学校法人予算

事務局長 秋月 延夫

平成24年度決算

学校法人大阪薬科大学の平成24年度決算については、平成25年 5 月21日(火)に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録及び監事監査報告書を掲載し、その概要を説明します。

(資金収支計算書)

平成24年度の資金収支は、主な収入源である学生生徒等納付金収入が、予算を 1 億1,761万円上回りました。また、主な支出源である人件費支出が、予算を 1 億6,462万円下回りました。その結果、次年度繰越支払資金は41億6,974万円となりました。

平成25年度予算

学校法人大阪薬科大学の平成25年度予算については、事業計画及び予算編成方針に基づき、予算委員会の審議を経て編成を行いました。平成25年 3 月26日(火)に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、資金収支予算書・消費収支予算書を掲載し、資金収支科目を中心に、その概要を説明します。

<収入の部>

(学生生徒等納付金収入)

学部新入生は入学定員(300名)として予算編成し、授業料23億7,360万円、入学金 1 億4,000万円、施設設

備費11億8,320万円他を計上しました。

(補助金収入)

私立大学等経常費補助金 2 億4,610万円、研究設備整備費等補助金2,330万円他を計上しました。

(事業収入)

附属薬局の収入予算 5 億6,000万円他を計上しました。

<支出の部>

(人件費支出)

教員人件費は11億4,935万円、職員人件費は附属薬局分を含め 5 億4,797万円他を計上しました。

(教育研究経費支出)

5 年次生病院・薬局実務実習費、教育研究用消耗品費他、計10億6,906万円を計上しました。

(管理経費支出)

附属薬局費支出 5 億952万円他、計 6 億4,863万円他を計上しました。

(施設関係支出)

建物支出として C 棟 2F 講義室 LED 照明更新工事、RI 研究施設中央監視装置更新工事他、計2,774万円他を計上しました。

(設備関係支出)

教育研究用機器備品支出として、1 億7,031万円他を計上しました。

■平成24年度決算

平成24年度 資金収支計算書

平成24年 4 月 1 日から
平成25年 3 月 31 日まで

(単位 : 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,629,600,000	3,747,210,000	△117,610,000
手数料収入	71,600,000	110,413,250	△ 38,813,250
寄付金収入	10,000,000	20,928,658	△ 10,928,658
補助金収入	255,600,000	255,906,538	△ 306,538
国庫補助金収入	254,000,000	255,792,000	△ 1,792,000
高槻市結核対策費補助金収入	100,000	114,538	△ 14,538
学術研究振興資金収入	1,500,000	0	1,500,000
資産運用収入	52,700,000	62,706,633	△ 10,006,633
資産売却収入	1,300,000,000	1,400,000,000	△100,000,000
事業収入	504,000,000	567,257,397	△ 63,257,397
雑収入	45,000,000	13,695,182	31,304,818
前受金収入	413,900,000	473,920,000	△ 60,020,000
その他の収入	318,884,000	300,786,484	18,097,516
資金収入調整勘定	△521,500,000	△605,894,408	84,394,408
前年度繰越支払資金	3,216,087,000	3,338,522,094	
資金収入の部合計	9,295,871,000	9,685,451,828	△389,580,828

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,741,972,000	1,577,352,919	164,619,081
教育研究経費支出	1,019,384,000	882,880,142	136,503,858
管理経費支出	577,695,000	639,207,870	△ 61,512,870
借入金等利息支出	11,600,000	11,586,629	13,371
借入金等返済支出	266,700,000	466,640,000	△199,940,000
施設関係支出	46,030,000	42,757,600	3,272,400
設備関係支出	83,207,000	86,457,720	△ 3,250,720
資産運用支出	1,800,000,000	1,741,710,000	58,290,000
その他の支出	285,540,000	231,273,442	54,266,558
[予備費]	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△237,139,000	△164,156,516	△ 72,982,484
次年度繰越支払資金	3,680,882,000	4,169,742,022	△488,860,022
資金支出の部合計	9,295,871,000	9,685,451,828	△389,580,828

平成24年度 消費収支計算書

平成24年 4月1日から
平成25年 3月31日まで
(単位 : 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	3,629,600,000	3,747,210,000	△117,610,000
手 数 料	71,600,000	110,413,250	△ 38,813,250
寄 付 金	10,000,000	26,921,646	△ 16,921,646
補 助 金	255,600,000	255,906,538	△ 306,538
国 庫 補 助 金	254,000,000	255,792,000	△ 1,792,000
高槻市結核対策費補助金	100,000	114,538	△ 14,538
学術研究振興資金	1,500,000	0	1,500,000
資 産 運 用 収 入	52,700,000	62,706,633	△ 10,006,633
資 産 売 却 差 額	900,000	964,000	△ 64,000
事 業 収 入	504,000,000	567,257,397	△ 63,257,397
雑 収 入	45,000,000	19,399,462	25,600,538
帰 属 収 入 合 計	4,569,400,000	4,790,778,926	△221,378,926
基本金組入額合計	△203,000,000	△427,784,943	224,784,943
消費収入の部合計	4,366,400,000	4,362,993,983	3,406,017

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費	1,702,072,000	1,537,867,919	164,204,081
教 育 研 究 経 費	1,413,684,000	1,225,743,133	187,940,867
管 理 経 費	633,295,000	683,903,268	△50,608,268
借 入 金 等 利 息	11,600,000	11,586,629	13,371
資 産 処 分 差 額	2,500,000	6,354,473	△3,854,473
[予備費]	20,000,000		20,000,000
消費支出の部合計	3,783,151,000	3,465,455,422	317,695,578
当年度消費収入超過額	583,249,000	897,538,561	
前年度繰越消費収入超過額	648,420,000	688,713,670	
翌年度繰越消費収入超過額	1,231,669,000	1,586,252,231	

貸借対照表

平成25年 3月31日
(単位 : 円)

資 産 の 部			
科 目	平成24年度末	平成23年度末	増 減
固 定 資 産	20,558,246,875	20,052,377,445	505,869,430
有 形 固 定 資 産	16,698,892,363	16,940,190,017	△ 241,297,654
土 地	8,721,420,350	8,721,420,350	0
建 物	5,542,559,350	5,711,555,680	△ 168,996,330
その他の有形固定資産	2,434,912,663	2,507,213,987	△ 72,301,324
その他の固定資産	3,859,354,512	3,112,187,428	747,167,084
流 動 資 産	4,933,975,546	4,678,803,439	255,172,107
現 金 預 金	4,169,742,022	3,338,522,094	831,219,928
その他の流動資産	764,233,524	1,340,281,345	△ 576,047,821
資 産 の 部 合 計	25,492,222,421	24,731,180,884	761,041,537

負 債 の 部			
科 目	平成24年度末	平成23年度末	増 減
固 定 負 債	671,756,589	1,116,925,869	△ 445,169,280
長 期 借 入 金	0	399,980,000	△ 399,980,000
その他の固定負債	671,756,589	716,945,869	△ 45,189,280
流 動 負 債	835,634,033	954,746,720	△ 119,112,687
短 期 借 入 金	200,000,000	266,660,000	△ 66,660,000
その他の流動負債	635,634,033	688,086,720	△ 52,452,687
負 債 の 部 合 計	1,507,390,622	2,071,672,589	△ 564,281,967

基 本 金 の 部			
科 目	平成24年度末	平成23年度末	増 減
第 1 号 基 本 金	22,068,579,568	21,684,794,625	383,784,943
第 3 号 基 本 金	85,000,000	85,000,000	0
第 4 号 基 本 金	245,000,000	201,000,000	44,000,000
基本金の部合計	22,398,579,568	21,970,794,625	427,784,943

消費収支差額の部			
科 目	平成24年度末	平成23年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	1,586,252,231	688,713,670	897,538,561
消費収支差額の部合計	1,586,252,231	688,713,670	897,538,561

科 目	平成24年度末	平成23年度末	増 減
負債・基本金・消費収支差額の部合計	25,492,222,421	24,731,180,884	761,041,537

財 産 目 録

平成25年 3月31日
(単位 : 円)

I 資産総額	25,492,222,421	II 負債総額	1,507,390,622
内 基本財産	16,749,965,175	III 正味財産	23,984,831,799
運用財産	8,742,257,246		

区 分	金 額
資 産 額	
1 基 本 財 産	16,749,965,175
土 地	59,259,53㎡ 8,721,420,350
建物 (付属設備を含む)	35,734,80㎡ 5,542,559,350
図 書	91,683冊 1,355,784,358
構 築 物 ・ 機 器 備 品	2,016本 1,075,845,041
そ の 他	1,999点 54,356,076
2 運 用 財 産	8,742,257,246
現 金 預 金	4,169,742,022
そ の 他	4,572,515,224
資 産 総 額	25,492,222,421

区 分	金 額
負 債 額	
1 固 定 負 債	671,756,589
長 期 借 入 金	0
そ の 他	671,756,589
2 流 動 負 債	835,634,033
短 期 借 入 金	200,000,000
そ の 他	635,634,033
負 債 総 額	1,507,390,622
正味財産 (資産総額－負債総額)	23,984,831,799

監事監査報告書

平成25年 5月17日

学校法人 大阪薬科大学

理事長 井上 通敏 殿

学校法人 大阪薬科大学 監事 露口 佳彦

監事 出水 順

私たちは、学校法人大阪薬科大学の監事として、私立学校法第37条第3項並びに寄附行為第33条に基づいて同学校法人の平成24年度（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）における財産目録及び計算書類（貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書）を含め、学校法人の業務及び財産に関し監査を行いました。

私たちは、監査にあたり、理事会及び評議員会に出

席し、理事から業務の報告を聴取し、会計監査法人と連携し、計算書類について検討を行うなど必要と思われる監査手続を実施しました。

監査の結果、私たちは、学校法人大阪薬科大学の業務及び財産の状況は適切であり、不正の行為または法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認めました。 以上

■平成25年度予算

平成25年度 資金収支予算書

平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで

(単位：千円)

収 入 の 部			
科 目	平成25年度予算	平成24年度予算	増 減
学生生徒等納付金収入	3,698,300	3,629,600	68,700
手数料収入	71,600	71,600	0
寄付金収入	10,000	10,000	0
補助金収入	275,000	255,600	19,400
国庫補助金収入	272,400	254,000	18,400
高槻市結核対策費補助金収入	100	100	0
学術研究振興資金収入	2,500	1,500	1,000
資産運用収入	42,500	52,700	△ 10,200
資産売却収入	585,000	1,300,000	△ 715,000
事業収入	565,000	504,000	61,000
雑収入	29,800	45,000	△ 15,200
前受金収入	416,000	413,900	2,100
その他の収入	241,640	318,884	△ 77,244
資金収入調整勘定	△ 539,800	△ 521,500	△ 18,300
前年度繰越支払資金	3,727,964	3,216,087	511,877
資金収入の部合計	9,123,004	9,295,871	△ 172,867

支 出 の 部			
科 目	平成25年度予算	平成24年度予算	増 減
人件費支出	1,762,140	1,741,972	20,168
教育研究経費支出	1,069,062	1,019,384	49,678
管理経費支出	648,636	577,695	70,941
借入金等利息支出	1,800	11,600	△ 9,800
借入金等返済支出	200,000	266,700	△ 66,700
施設関係支出	28,580	46,030	△ 17,450
設備関係支出	200,780	83,207	117,573
資産運用支出	1,975,000	1,800,000	175,000
その他の支出	245,400	285,540	△ 40,140
[予備費]	20,000	20,000	0
資金支出調整勘定	△ 206,598	△ 237,139	30,541
次年度繰越支払資金	3,178,204	3,680,882	△ 502,678
資金支出の部合計	9,123,004	9,295,871	△ 172,867

平成25年度 消費収支予算書

平成25年4月1日から
平成26年3月31日まで

(単位：千円)

消 費 収 入 の 部			
科 目	平成25年度予算	平成24年度予算	増 減
学生生徒等納付金	3,698,300	3,629,600	68,700
手数料	71,600	71,600	0
寄付金	10,000	10,000	0
補助金	275,000	255,600	19,400
国庫補助金	272,400	254,000	18,400
高槻市結核対策費補助金	100	100	0
学術研究振興資金	2,500	1,500	1,000
資産運用収入	42,500	52,700	△ 10,200
資産売却差額	0	900	△ 900
事業収入	565,000	504,000	61,000
雑収入	29,800	45,000	△ 15,200
帰属収入合計	4,692,200	4,569,400	122,800
基本金組入額合計	△ 1,313,000	△ 203,000	△ 1,110,000
消費収入の部合計	3,379,200	4,366,400	△ 987,200

消 費 支 出 の 部			
科 目	平成25年度予算	平成24年度予算	増 減
人件費	1,742,870	1,702,072	40,798
教育研究経費	1,403,062	1,413,684	△ 10,622
管理経費	696,736	633,295	63,441
借入金等利息	1,800	11,600	△ 9,800
資産処分差額	1,840	2,500	△ 660
[予備費]	20,000	20,000	0
消費支出の部合計	3,866,308	3,783,151	83,157
当年度消費支出超過額	487,108	0	
当年度消費収入超過額	0	583,249	
前年度繰越消費収入超過額	1,454,398	648,420	
翌年度繰越消費収入超過額	967,290	1,231,669	

学生相談室だより

学生相談室相談員 川端 康雄

「いつやるか? 今でしょ」

今年に入ってCMやバラエティー番組でどのくらいこのフレーズを聞いたでしょうか。おそらく今年の流行語に入ることは間違いない!でしょう。そういえば「間違いない」も数年前に流行りましたね。流行の理由にはカリスマ性溢れる予備校講師のキャラクターによるところも大きいと思いますが、それと同時にこのフレーズのなかに誰もがドキッとするような内容が含まれているからかもしれません。少なくとも私はそのうちの一人です。

あなたには今やらなければならないけど、回避していたり、先延ばしにしていることはありませんか? 講義レポート、飲み会の段取り、先輩からの頼まれごと、歯科受診、好きな人への告白などなど。学生生活には何かと期限や締め切りが多く、いつもギリギリになるまで回避したり、先延ばししたりすることがありますよね。一方、告白には期限がないような気がしますが、告白を逡巡しているうちに、お目当ての人が誰かと付き合ってしまうかもしれないという意味では見えない期限や締め切りがあるのかもしれません。実は私もこの学報の原稿をカレンダーを見ながら、期限締め切りギリギリで書いております。

話は少し変わりますが、「発達心理学」では大学生を青年期の発達段階にあると考えます。青年期の諸問題については、研究者によって様々な見解がありますが、社会人になるための準備期間ということでは大きく一致しているようです。この時期は他の世代に比べて、社会的な役割や責任をそれほど負わされることがないことから、時間的に余裕がある(薬学生は例外!?)のが特徴です。そのため、自分のことや社会のことなど色々考える時間があり、理想と現実の狭間で様々な悩みや挫折を経験することが多いことも大きな特徴です。ある人は、まだまだ学生のままでいたいという理想と社会人としてもうすぐ社会に出なければならないという現実であったり、またある人はイケメン彼女と付き合いたいという理想となかなか相手が見つからないという現実であったりするかもしれません。

悩みや挫折ということばは、既にことば自体にネガティブな響きがあり、世間一般的にはできればあまり持たない方がよいものというイメージがありますが、実は青年期のネガティブな体験は、こころの成長という意味ではとてもポジティブな意味があります。確かに挫折や不安は目の前が真っ暗となり、辛い状況がしばらく続くので、ネガティブな意味合いを有していることに間違いはありません。ただ、その辛い経験を通して、人の痛みを知ることができたり、自らの言動を修正する機会を得たりすることができるかもしれません。人の痛みを知ることにより、高い共感性を養えるかもしれません。また、自らの言動を修正することは、定期的に配信されるパソコンの欠陥修正プログラムのように、今後の生活で対人関係上の不具合(バグ)を減らしてくれるかもしれません。そのようなことを考えるとやや極論かもしれませんが、学生時代に適度に悩んだり、適度に挫折したりすることも大切な経験と

いえるかもしれません。ネガティブな考えや気持ちは、近視眼的に見ると不快で回避したいものですが、長い目で見たところの成長にはとても大切なものであるといえます。

「いつ悩むの? 今でしょ」

学生相談室ではどんなことでもお話を聴かせていただきます。一人でじっくり腰を据えて深淵まで考えることもとても大切ですが、時には人に話してみることでもいいかもしれません。何か駄洒落のようですが、カウンセリングの世界では「話す」ことは「離す」ことでもあると言われています。私たちのこころが悲しさ、苦痛、不満、不安などで圧倒されてしまうときに、それらをことばにして誰かに話すことは、それらを自分のこころから「離す」ことができます。話すことによって、怒りを離したり、不満を離したり、こだわりを離したり…。離せば、軽くなります。また、「離す」ことにより、安堵感や安定感が得られるだけではなく、それら諸問題と自分との距離をとることで自分の状況を客観視することができ、問題が整理されたり、新たな視点を得られたりするかもしれません。

さあ、あなたも相談員に話(離)してみませんか。あなたの来室をお待ちしております。

学生相談室

本学では、学生相談室を設け、週に3回、カウンセラー(専門の臨床心理士)が相談を受け付け、学生が抱える問題や悩みに対処しています。



小田佳子相談員
(木曜日担当)



川端康雄相談員
(火曜日担当)

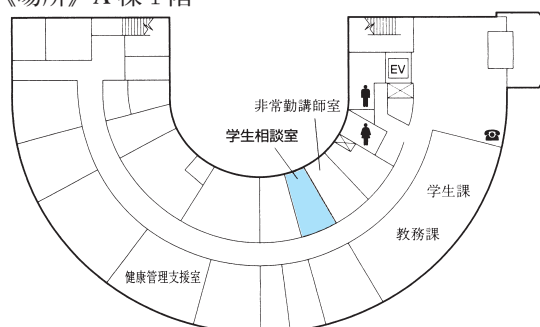


西田裕子相談員
(金曜日担当)

開室時間: 毎週火・木曜日 12:00~16:00
毎週金曜日 14:00~18:00

TEL: (072)690-1077 (直通)
E-mail: counsel@gly.oups.ac.jp

《場所》A棟1階



教員研究業績 (2012年)

(2012.1.1~12.31)

1. 研究学術論文

著 者	標 題	掲 載 誌
Paku KS, Umenaga Y, Usui T, Fukuyo A, Mizuno A, In Y, Ishida T, Tomoo K	A conserved motif within the flexible C-terminus of the translational regulator 4E-BP is required for tight binding to the mRNA cap-binding protein eIF4E.	Biochem. J., 441 , 237-245 (2012)
Sogawa K, Okuda R, In Y, Ishida T, Taniguchi T, Minoura K, Tomoo K	C-H ... π interplay between Ile308 and Tyr310 residues in the third repeat of microtubule binding domain is indispensable for self-assembly of three-and four-repeat tau.	J. Biochem., 152 , 221-229(2012)
Sharma B, Joshi S, Sassano A, Majchrzak B, Kaur S, Aggarwal P, Nabet B, Bulic M, Stein BL, McMahon B, Baker DP, Fukunaga R, Altman JK, Licht JD, Fish EN, Platanias LC	Sprouty proteins are negative regulators of interferon (IFN)-signaling and IFN-inducible biological responses.	J. Biol. Chem., 287 , 42352-42360 (2012)
Funahashi T, Tanabe T, Mihara K, Miyamoto K, Tsujibo H, Yamamoto S	Identification and characterization of an outer membrane receptor gene in <i>Acinetobacter baumannii</i> required for utilization of desferricoprogen, rhodotorulic acid, and desferrioxamine B as xenosiderophores.	Biol. Pharm. Bull., 35 , 753-760 (2012)
Tsuchiya T, Nakao N, Yamamoto S, Hirai Y, Miyamoto K, Tsujibo H	NK1.1(+) cells regulate neutrophil migration in mice with <i>Acinetobacter baumannii</i> pneumonia.	Microbiol. Immunol., 56 , 107-116 (2012)
Tanabe T, Funahashi T, Shiuchi K, Okajima N, Nakao H, Miyamoto K, Tsujibo H, Yamamoto S	Characterization of <i>Vibrio parahaemolyticus</i> genes encoding the systems for utilization of enterobactin as a xenosiderophore.	Microbiol., 158 , 2039-2049 (2012)
Azuma T, Nakada N, Yamashita N, Tanaka H	Synchronous Dynamics of Observed and Predicted Values of Anti-influenza drugs in Environmental Waters during a Seasonal Influenza Outbreak.	Environ. Sci. Technol., 46 , 12873-12881(2012)
Asano A, Doi M	The desoxazoline asidiacyclamide analogue cyclo(Gly-Thr-D-Val-Thz-Ile-Thr-D-Val-Thz) acetonitrile monosolvate.	Acta Cryst., E68 , o54(2012)
Demizu Y, Doi M, Kurihara M, Maruyama T, Suemune H, Tanaka M	One-handed helical screw direction of homopeptide foldamer exclusively induced by cyclic α -amino acid side-chain chiral centers.	Chem. Eur. J., 18 , 2430-2439 (2012)
Anan K, Demizu Y, Oba M, Kurihara M, Doi M, Suemune H, Tanaka M	Helical structures of bicyclic α -amino acid homochiral oligomers with the stereogenic centers at the side-chain fused-ring junctions.	Helv. Chim. Acta., 95 , 1694-1713 (2012)
Demizu Y, Nagoya S, Doi M, Sato Y, Tanaka M, Kurihara M	Twisted structure of a cyclic hexapeptide containing a combination of alternating L-Leu-D-Leu-Aib segments.	J. Org. Chem., 77 , 9361-9365 (2012)
Demizu Y, Yabuki YU, Doi M, Sato Y, Tanaka M, Kurihara M	Conformations of helical Aib peptides containing a pair of L-amino acid and D-amino acid.	J. Pept. Sci., 18 , 466-475(2012)
Usami Y, Watanabe R, Fujino Y, Shibano M, Ishida C, Yoneyama H, Harusawa S, Ichikawa H	Divergent Synthesis and Evaluation of Inhibitory Activities against Cyclooxygenases-1 and-2 of Natural Withasomnines and Analoguesrecognition.	Chem. Pharm. Bull., 60 , 1550-1560(2012)
Harusawa S, Yoneyama H, Fujisue D, Nishiura M, Fujitake M, Usami Y, Zheng-yun Zhao, Scott A. McPhee, Timothy J. Wilson, David M.J. Lilley	Synthesis of novel tetrazole C5-linked C0-and C2-ribonucleoside Phosphoramidites Using MePOM and POM groups for probing RNA catalysis.	Tetrahedron Lett., 53 , 5891-5894 (2012)
Funai T, Miyazaki Y, Aotani M, Yamaguchi E, Nakagawa O, Wada S., Torigoe H, Ono A, Urata H	Ag(I)ion mediated formation of a C-A mispair by DNA polymerases.	Angew. Chem. Int. Ed., 51 , 6464-6466(2012)

著 者	標 題	掲 載 誌
Torigoe H, Nakagawa O, Imanishi T, Obika S, Sasaki K	Chemical modification of triplex-forming oligonucleotide to promote pyrimidine motif triplex formation at physiological pH.	Biochimie, 94 , 1032-1040(2012)
Wada S, Hitora Y, Yokoe S, Nakagawa O, Urata H	Cellular uptake of covalent conjugates of oligonucleotide with membrane-modifying peptide, peptaibol.	Bioorg. Med. Chem., 20 , 3219-3222(2012)
Abe Y, Nakagawa O, Yamaguchi R, Sasaki S	Synthesis and binding properties of new selective ligands for the nucleobase opposite the AP site.	Bioorg. Med. Chem., 20 , 3470-3479(2012)
Kotula JW, Pratico ED, Ming X, Nakagawa O, Juliano RL, Sullenger BA	Aptamer-mediated delivery of splice-switching oligonucleotides to the nuclei of cancer cells.	Nucleic Acid Ther., 22 , 187-195(2012)
Ogawa S, Wada S, Urata H	Base recognition by L-nucleotides in heterochiral DNA.	RSC Adv., 2 , 2274-2275(2012)
Akihisa T, Motoi T, Seki A, Kikuchi T, Fukatsu M, Tokuda H, Suzuki N, Kimura Y	Cytotoxic activities and anti-tumor-promoting effects of microbial transformation products of prenylated chalcones from <i>Angelica keiskei</i> .	Chem. Biodiv., 9 , 318-330(2012)
Zhang J, Huang Y, Kikuchi T, Tokuda H, Suzuki N, Inafuku K, Miura M, Motohashi S, Suzuki T, Akihisa T	Cucurbitane triterpenoids from the leaves of <i>Momordica charantia</i> , and their cancer chemopreventive effects and cytotoxicities.	Chem. Biodiv., 9 , 428-440(2012)
Akihisa T, Tochizawa S, Takahashi N, Yamamoto A, Zhang J, Kikuchi T, Fukatsu M, Tokuda H, Suzuki N	Melanogenesis-inhibitory saccharide fatty acid esters and other constituents of the fruits of <i>Morinda citrifolia</i> (noni).	Chem. Biodiv., 9 , 1172-1187(2012)
Kikuchi T, Zhang J, Huang Y, Watanabe K, Ishii K, Yamamoto A, Fukatsu M, Tanaka R, Akihisa T	Glycosidic inhibitors of Melanogenesis from leaves of <i>Momordica charantia</i> .	Chem. Biodiv., 9 , 1221-1230(2012)
Akihisa T, Takeda A, Akazawa H, Kikuchi T, Yokokawa S, Ukiya M, Fukatsu M, Watanabe K	Melanogenesis-inhibitory and cytotoxic activities of diarylheptanoids from <i>Acer nikoense</i> bark and their derivatives.	Chem. Biodiv., 9 , 1475-1489(2012)
Kikuchi T, Watanabe K, Tochigi Y, Yamamoto A, Fukatsu M, Ezaki Y, Tanaka R, Akihisa T	Melanogenesis inhibitory activity of sesquiterpenes from <i>Canarium ovatum</i> resin in mouse B16 melanoma cells.	Chem. Biodiv., 9 , 1500-1507(2012)
Yamada T, Jinno M, Kikuchi T, Kajimoto T, Numata A, Tanaka R	Three new azaphilones produced by a marine fish-derived <i>Chaetomium globosum</i> .	J. Antibiot., 65 , 413-417(2012)
Handa N, Yamada T, Tanaka R	Four new lanostane-type triterpenoids from <i>Inonotus obliquus</i> .	Phytochem. Lett., 5 , 480-485(2012)
Yamada T, Kikuchi T, Tanaka R, Numata A	Halichoblelides B and C, potent cytotoxic macrolides from a <i>Streptomyces</i> species separated from a marine fish.	Tetrahedron Lett., 53 , 2842-2846(2012)
Kitano M, Yamada T, Amagata T, Minoura K, Tanaka R, Numata A	Novel pyridino- α -pyrone sesquiterpene type pileotin produced by a sea urchin-derived <i>Aspergillus</i> sp.	Tetrahedron Lett., 53 , 4192-4194(2012)
Inoue T, Nagai Y, Mitooka A, Ujike R, Muraoka O, Yamada T, Tanaka R	Carapanolides A and B: unusual 9,10- <i>seco</i> -mexicanolides having a 2 <i>R</i> ,9 <i>S</i> -oxygen bridge from the seeds of <i>Carapa guianensis</i> .	Tetrahedron Lett., 53 , 6685-6688(2012)
Tanaka Y, Sakamoto A, Inoue T, Yamada T, Kikuchi T, Kajimoto T, Muraoka O, Sato A, Wataya Y, Kim H-S, Tanaka R	Andirolides H-P from the flower of andiroba (<i>Carapa guianensis</i> , Meliaceae).	Tetrahedron, 68 , 3669-3677(2012)
Hirata Y, Hirata M, Kawaratani Y, Shibano M, Taniguchi M, Yasuda M, Ohmomo Y, Nagaoka Y, Baba K, Uesato S	Anti-tumor activity of new orally bioavailable 2-amino-5-(thiophen-2-yl)benzamide-series histone deacetylase inhibitors, possessing an aqueous soluble functional group as a surface recognition domain.	Bioorg. Med. Chem. Lett., 22 , 1926-1930(2012)
Song P, Sun M., Wang N, Taniguchi M, Baba K	Chemical constituents of <i>Carlesia sinensis</i> .	Chem. Nat. Compounds, 48 , 306-307(2012)

著 者	標 題	掲 載 誌
Shibano M, Misaka A, Sugiyama K, Taniguchi M, Baba K	Two secopregnane-type steroidal glycosides from <i>Cynanchum stauntonii</i> (Decne.) Schltr.ex Levl.	Phytochem. Lett. 5 , 304-308 (2012)
Kimura Y, Sumiyoshi M, Taniguchi M, Baba K	Metabolites of 3'-O-acetylhamaudol isolated from <i>Angelica japonica</i> roots, and their antitumor actions.	Nat. Prod. J., 2 , 20-30(2012)
Hirata M, Kanai Y, Naka S, Matsumuro K, Kagawa S, Yoshimoto M, Ohmomo Y	Synthesis and evaluation of radioiodinated phenoxyquinazoline and benzylaminoquinazoline derivatives as new EGF receptor tyrosine kinase imaging ligands for tumor diagnosis using SPECT.	Ann. Nucl. Med., 26 , 381-389 (2012)
Kimura H, Mori D, Harada N, Ono M, Ohmomo Y, Kajimoto T, Kawashima H, Saji H	Microwave-assisted synthesis of organometallic complexes of 99mTc(CO) ₃ and Re(CO) ₃ : its application to radiopharmaceuticals.	Chem. Pharm. Bull., 60 , 79-85 (2012)
Amano F, Tsukabe S, Teshima R, Waku K, Kohama K	Characterization of macrophage mutants established by their resistance to LPS and cycloheximide-induced apoptotic cell death.	Ad. Bioscience Biotechnol., 3 , 770-781 (2012)
Kobayashi T, Fujimori K	Very long chain-fatty acids enhance adipogenesis through co-regulation of Elovl3 and PPAR γ in 3T3-L1 cells.	Am. J. Physiol. Endocrinol. Metab., 302 , E1461-E1471 (2012)
Fukuhara A, Yamada M, Fujimori K, Miyamoto Y, Kusumoto T, Nakajima H, Inui T	Lipocalin-type prostaglandin D synthase protects against oxidative stress-induced neuronal cell death.	Biochem. J., 443 , 75-84(2012)
Fujimori K, Maruyama T, Kamauchi S, Urade Y	Activation of adipogenesis by lipocalin-type prostaglandin D synthase-generated Δ^{12} -PGJ ₂ acting through PPAR γ -dependent and independent pathways.	Gene, 505 , 46-52(2012)
Koike A, Kato T, Sugiura R, Yan Ma, Tabata Y, Ohmoto K, Susie O. Sio, Kuno T	Genetic screening for regulators of Prz1, a transcriptional factor acting downstream of calcineurin in fission yeast.	J. Biol. Chem., 287 , 19294-19303 (2012)
Fujimori K, Fukuhara A, Inui T, Allhorn M	Prevention of paraquat-induced apoptosis in human neuronal SH-SY5Y cells by lipocalin-type prostaglandin D synthase.	J. Neurochem., 120 , 279-291 (2012)
Yazaki M, Kashiwagi K, Aritake K, Urade Y, Fujimori K	Rapid degradation of cyclooxygenase-1 and hematopoietic prostaglandin D synthase through ubiquitin-proteasome system in response to intracellular calcium level.	Mol. Biol. Cell, 23 , 12-21 (2012)
Endo-Umeda K, Uno S, Fujimori K, Naito Y, Saito K, Yamagishi K, Jeong Y, Miyachi H, Tokiwa H, Yamada S, Makishima M	Differential expression and function of alternative splicing variants of human liver X receptor α .	Mol. Pharm, 81 , 800-810(2012)
Fujimori K, Yano M, Ueno T	Synergistic suppression of early phase of adipogenesis by microsomal PGE synthase-1 (PTGES1)-produced PGE ₂ and aldo-keto reductase 1B3-produced PGF _{2α} .	PLoS ONE, 7 , e44698(2012)
Sakuma S, Kitamura T, Kuroda C, Takeda K., Nakano S, Hamashima T., Kohda T, Wada S, Arakawa Y, Fujimoto Y	All-trans Arachidonic acid generates reactive oxygen species via xanthine dehydrogenase/xanthine oxidase interconversion in the rat liver cytosol <i>in vitro</i> .	J. Clin. Biochem. Nutr., 51 , 55-60 (2012)
Sakuma S, Fujisawa J, Sumida M, Tanigawa M, Inoda R, Sujihara T, Kohda T, Fujimoto Y	The involvement of mitogen-activated protein kinases in the 1 α , 25-dihydroxy-cholecalciferol-induced inhibition of adipocyte differentiation <i>in vitro</i> .	J. Nutr. Sci. Vitaminol., 58 , 1-8 (2012)
Tanaka R, Tsutsui H, Kobuchi S, Sugiura T, Yamagata M, Ohkita M, Takaoka M, Yukimura T, Matsumura Y	Protective effect of 17 β -estradiol on ischemic acute kidney injury through the renal sympathetic nervous system.	Eur. J. Pharmacol., 683 , 270-275 (2012)
Fukumoto T, Yamashita N, Tawa M, Ohkita M, Matsumura Y	Sex differences in postischemic cardiac dysfunction and norepinephrine overflow in rat heart: the role of estrogen against myocardial ischemia-reperfusion damage via an NO-mediated mechanism.	J. Cardiovasc. Pharmacol., 60 , 269-275 (2012)

著 者	標 題	掲 載 誌
Fukumoto T, Tawa M, Kitada K, Yamashita N, Ohkita M, Matsumura Y	Different effects of AT1 receptor antagonist and ET(A) receptor antagonist on ischemia-induced norepinephrine release in rat hearts.	J. Cardiovasc. Pharmacol., 60 , 55-60(2012)
Kimura K, Ohkita M, Koyama M, Matsumura Y	Reduced NO production rapidly aggravates renal function through the NF-kB/ET-1/ETA receptor pathway in DOCA-salt-induced hypertensive rats.	Life Sci., 91 , 644-650(2012)
Suzuki R, Maehara R, Kobuchi S, Tanaka R, Ohkita M, Matsumura Y	Beneficial effects of g-aminobutyric acid on right ventricular pressure and pulmonary vascular remodeling in experimental pulmonary hypertension.	Life Sci., 91 , 693-698(2012)
Ishida S, Sakamoto Y, Nishio T, Baulac S, Kuwamura M, Ohno Y, Takizawa A, Kaneko S, Serikawa T, Mashimo T	Kcna1-mutant rats dominantly display myokymia, neuromyotonia and spontaneous epileptic seizures.	Brain Res., 1435 , 154-166(2012)
Baulac S, Ishida S, Mashimo T, Boillot M, Fumoto N, Kuwamura M, Ohno Y, Takizawa A, Aoto T, Ueda M, Ikeda A, LeGuern E, Takahashi R, Serikawa T	A rat model for LGI1-related epilepsies.	Hum. Mol. Gen., 21 , 3546-3557(2012)
Ohno Y, Okano M, Masui A, Imaki J, Egawa M, Yoshihara C, Tatara A, Mizuguchi Y, Sasa M, Shimizu S	Region-specific elevation of D1 receptor-mediated neurotransmission in the nucleus accumbens of SHR, a rat model of attention deficit/hyperactivity disorder.	Neuropharmacology, 63 , 547-554(2012)
Ohno Y, Okumura T, Terada R, Ishihara S, Serikawa T, Sasa M	Kindling-associated SV2A expression in hilar GABAergic interneurons of the mouse dentate gyrus.	Neurosci. Lett., 510 , 93-98(2012)
Tatara A, Shimizu S, Shin N, Sato M, Sugiuchi T, Imaki J, Ohno Y	Modulation of antipsychotic-induced extrapyramidal side effects by medications for mood disorders.	Prog. Neuro - Psychopharmacol. Biol. Psychiatry, 38 , 252-259(2012)
Iwanaga K, Arimune K, Miyazaki M, Shibano M, Taniguchi M, Baba K, Kakemi M	Effects of Furanocoumarins in Kampo Extract Medicines on Rat Intestinal Absorption of CYP3A and P-glycoprotein Substrate Drugs in Vivo.	Arch. Pharm. Res., 35 , 1055-1064(2012)
Shimizu R, Miyazaki M, Iwanaga K, Kakemi M	The pharmacokinetic-pharmacodynamic assessment of the hypotensive effect after coadministration of losartan and hydrochlorothiazide in spontaneously hypertensive rats.	Drug Metab. Pharmacokinet., 27 , 207-215(2012)
Iwanaga K, Kawai M, Miyazaki M, Kakemi M	Application of organogels as oral controlled release formulations of hydrophilic drugs.	Int. J. Pharm., 436 , 869-872(2012)
Murata M, Nakano K, Tahara K, Tozuka Y, Takeuchi H	Pulmonary Delivery of Elcatonin Using Surface-Modified Liposomes to Improve Systemic Absorption: Polyvinyl Alcohol with a Hydrophobic Anchor and Chitosan Oligosaccharide as Effective Surface Modifiers.	Eur. J. Pharm. Biopharm., 80 , 340-346(2012)
Tozuka Y, Higashi K, Morita T, Nishikawa M, Uchiyama H, Zhang J, Moribe K, Nishikawa K, Takeuchi H, Yamamoto K	Transglycosylated Rutin-Specific Non-Surface-Active Nanostructure Affects Absorption Enhancement of Flurbiprofen.	Eur. J. Pharm. Biopharm., 82 , 120-126(2012)
Uchiyama H, Tozuka Y, Nishikawa M, Takeuchi H	Nanocomposite Formation Between Alpha-glucosyl Stevia and Surfactant Improves the Dissolution Profile of Poorly Water-Soluble Drug.	Int. J. Pharm., 428 , 183-186(2012)
Fujisawa T, Miyai H, Hironaka K, Tsukamoto T, Tahara K, Tozuka T, Ito M, Takeuchi H	Liposomal Diclofenac Eye Drops Formulation Targeting Retina: Formulation Stability Improvement using Surface Modification of Liposomes.	Int. J. Pharm., 436 , 564-567(2012)
W. Limwikrant, M. Osada, K. Higashi, Y. Tozuka, K. Moribe, K. Yamamoto	Unique Indomethacin Nanoparticles Formation by Cogrounding with Dextrin Under Defined Moisture Conditions.	Powder Tech., 221 , 213-219(2012)

著 者	標 題	掲 載 誌
Komatani-Tamiya N, Daikoku E, Takemura Y, Shimamoto C, Nakano T, Iwasaki Y, Kohda Y, Matsumura H, Marunaka Y, Nakahari T	Procaterol-stimulated increases in ciliary bend amplitude and ciliary beat frequency in mouse bronchioles.	Cell. Physiol. Biochem., 29 , 511-522 (2012)
下平美智代, 石川雅也, 石垣達也, 田村博之, 幸田祐佳, 松村人志	抗精神病薬治療に対する主観的反応の評価尺度の作成とその臨床的意義	臨床精神医学, 41 , 777-786 (2012)
Kobayashi T, Hirose J, Sano K, Kato R, Ijiri Y, Takiuchi H, Tanaka K, Goto E, Tamai H, Nakano T	Application of electrolysis for detoxification of an antineoplastic in urine.	Ecotox Environ Safe, 78 , 123-127 (2012)
Urashima Y, Kayano E, Kato R, Ijiri Y, Tanaka K	Effects of gastric pH mitiglinide absorption (Cmax and Tmax).	Jpn J. Ther. Drug Monit., 29 , 41-46 (2012)
Hirano M, Ogita-Nakanishi H, Miyachi W, Hannya N, Yamamoto-Kimoto Y, Sakurai K, Miyoshi-Higashino M, Tashiro-Yamaji J, Kato R, Ijiri Y, Tanaka K, Kanazawa A, Terada T, Kawata R, Takenaka H, Kubota T, Yoshida R	Essential role of macrophages in the initiation of allergic rhinitis in mice sensitized intranasally once with cedar pollen: regulation of class switching of immunoglobulin in B cells by controlling interleukin-4 production in T cells of submandibular lymph nodes.	Microbiol. Immunol., 56 , 392-405 (2012)
Arai M, Ogita-Nakanishi H, Lee K, Yoshimura K, Kawata R, Kanazawa A, Terada T, Takenaka H, Sato T, Endo Y, Kato R, Ijiri Y, Tanaka K, Tashiro-Yamaji J, Kubota T, Yoshida R	Role of cytokines in lavage or drainage fluid after hemithyroidectomy in wound healing: Involvement of histamine in the acceleration and delay of wound healing.	Wound Rep. Reg., 20 , 158-165 (2012)
Kato R, Higashitani A, Irie T, Kusukawa Y, Yamamoto Y, Nakagawa M, Urashima Y, Nagata M, Hayashi T, Ijiri Y, Tanaka K	Influence of capsaicin on fluctuation of digoxin pharmacokinetics in lipopolysaccharide-treated rats.	Xenobiotica 42 , 798-807 (2012)
Miyachi K., Kurokawa H., Moriyama K., Morimoto S., Tabuse K., Asano M., Yamaguchi T. , Fujita Y	Spectrophotometric Determination of Micro Amounts of Albumin Using Zirconium(IV) and Xylenol Orange	Chem. Lett., 41 , 58-59 (2012)
Sugimoto K, Onda M, Hashimoto S, Matsumura Y, Zhang Q, Fujino Y, Tomono K, Awakawa Y.	Factors Affecting the Effect of Treatment of VCM Based on the Quantity of MRSA for Hospital-Acquired Pneumonia.	Jpn. J. Drug Inform., 14 , 105-109 (2012)
Nanaumi Y, Onda M, Mukai Y, Tanaka R, Tsubota K, Matoba S, Tanaka Y, Arakawa Y	Factors Related to Medication Adherence of Cognitively Impaired Patients in Community Pharmacy.	Pharmacol. Pharm., 3 , 376-388 (2012)
廣谷芳彦, 八十永理, 的場俊哉, 池田賢二, 恩田光子, 川瀬雅也, 名徳倫明	A Research Survey on Implementation Situation of Home Medical Care, Pharmacists' Attributes and Opinions in Community Pharmacies.	医療薬学, 38 , 371-378 (2012)
的場俊哉, 恩田光子, 三原 愛, 岡本昌樹, 藤井睦子, 森川祥彦, 荒川行生	The Correlated Factors with Consumers' Cough and Phlegm Knowledge and OTC Drug Selection in Self-medication.	社会薬学, 31 , 31-40 (2012)
廣谷芳彦, 八十永理, 川瀬雅也, 恩田光子, 三田康子, 池田賢二, 名徳倫明	Survey on Usage of Generic Drugs and Awareness of Community Pharmacists After the Revised Dispensing Service Fee of 2010.	ジェネリック研究, 6 , 13-19 (2012)
七海陽子, 的場俊哉, 恩田光子, 田中理恵, 坪田賢一, 向井裕亮, 櫻井秀彦, 早瀬幸俊, 荒川行生	A Pilot Study into the Attribute of Patients Who Use Pharmacists' Home-visiting and Factors Related to Adherence among Patients Taking Medication for Dementia.	薬学雑誌, 132 , 387-393 (2012)
Amagata T, Xiao J, Chen YP, Holsopple N, Oliver AG, Gokey T, Guliaev AB, Minoura K	Creation of an HDAC-Based Yeast Screening Method for Evaluation of Marine-Derived Actinomycetes: Discovery of Streptoetoin A.	J. Nat. Prod., 75 , 2193-2199 (2012)

2. 総説, 他

著 者	標 題	掲 載 誌
藤田芳一	化学教育と分析化学	ぶんせき, 2012(4), 181(2012)
宮本勝城	薬学をめぐる状況—大阪薬科大学	日本化粧品学会誌, 36 , 159-160 (2012)
Juliano RL, Ming X, Nakagawa O	The chemistry and biology of oligonucleotide conjugates.	Acc. Chem. Res., 45 , 1067-1076 (2012)
Juliano RL, Ming X, Nakagawa O	Cellular uptake and intracellular trafficking of antisense and si-RNA oligonucleotides.	Bioconjug. Chem., 23 , 147-157 (2012)
Wada S, Hashimoto Y, Tsuda H, Nakagawa O, Urata H	Designed Aib-containing amphipathic helix peptide for oligonucleotide delivery into cells.	Peptide Sci., 235-236(2012)
和田俊一	天然由来 Aib 含有ペプチドの核酸医薬への応用	ペプチドニュースレター 第85号(日本ペプチド学会), 9-13(2012)
Azuma T, Nakada N, Yamashita N, Tanaka H	Occurrence and Behavior of Oseltamivir and its Active Metabolite Oseltamivir Carboxylate, Zanamivir and Amantadine in the Yodo River Basin, Japan.	SETAC Asia/Pacific 2012, Learning from History and Applying Advancing Science to Build a Safer and Sustainable Environment (Data in USB) (2012)
東 剛志, 田中宏明	河川環境に流出する抗インフルエンザ薬成分の環境動態—下水処理場における高度処理の重要性—	安全工学, 51 (5), 282-289 (2012)
平田雅彦	新規 SPECT 用 ^{99m} Tc 標識分子イメージング薬剤の合成	PET Journal, 20 , 16-18(2012)
Fujimori, K	Prostaglandins as PPAR γ modulators in adipogenesis.	PPAR Res., Article ID 527607 (2012)
藤森 功	脂質メディエーターと代謝疾患	内藤記念科学振興財団時報 第90号, 50(2012)
藤森 功	脂質メディエーターによる肥満初期の進展制御機構の解明	日本応用酵素協会誌 47 , 52 (2012)
Ohkita M, Tawa M, Kitada K, Matsumura Y	Pathophysiological roles of endothelin receptors in cardiovascular diseases.	J. Pharmacol. Sci., 119 , 302-313 (2012)
Kohda Y, Tanaka T, Matsumura H	Effect of thiamine repletion on cardiac fibrosis and protein O-glycosylation in diabetic cardiomyopathy.	J. Diabetes Metab., S7:001 (2012)
恩田光子, 田中有香	プライマリ・ケアにおける医師と薬剤師の連携—Collaborative Pharmacy Practice によるハイリスク薬管理—	薬局薬学, 4 , 48-53(2012)

3. 解 説

著 者	標 題	掲 載 誌
Hayashi T, Yoshioka T, Hasegawa K, Miyamura M, Mori T, Ukimura A, Matsumura Y, Ishizaka N	Inhalation of hydrogen gas attenuates left ventricular remodeling induced by intermittent hypoxia in mice.	Medical Gases Information Files, 11 , 29(2012)
加藤隆児, 井尻好雄	オンプレス吸入用カプセル150 μ g(インダカテロールマレイン酸塩)	調剤と情報, 18 , 909-926 (2012)
加藤隆児, 井尻好雄, 林 哲也	イグザレルト錠10mg, 15mg(リバーロキサバン)	調剤と情報, 18 , 1707-1712 (2012)
恩田光子	飲み合わせ Case study このまま出して, 大丈夫? 医療用医薬品 $\times$ etc.(vol.7)	Credentials, 41号, 41-42(2012)

著 者	標 題	掲 載 誌
恩田光子	飲み合わせ Case study このまま出して、大丈夫？ 医療用医薬品×etc.(vol.8)	Credentials, 43号, 39-40(2012)
恩田光子	飲み合わせ Case study このまま出して、大丈夫？ 医療用医薬品×etc.(vol.9)	Credentials, 45号, 33-34(2012)
恩田光子	飲み合わせ Case study このまま出して、大丈夫？ 医療用医薬品×etc.(vol.10)	Credentials, 47号, 49-50(2012)
荒川行生	研究室紹介－医療・臨床現場と連携できる教育・研究体制の確立がテーマです	日本病院薬剤師会雑誌, 48 , 899-901(2012)
恩田光子, 田中有香	生活習慣病の治療管理における薬剤師の役割	日本薬剤師会雑誌, 64 , 623-627(2012)
恩田光子	患者背景と生活環境を考慮した在宅での薬学管理－服薬管理能力－	薬局, 63 , 2909-2914(2012)
木村捷二郎, 山沖留美	化学共沈操作による放射性汚染水処理の基礎化学	環境技術, 41 , 338-344(2012)

4. 紀 要

著 者	標 題	掲 載 誌
宇佐美吉英, 市川隼人	天然ピラゾールアルカロイド withasomnine 類の合成研究	大阪薬科大学紀要, 6 , 71-84(2012)
釘山直子, 岩永一範, 宮崎 誠, 掛見正郎	抗リウマチ薬の関節内投与のための最適製剤設計に関する基本的検討	大阪薬科大学紀要, 6 , 51-60(2012)
長船芳和, 佐藤健太郎, 鈴木芳郎, 新田 剛, 花山加代子, 長谷川健次, 田中有香, 恩田光子	実施報告 平成22年度大阪薬科大学実務実習伝達・報告会	大阪薬科大学紀要, 6 , 107-125(2012)
藤嶽美穂代	有機化学実験のための易しいマススペクトロメトリー	大阪薬科大学紀要, 6 , 85-106(2012)
楠瀬健昭	今, 世界は	とい, XXXI, 5(2012)
スミス山下朋子	薬学系大学生の英語学習に対する意識：学部生を対象とするアンケート調査から	大阪薬科大学紀要, 6 , 41-47(2012)
スミス山下朋子, 埋橋淑子, 大谷晋也	アメリカ合衆国における医療通訳事情調査報告	大阪大学留学生センター研究論集 多文化社会と留学生交流, 16 , 19-28(2012)
阪本恭子	これからの家族と介護の関わり－ドイツ・家族介護期間法	大阪大学医学系研究科・医の倫理『医療・生命と倫理・社会』, 11号, 102-110(2012)
蘭部正人, 種市和香子, 小川喜道, 渡邉紳一, 当麻成人, 高橋勝美	高齢者におけるフットタッピング動作による足底屈および足背屈最大筋力の簡易推定法の提案	神奈川体育学会体育研究, 46号, 22-26(2012)
Nagata M.	On a certain symmetric property in the geometry of numbers.	大阪薬科大学紀要, 6 , 37-39(2012)

5. 著 書

著 者	標 題	掲 載 誌
谿 忠人, 播磨章一, 吉川雅之, 松田久司, 野原稔弘, 藤原章雄, 波多野力, 中村誠宏, 黒田明平, 三巻祥浩, 堀 一之, 高橋砂織, 田邊元三, 森川敏生, 二宮清文, 正山征洋, 村田和也, 松田秀秋, 下田博司, 角谷晃司, 石黒京子, 奥 尚枝, 増田めぐみ, 田中麗子, 太田富久, 村岡 修, 池上文雄, 塚越 覚, 阿部友美, 新藤 聡, 松原紀嘉, 渡辺 均	カバノアナタケ (チャーガ) の有効性	食品薬学の開発Ⅱ－薬用・有用植物の機能性食品素材への応用－ p227-237, シーエムシー出版(2012)
天野富美夫	第3章 食中毒	スタンダード薬学シリーズ5 「健康と環境」 第2版 SBO19.SBO20, 東京化学同人 (東京)(2012)
Ohno Y, Tatara A, Shimizu S, Sasa M	Management of cognitive impairments in schizophrenia: The therapeutic role of 5-HT receptors.	“Schizophrenia Research: Recent Advances” edited by T. Sumiyoshi, Nova Science Publishers, Inc., NY pp. 323-338(2012)
Sasa M., Ohno Y	Serotonin-Diverse physiological functions and related drugs-.	“Serotonin - Diverse physiological functions and related drugs-” . pp. 1-15, Life Science Publishing Co. Ltd., Tokyo(2012)
岩永一範	第4章 剤形修飾による難吸収性薬物の消化管ならびに経粘膜吸収改善	難吸収性薬物の吸収性改善と新規投与製剤の開発 第4章, 126-132, 株式会社シーエムシー出版(2012)
Kohda Y, Tanaka T, Matsumura H	Role of thiamine in obesity-related diabetes: Modification of the gene expression.	Food and Nutritional Components in Focus No.4 B Vitamins and Folate: Chemistry, Analysis, Function and Effects. The Royal Society of Chemistry, 580-591(2012)
青木達哉, 島本史夫, 他	第106回医師国家試験問題解説	第106回医師国家試験問題解説書(2012)
青木達哉, 島本史夫, 高木 融	医師国家試験問題解説 (消化管・腹壁・腹膜疾患)	医師国家試験既出問題集サクセス2013, Level I : 2-342, Level II : 2-111, Level III : 382-399(2012)
青木達哉, 島本史夫, 他	CBT オリエンテーション (第4版)	CBT こあかり1 (2012)
井尻好雄, 加藤隆児, 田中一彦	Ⅱ章 Chapter1 循環器でよく使う薬	服薬指導・看護に役立つ よくわかる治療薬ブック 38-74(2012)
加藤隆児, 井尻好雄, 田中一彦	Ⅲ章 Chapter5 ショック治療 (心肺蘇生) によく使う薬	服薬指導・看護に役立つ よくわかる治療薬ブック 329-333(2012)
石津 隆, 恩田光子, 神村英利, 木方 正, 小竹 武, 佐藤拓夫, 田中大三, 中村武夫, 濱口常男, 早瀬幸俊, 丸山徳見, 八木直美, 安田一郎	第5章 (医療と経済: 国民医療費), 第12章 (医療法), 第13章 (医師法・歯科医師法・保健師助産師看護師法)	わかりやすい薬事関係法規・制度(第2版), 40-43, 311-317, 318-319(2012)

6. 特 許

著 者	標 題	特許番号
Sasaki S, Nakagawa O, Li Z, Takaki A, Saitoh S	Method for quantitatively detecting 8-oxo-2'-deoxyguanosine in aqueous sample solution with high sensitivity, and fluorescent probe molecule.	Patent No. WO 2012133306(2012)
Murakami S, Nakagami J, Baba K, Kawada T, Takahashi N, Nishimura K	Adipocyte differentiation promoting compositions containing Apiaceae-derived coumarin derivatives	JP 2012153625 A 0120816(2012)
大桃善朗, 平田雅彦	4-フェノキシキナゾリン誘導体放射性化合物	特許第4945133号(2012)

平成 24 年度研究助成(論文助成)金

平成 24 年度研究助成(論文助成)金について、
交付件数は 46 件、交付総額は 7,597,391 円でした。

(研究委員会)

総務課

■ 人 事

採用（平成25年4月1日付）

教授	土井 勝（嘱託）
教授	掛見 正郎（嘱託）
教授	宗前 清貞
教授（特任）	佐藤健太郎
教授（特任）	恩田 誠二
教授（特任）	金 美恵子
教授（特任）	小森 勝也
教授（特任）	脇條 康哲
准教授（特任）	銭田 晃一
講師	門田 和紀
助手（嘱託職員）	中代 里美
事務職員	中西 麻美
事務職員	野村 彰吾
技術職員	瀬川 隆夫（特別嘱託）

退職（平成25年3月31日付）

教授	加藤 義春（嘱託）
教授	馬場きみ江（嘱託）
教授（特任）	長船 芳和
教授（特任）	佐藤健太郎（定年）
助手（嘱託職員）	小川 洋子
事務職員	伊藤 由佳
技術職員	瀬川 隆夫（嘱託職員）（定年）

昇任（平成25年4月1日付）

教授	谷口 雅彦
准教授	当麻 成人
准教授	宮崎 誠
准教授	永田 誠
講師	平田 雅彦
講師	土屋 孝弘
講師	山沖 留美
課長補佐	塚田ひろみ
課長補佐	齋藤 貴博
課長補佐	鶴田 政樹
課長補佐	小谷川洋子
主任	浅原久美子
主任	中角 有希

併任（平成25年4月1日付）

教務部長	浦田 秀仁（教授）
学生部長	三野 芳紀（教授）
共同研究センター長	松村 靖夫（教授）

入試課長 秋月 延夫（事務局長）

（平成25年5月1日付）

薬用植物園長 谷口 雅彦（教授）

大学院博士後期課程・博士課程指導教員

（平成24年12月13日付）

松村 人志（教授）

（平成25年3月7日付）

岩永 一範（准教授）

（平成25年4月11日付）

宮崎 誠（准教授）

大学院博士前期課程指導教員

（平成25年4月11日付）

山沖 留美（講師）

門田 和紀（講師）

委嘱（平成25年4月1日付）

校医及び産業医 柚木 孝仁（非常勤）

学生相談室顧問 米田 博（非常勤）

学生相談室相談員 小田 佳子（非常勤）

学生相談室相談員 川端 康雄（非常勤）

学生相談室相談員 西田 裕子（非常勤）

配置換え（平成25年4月1日付）

福永 治久 入試課長から臨床教育支援課長

増家 博 キャリアサポート課課長補佐から入試課課長補佐

村田 祐子 教務課課長補佐兼実務実習支援室室長から臨床教育支援課課長補佐

塚田ひろみ 教務課係長から臨床教育支援課課長補佐

客員研究員（平成25年2月1日付）

吉田 祥

（平成25年4月1日付）

田中 一彦

田伏 克惇

星野 満

森脇 将光

（平成25年5月1日付）

中張 隆司

招へい教授（平成25年4月1日付）

田伏 克惇

共同研究センター長の併任を解く

（平成25年3月31日付）

浦田 秀仁（教授）

海外出張

恩田 光子 准教授（臨床実践薬学研究室）
出張期間：平成25年 2月10日～2月16日
薬剤使用状況等に関する調査研究（アメリカ）
林 哲也 教授（循環病態治療学研究室）
出張期間：平成25年 3月 8日～3月12日
アメリカ心臓病学会（アメリカ）

寄 付

バイオフェルミン製薬(株)
本学教育研究活動への寄付金 100万円
(平成25年 3月28日付)
藤田 芳一 学長
本学教育研究活動への寄付金 100万円
(平成25年 4月23日付)

事務組織の改組（平成25年 4月 1日付）

教務課(内)の実務実習支援室を臨床教育支援課へ改組

慶 弔

<叙勲>（平成25年 4月29日付）
田中 京子（学校法人大阪薬科大学評議員）
旭日双光章
碓井 信二（大阪薬科大学名誉教授）
瑞宝小授章

非常勤講師

（平成25年 4月 1日付）

伊藤 信也（医療総合人間学 4 異文化言語演習 1）
井上 径子（英語 1）
長船 芳和（臨床導入実習）
神竹 道士（ドイツ語 1）
桑田 成規（医療情報学）
武内 徹（免疫学）
谷口 智美（フランス語 1）
寺田多一郎（医薬品開発学）
東井 孝之（異文化言語演習 1 薬学英语 1
実践ビジネス英語）
中村 恵（ドイツ語 1 異文化言語演習 1）
中本 剛二（異文化言語演習 1）
中元 安雄（調剤学実習）
橋口 雅美（健康科学演習 1）
樋口 久（英語 1）
秀 泰二郎（健康科学演習 1）
藤岡 重和（臨床生理学）
藤本 幸治（異文化言語演習 1）
藤原 英明（医用工学概論）

榊矢 桂一（ドイツ語 1 異文化言語演習 1）
松村 泰志（医療情報学）
三木原 浩（人間と文化 1（人間と文学・芸術） 異
文化言語演習 1）
森山 健三（東洋医学概論）
和田 晋一（臨床生理学）
Joseph Michael Jacobs（英語 3）
Ian Murray Richards（英語 3）

非常勤助手

宮田 真希（健康科学演習 1）
門川 裕美（健康科学演習 1）

■ 実験動物慰霊祭

平成24年12月12日(水)12時20分よりC105講義室において、平成24年度実験動物慰霊祭を執り行いました。

慰霊祭は、教職員及び学生等、参列者全員が黙祷を行った後、藤田学長及び大野動物関連研究施設運営委員長から挨拶と慰霊のことばが述べられ、続いて、大喜多動物関連研究施設管理責任者から、実験報告と現在の実験動物飼育状況について報告がありました。

また、この慰霊祭に併せて、松島研究倫理委員長による講演（演題：「実験動物慰霊祭にあたって」）が行われ、最後に、本学の教育研究のために尊い命を捧げた実験動物の冥福を祈り、参列者全員が白菊を献花しました。

■ 土井勝教授が素粒子メダルを受賞

土井勝教授（総合科学系自然科学グループ）がニュートリノの理論的研究に対し、「第12回素粒子メダル」を受賞しました。授賞式は日本物理学会2012年秋季大会（於：京都産業大学）において行われ、メダルと賞状が授与されました。



「第12回素粒子メダル」と表彰状

日本物理学会2012年秋季大会（平成24年9月、於 京都産業大学）での土井勝教授



■ 平成24年度学位記授与式を挙

平成25年3月16日(土)10時30分より、体育館において平成24年度学位記授与式が挙行されました。

卒業生277名、修了生19名は、多くの参列者に見送られ、次の舞台への第一歩を踏み出しました。



■ 平成25年度入学式を挙

平成25年4月1日(月)10時30分より、体育館において平成25年度入学式が挙行され、学部生328名、大学院生17名が入学し、多くの参列者が新しいスタートを祝福しました。



■ がんプロ第2回公開シンポジウムを開催

平成25年2月24日(日)13時より、D302講義室において、文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」事業大阪薬科大学第2回公開シンポジウムを開催しました。第2回目のシンポジウムは、「がん医療における薬剤師の地域連携の発展を目指して」をテーマに掲げ、6名の先生方に地域医療の中で薬剤師の担う役割の重要性をご講演いただきました。

当日は、100余名の参加者があり、講演を聴講した学生たちにとって、今後の進路選択に向けて大変意義深いものとなりました。(写真右)

本学の本事業における活動も2年目に入り、本年度から大学院博士課程に設置したがん専門薬剤師養成コースにも2名の学生が入学し、本格的始動となりました。

今後がん専門薬剤師養成教育はもちろんのこと、地域医療における薬剤師連携や一般市民に対する講演会など、幅広い分野で積極的に活動していく予定です。



■ 小学生が社会見学に訪れました

平成25年6月3日(月)、高槻市立阿武山小学校3年生児童31名が「総合的な学習の時間」として本学を訪れました。

児童たちには、研究室で本学学生の指導のもと、細胞を顕微鏡でのぞいたり、薬用植物園や温室で珍しい植物を見学したりと興味深い体験をしてもらいました。



案内役の職員は、児童たちの容赦ない質問に翻弄されながらも屈託のない元気な笑顔に和まされ、楽しい時間を過ごしました。

■退職記念講演・退職記念パーティーを開催

平成25年3月13日(水)、平成24年度末をもって退職される馬場さみ江教授の退職記念講演を開催しました。

馬場先生におかれましては、昭和43年より長きに亘り、本学の教育に寄与していただき、その功績は讃えること大です。最終講義は、先生が永年研究を重ねてこられた明日葉をテーマにした「大学勤務を終えて～アシタバへの想い～」でした。

当日は、先生の人柄を示すように、多くの教職員や卒業生が会場を埋め、最後の講義に耳を傾けました。

また、同日夕刻より学生ラウンジにおいて、平成24年度末をもって退職される馬場さみ江教授、加藤義春教授、長船芳和教授(特任)の退職記念パーティーを開催しました。

当日は、100余名の教職員が参加し、先生方へ感謝と慰労のスピーチ、花束贈呈が行われ、先生方の今後のご活躍とご健康と祈念して閉会となりました。

■ 附属薬局第14回健康講座を開催

恒例となっている学校法人大阪薬科大学附属薬局健康講座を平成25年2月2日(土)に開催しました。

さて、第14回は「そのしこり、大丈夫？」をテーマに大阪大学乳腺・内分泌外科・下村淳助教にご講演をお願いしました。患者さまの中からは、わが国における乳ガン健診に対する認識の低さについて厳しいご意見もあり、早期発見のために健診を受診することの重要性について、あらためて考えさせられる内容となりました。



馬場さみ江教授 退職記念講演会場



ご退職の教職員の方々



退職記念パーティー会場風景

平成25年度 科学研究費補助金採択状況

(課題番号順)

区分	職 名	氏 名	研究種目	研 究 課 題	直接経費 (千円)	間接経費 (千円)
継続	教 授	春沢 信哉	基盤研究(C)	リボザイムの機能解明と乳癌抑制作用を持つイミダゾールC-ヌクレオシドの合成	600	180
	* 准教授	山田 剛司	基盤研究(C)	海洋生物由来菌類の産生する抗がん剤のシーズの探索及びリード化合物の開発	800	240
	* 准教授	井上 晴嗣	基盤研究(C)	LRG ノックアウトマウスの解析による新規シグナル分子としてのシトクロムCの役割	1,100	330
	* 准教授	大喜多 守	基盤研究(C)	一酸化窒素産生を絶対的に支配するエンドセリン-1およびその受容体の意義	1,200	360
	* 講 師	平田 雅彦	基盤研究(C)	EGF シグナル阻害による癌治療計画の支援システム構築を目指した新規診断薬の開発	900	270
	* 教 授	浦田 秀仁	基盤研究(C)	金属錯体型塩基対のDNAポリメラーゼによる認識	1,200	360
	* 准教授	宮本 勝城	基盤研究(C)	海洋細菌のキチン分解機構に関する網羅的解析	900	270
	* 教 授	福永理己郎	基盤研究(C)	Mnk プロテインキナーゼによる翻訳調節を介した細胞増殖制御機構の解明	1,100	330
	* 教 授	天野富美夫	基盤研究(C)	サルモネラ新規病原性関連因子SEp22の発現を誘導する栄養因子に関する研究	1,000	300
	* 准教授	恩田 光子	基盤研究(C)	慢性疾患管理による地域ケアモデルの構築とその臨床・経済的効果に関する研究	1,400	420
	* 教 授	宗前 清貞	基盤研究(C)	戦後日本の医療政策概観：福祉国家研究における特異な政策領域として	700	210
	* 助 手	中川 治	若手研究(B)	細胞内還元環境に応答して活性化するsiRNA創薬の開発	1,700	510
	* 准教授	藤森 功	基盤研究(C)	極長鎖脂肪酸伸長酵素Elov13の肥満制御における機能と分子機構の解明	1,700	510
新規	* 准教授	和田 俊一	基盤研究(C)	標的認識機能を兼ね備えたAib含有ヘリックスペプチドの核酸医薬への応用	1,900	570
	* 教 授	戸塚 裕一	基盤研究(C)	機能性ナノコンボジット形成に基づく次世代型特定保健食品の開発	1,600	480
	*は、学術研究助成基金助成金			15件	17,800	5,340

学 生 課

平成 25 年度 学友会執行委員会

執行委員長	山口 万穂	硬式庭球部
副執行委員長	仲宗根 千佳	軽音楽部
総務局長	岡本 智児	ソフトテニス部
厚生局長	竹島 佑季	ウインターシュプール
広報渉外局長	野村 有治	弓道部
体育局長	中山 洋平	柔道部
文化局長	平山 聡子	硬式庭球部

平成 25 年度 大葉祭実行委員会

大葉祭実行委員長	板東 正和	テニスサークルレボリューション
大葉祭副実行委員長	林 郁実	ウインターシュプール
総務部長	岡本 智児	ソフトテニス部
イベント部長	江川 和輝	硬式野球部
リサイタル部長	平生 幸佐	ハンドボール部
装飾部長	谷 佳美	美術部
渉外部長	船木 涼平	軽音楽部
渉内部長	小久保 景	E.S.S.部

大葉祭「Power of Music」が開催されます

本年度の大葉祭は、

「Power of Music」

をテーマに、平成 25 年 11 月 1 日(金)～11 月 3 日(日)の日程で開催されます。昨年は「ACIDMAN LIVE」「仮

面ライダーオーズショー」「ダンスバトル」「フリーマーケット」など大いに盛り上がりました。今年もすでに大葉祭実行委員の皆さんが準備を始めています。楽しい企画にご期待ください。

～～～ 板東大葉祭実行委員長からのメッセージです ～～～

「今年のテーマは“Power of Music”です。音楽の力を借りて大葉祭を活気づけたいと思います。また音楽に関連した様々なイベントも予定していますので皆様奮ってご参加ください。」

キャンパス全面禁煙 2 年目に向けて

今年でキャンパス全面禁煙を開始して 2 年目を迎えました。キャンパス内を禁煙にすると共に、学外で迷惑行為がないよう、大学近隣での喫煙も禁止しています。大多数の皆さんからこの取り組みにご協力いただき、ありがとうございます。これからもみんなで Smoke-free Campus を守っていきましょう。

日本の喫煙率は毎年下がりに続いているものの、他の先進国と比べるとまだ高く、今後も人が集まる場所での喫煙はさらに制限されていくものと思われます。また、最近では喫煙しないことを採用の条件とする企業も増えてきています。将来、薬剤師の資格を取得し、医療に携わることになる薬学生の皆さんにとって、学生時代に喫煙習慣を身につけないに越したことはありません。

まだ喫煙習慣のある人には、自身の将来のことや健康についてよく考え、禁煙に向けて努力することをお勧めします。なお、大学にいる間は大学のルールに従い、他の学生や近隣の迷惑となることは絶対にしないでください。大学としては、委託業者や学生部委員・学生課職員による見回りと吸い殻拾いを続けていますが、これらが不要になることを願っています。

クラブ活動に参加しよう

新入生の皆さん、もうクラブに入りましたか？入学式ですぐ決めた人や、各クラブからの熱心な入部の勧誘や五月祭で決めた人もいたでしょう。クラブ活動は、新しい人間関係の始まりです。共通する目的で集まっているだけに、クラブ活動を通じて得られる仲間は、在学中だけでなく、卒業後も交流が続くなど強くつながっています。また、他大学との交流もあります。自分に合ったクラブ活動を見つけ、そのクラブに参加すれば大学生活に彩りを添えるものになるでしょう。

(クラブ活動に熱心になりすぎるあまり、正課を疎かにすることのないように(笑))

学生相談室の相談日が増えました

平成 25 年度から、相談日を週 3 日に増やすことになりました。これまでは火曜日と木曜日の午後(12時から16時)でしたが、ここ数年相談件数が増加してきたことから、学生相談室運営委員会(委員長：松村人志教授)では開室日数を増やすことを検討してきました。全学生を対象として行ったアンケートを集計した結果、実習のない曜日の遅い時間帯を希望する回答が多かったことを受け、金曜日(14時から18時)を追加した週 3

日の体制にすることになりました。

学生生活を送るうえで悩み事や困ることがあれば、一人で悩まず気軽に相談室を訪ねてください。

新入生交流・導入教育について

毎年6月下旬までの期間で新入生を対象に、大学への定着を図ることを目的として「新入生交流・導入教育」を実施しています。アドバイザー単位での実施となり、企画は各アドバイザーに任せられています。今年は「会食」「バーベキュー」「ユニバーサルスタジオジャパン」「京都水族館」「海遊館」「ボウリング」「野球観戦」などが行われました。

楽しく食事をしたり、施設を見学したりしながら、これからの大学生活や学習方法などについてアドバイザーからアドバイスを受けたり、新入生同士の交流が図られたことと思います。

参加した学生からは、「大学の先生は怖いイメージがあったが、話をしてみても親しみを感じた。参加して非常によかった。」「ボウリングに行ったが、すごく楽しかった。同じアドバイザーの学生と話をすることができたので、仲良くなるいい機会となった。」「新入生交流・導入教育は非常に有意義だった。今後も絶対あった方がよい。」などの感想が寄せられました。

献血の感謝状を頂きました

平成25年5月29日(水)に高槻市献血推進協議会創立40周年の記念式典が開催されました。その席上、献血に多大な貢献をした団体として本学が感謝状を頂きました。これからも献血へのご協力をお願いいたします。



教務課

■ 学位授与

[博士(課程)]

博士(薬学) 男子0名 女子1名 合計1名

博第23号 博士(薬学) 南 徳子

大腸菌由来 ATP 依存性プロテアーゼ Lon の活性制御に及ぼすリン酸基の影響

(平成25年3月16日付)

[博士(論文)]

論博第65号 博士(薬学) 藤嶽 美穂代

多官能性ヌクレオシドホスホロアミダイトのマススペクトロメトリーに関する研究

(平成25年3月16日付)

[修士]

修士(薬科学) 男子15名 女子3名 合計18名

(平成25年3月16日付)

[学士]

学士(薬学) 男子110名 女子161名 合計271名

薬学科 270名(男子110名、女子160名)

生命薬学科(4年制) 1名(男子0名、女子1名)

学士(薬科学) 男子5名 女子1名 合計6名

薬科学科 6名(男子5名、女子1名)

(平成25年3月16日付)

臨床教育支援課

■ 臨床教育支援課の開設について

臨床教育支援課は、5年次生に行われる「病院実務実習」「薬局実務実習」をサポートするために、平成24年10月1日に設けられた実務実習支援室の担当業務をさらに充実させることを目的として、平成25年4月1日より開設されました。

臨床教育支援課では、1年次での早期体験学習、4年次での薬学共用試験(CBT・OSCE)、5年次での実務実習といった学部教育だけでなく、薬剤師の卒後教育(公開教育講座)に関する業務も担当します。

■ 白衣授与式

平成25年3月23日(土)午後2時から、本学講堂にて

実務実習に赴く薬学科新5年次生338名に白衣を授与しました。昨年度に引き続き2回目の授与式となりました。白衣授与式では、藤田学長から研究室代表22名にそれぞれ白衣が手渡され、真新しい白衣をまとい、決意を新たにしました。続いて学生代表が、「大学で学んだことを念頭に置き、理想の薬剤師に近づけるよう医療人としての知識・態度も学んできた」と決意を述べ、厳かな雰囲気の中、終了しました。



入 試 課

■ オープンキャンパス2013

開 催 日 平成25年 3 月23日(土)
 参 加 者 数 160名
 プログラム 学部学科説明、入試概要・就職状況説明
 キャンパスツアー、個別相談
 夏の開催日 平成25年 7 月31日(水)／ 8 月 3 日(土)／
 8 月17日(土)
 秋の開催日 平成25年10 月 5 日(土)
 春の開催日 平成26年 3 月実施予定

OPEN CAMPUS 2013 のポスター

夏季に3回、秋・春(2014)各
 1回の5回開催(予定)。
 JR「摂津富田」駅・阪急「富田」
 駅から無料直行バスを運行。
 詳細はHPで確認してください。



■ 平成25年度入学試験結果

■ 大阪薬科大学入学試験結果

入 試 種 別	公 募 制 推 薦 入 試 (S 方 式)	一 般 入 試 I (F 方 式)	一 般 入 試 II (G 方 式)	セ ン タ ー 試 験 (C 方 式)	後 期 セ ン タ ー 試 験 (M 方 式)	帰 国 生 特 別 選 抜 入 試 (K 方 式)	編 入 方 式 (H 方 式) 2 又 は 3 年 次
募 集 人 員	80	70	80	20	10	若干名	若干名
志 願 者	577	601	1,049	801	63	2	4
受 験 者	574	585	946	794	63	2	3
合 格 者	176	180	218	178	15	1	1
入 学 者	115	87	79	5	4	1	1

■ 平成26年度入試概要

入 試 種 別	公 募 制 推 薦 入 試	一 般 入 試 A	一 般 入 試 B
募 集 人 員	80名	80名	70名
出 願 開 始 日	平成25年11月1日(金)	平成26年1月7日(火)	平成26年1月7日(火)
出 願 締 切 日	平成25年11月5日(火)消印有効	平成26年1月24日(金)消印有効 平成26年1月27日(月)のみ持参可	平成26年2月3日(月)消印有効 平成26年2月4日(火)のみ持参可
入 学 試 験 日	平成25年11月9日(土)	平成26年2月1日(土)	平成26年2月9日(日)
合 格 発 表 日	平成25年11月19日(火)	平成26年2月7日(金)	平成26年2月16日(日)
入 学 手 続 締 切 日	1 次 平成25年11月26日(火) (2段階方式) 2 次 平成25年12月19日(木)	1 次 平成26年2月14日(金) (2段階方式) 2 次 平成26年3月17日(月)	1 次 平成26年2月25日(火) (2段階方式) 2 次 平成26年3月17日(月)
試 験 場	本 学	本学・大阪(なんば周辺) 広島・高松	本学・大阪(なんば周辺) 名古屋・広島・福岡
選 考 内 容 (時 間 ・ 配 点)	[調査書] 50点 (全体の評定平均値を10倍する) [理科] 75分 100点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 75点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数学] 60分 75点 数学Ⅰ、Ⅱ	[理科] 90分 150点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分野 を含む」) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分野 を含む」) から1科目を選択する [外国語] 75分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数学] 75分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル)	[理科] 90分 100点 化学(化学Ⅰ、化学Ⅱ「選択分野を 含む」) 生物(生物Ⅰ、生物Ⅱ「選択分野を 含む」) から1科目を選択する [外国語] 90分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [数学] 90分 100点 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学A 数学B(数列、ベクトル)
備 考	併願可／平成26年3月卒業見込み者 及び平成25年3月卒業者が対象		

■ 平成25年度 進学説明会

開催日 平成25年6月7日(金)

場所 ホテルグランヴィア大阪

参加校 46校

参加者数 47名

プログラム ◆進学説明 ～平成26年度入試～

◆キャリアサポートについて

～進路・就職指導支援～

◆個別相談



藤田学長 挨拶



進学説明会 会場



進学説明「大学の特長」



個別相談

■ 大阪薬科大学大学院入学試験結果

薬科学専攻 博士前期課程

入試種別	一般入試(一次)	一般入試(二次)
募集人員	20	若干名
志願者	3	0
受験者	3	0
合格者	3	0
入学者	3	0

薬科学専攻 博士後期課程

入試種別	内部進学	一般
募集人員	5	
志願者	8	0
受験者	8	0
合格者	8	0
入学者	8	0

薬学専攻 博士課程

入試種別	一般
募集人員	3
志願者	6
受験者	6
合格者	6
入学者	6

センター試験利用入試	後期センター試験利用入試	帰国生徒特別選抜入試	編入試験
20名	10名	若干名	若干名
平成26年1月7日(火)	平成26年2月21日(金)	平成25年10月25日(金)	平成25年11月12日(火)
平成26年1月17日(金)消印有効	平成26年3月3日(月)消印有効 平成26年3月4日(火)のみ持参可	平成25年10月31日(木)消印有効	平成25年11月19日(火)消印有効
平成26年1月18日(土) 平成26年1月19日(日)	平成26年1月18日(土) 平成26年1月19日(日)	平成25年11月9日(土)	平成25年11月30日(土)
平成26年2月7日(金)	平成26年3月11日(火)	平成25年11月19日(火)	平成25年12月10日(火)
1次 平成26年2月14日(金) 2次 平成26年3月17日(月) (2段階方式)	平成26年3月17日(月) (一括方式)	平成25年12月19日(木) (一括方式)	1次 平成25年12月19日(木) 2次 平成26年1月20日(月) (2段階方式)
		本学	本学
センター試験利用科目 [理科] 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰ のうち第1解答科目の得点を 2倍する [外国語] 200点 英語(リスニングを含む) ※記述式(200点満点)と リスニング(50点満点) の合計得点を200点満点 に換算する [数学] 100点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 本学の個別学力検査等は実施し ない	センター試験利用科目 [理科] 200点 化学Ⅰ、生物Ⅰ、物理Ⅰ から2科目選択する [外国語] 200点 英語(リスニングを除く)、 独語、仏語、中国語 から1科目選択する [数学] 100点 数学Ⅰ・数学A 100点 数学Ⅱ・数学B 本学の個別学力検査等は実施し ない [調査書] 200点 (全体の評定平均値を200点に換 算する)	適性確認 [理科] 75分 150点 化学Ⅰ、生物Ⅰ から1科目を選択する [外国語] 60分 100点 英語Ⅰ 英語Ⅱ リーディング ライティング [面接] 学習意欲、日本語能力を 確認する 薬学を修める上で必要な分野 を試問する	[英語] 45分 50点 [数学] 45分 50点 [基礎有機化学] 60分 100点 [基礎生物学] 60分 100点 [基礎化学] 60分 100点 [面接] 2年次又は3年次に編入
		※専願制	

学 生 課

第2回「学生選書」図書案内

第2回「学生選書」を平成25年5月6日～8日に実施しました。

今回の「学生選書」図書（87冊）のうち、次の図書は推薦コメントを添えて3階の「学生選書」コーナーに配架しています。



「学生選書」風景

＜教養図書＞

No.	書 名	著 者 名	出 版 社
①	カジュアル・ベイカンシー（１・２）	J.K.ローリング	講談社
②	心	姜 尚中	集英社
③	さきちゃんたちの夜	よしもとばなな	新潮社
④	色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年	村上春樹	文芸春秋
⑤	本にだって雄と雌があります	小田雅久仁	新潮社
⑥	ひなこまち	畠中 恵	新潮社
⑦	夢をかなえるゾウ 2	水野敬也	飛鳥新社
⑧	雲の階段（上・下）	渡辺淳一	講談社
⑨	SPEED	金城一紀	角川書店
⑩	そして生活はつづく	星野 源	文芸春秋
⑪	走る哲学	為末 大	扶桑社
⑫	ハローサマー、グッドバイ	マイケル・コニイ	河出書房新社
⑬	ひろいもの	山本甲士	小学館
⑭	フィッシュストーリー	伊坂幸太郎	新潮社
⑮	僕に踏まれた町と僕が踏まれた町	中島らも	集英社
⑯	真夜中のパン屋さん	大沼紀子	ポプラ社
⑰	もののけ、ぞろり	高橋由太	新潮社
⑱	RDG レッドデータガール	荻原規子	角川書店

＜学術図書・実用書＞

No.	書 名	著 者 名	出 版 社
①	ガスクロマトグラフィー	内山一美	共立出版
②	研究発表のためのスライドデザイン	宮野公樹	講談社
③	元素生活	寄藤文平	化学同人
④	もう迷わない！抗菌薬 navi	坂野昌志	南山堂
⑤	手話で学ぶスリの教科書	早瀬久美	薬事日報社
⑥	絶対わかる分析化学	齋藤勝裕	講談社
⑦	ぜんぶわかる人体解剖図	坂井建雄	成美堂出版
⑧	病気がみえる（9・10）	医療情報科学研究所	メディックメディア
⑨	よくある質問分析化学の基礎	澤田 清	講談社
⑩	薬理学の基本がわかる薬が効くしくみ	中原保裕	ナツメ社
⑪	図解入門よくわかる POS 薬歴の基本と書き方	井手口直子	秀和システム
⑫	数学は世界を変える	リリアン・R・リーバー	ソフトバンククリエイティブ
⑬	できる大人のモノの言い方大全	話題の達人倶楽部	青春出版社
⑭	20代にしておきたい17のこと	本田 健	大和書房
⑮	ひとり暮らしのおかずのコツ	食のスタジオ	成美堂出版
⑯	美人になる栄養学	浅尾貴子	メディアファクトリー
⑰	武器としての決断思考	瀧本哲史	星海社
⑱	毎朝助かるお弁当おかず200	still	宝島社

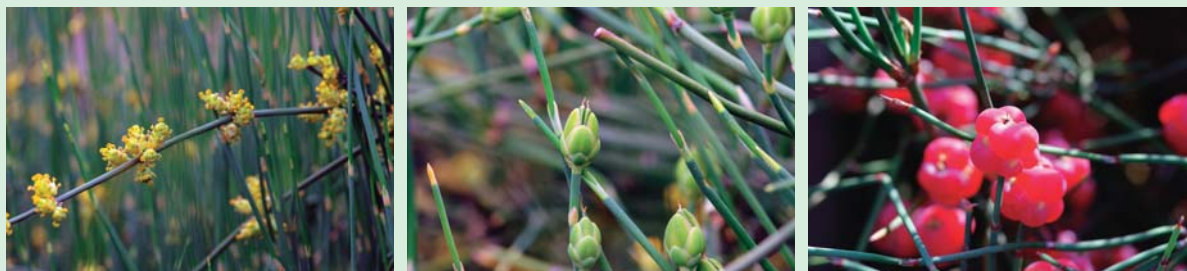
新着資料情報（平成25(2013)年6月）

区 分	タ イ ト ル	著 者
専門図書 ①	ストレス百科事典 ー精神的・臨床心理学的・社会心理学的・社会経済的影響ー	ジョージ・フィンク
// ②	女性のがん心のケア（乳がん、子宮がん、卵巣がん、大腸がん）	大西秀樹
// ③	患者とともにある医療 ー患者と医療提供者の新たな信頼関係とはー	辻 彰
// ④	標準薬剤学 ー医療の担い手としての薬剤師をめざしてー	渡辺善照
// ⑤	絶対に覚えておきたい疾患別薬物相互作用	藤村昭夫
// ⑥	山中 iPS 細胞・ノーベル賞受賞論文を読もう ー山中 iPS 細胞 2 つの論文（マウスとヒト）の英和対訳と解説及び将来の実現展望ー	山中伸弥
// ⑦	免疫学 update ー分子病態の解明と治療への展開ー	審良静男
// ⑧	薬科微生物学	加藤文男
// ⑨	薬剤師のためのがん化学療法カルテの読み方トレーニング ーチーム医療でリーダーシップをめざすー	田辺公一
// ⑩	薬学の基礎としての物理学（プライマリー薬学シリーズ2）	日本薬学会
// ⑪	薬学の基礎としての数学・統計学（プライマリー薬学シリーズ5）	日本薬学会
// ⑫	西洋医を志す君たちに贈る漢方講義 ー魅力的な授業をするためにー	松田邦夫
// ⑬	脳はバカ、腸はかしこい ー腸を鍛えたら、脳が良くなったー	藤田紘一郎
// ⑭	ヒッグス粒子と宇宙創成	竹内 薫
// ⑮	錯視と錯覚の科学 ー目の錯覚はなぜおきるのか？ー	ニュートン別冊
// ⑯	ダークマターとダークエネルギー ー宇宙の96%を占める未確認の質量とエネルギーー	ニュートン別冊
// ⑰	人類を火星に！火星探査の時代	ニュートン別冊
// ⑱	時間とは何か ー心理学的な時間から相対性理論までー	ニュートン別冊
教養図書 ①	桜ぼうさら	宮部みゆき
// ②	奇跡の母子犬	山下由美
// ③	キミトピア	舞城王太郎
// ④	ありがとう3組	乙武洋匡
// ⑤	夢を売る男	百田尚樹
// ⑥	幸せをはこぶ天使のパン	宇佐美総子
// ⑦	憤死	綿矢りさ
// ⑧	ハビネス	桐野夏生
// ⑨	知の逆転	吉成真由美(編)
// ⑩	理系バカと文系バカ	竹内 薫
// ⑪	やめないよ	三浦知良
// ⑫	「知」の挑戦 本と新聞の大学Ⅰ・Ⅱ	一色 清
// ⑬	おどろきの中国	橋爪大三郎、大澤真幸、宮台真司
// ⑭	4 TEEN（フォーティーン）	石田衣良
// ⑮	マドンナ・ヴェルデ	海堂 尊
// ⑯	やる気も成績も必ず上がる家庭勉強法	齋藤 孝
// ⑰	TOEIC テスト完全攻略リーディング10回模試：解説付き	LORI
// ⑱	新 TOEIC テスト「文法」超スピード攻略法 ー解答速度が上がる！スコアが伸びる！ー	小池直己

薬 用 植 物 の 紹 介

シナマオウ *Ephedra sinica* Stapf (マオウ科)

薬用植物園長 教授 谷口 雅彦

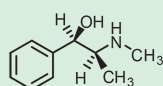


麻黄は神農本草経の中品に収載され、発汗、解熱、鎮痛、鎮咳などの作用を目的とし、漢方処方に配合されている生薬で、古いものが良品とされる六陳の1つである。麻黄は黄色で、舐めると麻痺感があることより名付けられている。第十五改正日本薬局方以降、麻黄の基原植物には、シナマオウ *E. sinica* Stapf (草麻黄)、*E. intermedia* Schrenk et C.A. Meyer (中麻黄)、または、*E. equisetina* Bunge (木賊麻黄)の地上茎と規定されており、中国北部(遼寧、山西、陝西、河北および内蒙古)の乾燥地に自生する裸子植物の常緑小低木である。市場品のほとんどが草麻黄で、一部中麻黄が流通している。草麻黄は高さ30~70 cmで、木質の根茎は土中をほふくし、草質茎は直径1~2 mmの黄緑色で直立し、節間は長さ2.5~5 cmで、外面に多数の並行する縦みぞがある。葉は乾燥に耐えるため退化し、鱗片状の小さな葉が節部にあり、長さ2~4 mm、淡褐色から褐色で、通例、対生し、その基部は合着して筒状になっている。通常、雌雄異株だが、まれに雌雄同株のものもある。花期は5月で、7月には雌花序が成熟すると苞片が増大し、多肉質で紅色の液果状になり、味は甘い。本植物は甘草と同様に乱獲が砂漠化や自然破壊の一因とされ、中国は輸出制限をしている。また、米国は自国の覚醒剤の問題を解決するため、関係国に覚醒剤の不正輸出の取り締まりを強化するように要請し、これに応じて中国は、麻黄が覚醒剤の原料となるため、輸出規制を強化し、麻黄原形での輸出は現在禁止している。しかし、刻んだものは規制外とされているため日本に輸入されている。

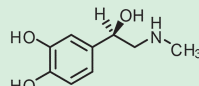
主要成分であるアルカロイドの(-)-エフェドリンは、1887年に東京帝国大学医学部薬学科教授の長井長義先生により初めて単離精製され、日本の近代薬学の出発点となった化合物でもある。他の成分としては、アルカロイドの(+)-プソイドエフェドリン、エフェドロキサン、(-)-ノルエ

フェドリン、(+)-ノルプソイドエフェドリン、(+)-N-メチルプソイドエフェドリンなどの他、フラボノイドやタンニンも含んでいる。日本薬局方では、総アルカロイド(エフェドリン及びプソイドエフェドリン)0.7%以上を含むと規定されている。麻黄の煎出エキ스는マウス、モルモット、イヌに対して鎮咳作用を示し、ラットに対してアジュバンド関節炎抑制作用を示す。水性エキスまたは総アルカロイドはイヌに対して血圧、心拍数の上昇作用、気管支拡張作用、中枢興奮作用、抗浮腫作用を示す。一方、非アルカロイド画分では、血圧、心拍数の低下作用を示す。また、メタノールエキスはマウスの酢酸による毛細血管透過性亢進を抑制し、受精鶏卵法でニワトリ杯の漿尿膜肉芽形成を阻害した。さらに、根は麻黄根と称し、成分はエフェドラジンA、B、Cなどを含有し、作用は地上部とは逆で、止汗、血圧降下作用を示す。漢方処方で麻黄は、鎮咳去痰、気管支拡張、解熱鎮痛作用が期待される麻黄湯、葛根湯、小青竜湯、五積散、防風通聖散、神秘湯などに配合される。

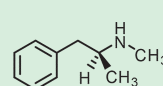
エフェドリンは、化学的に構造変換することにより容易に覚醒剤であるメタンフェタミン(ヒロポン)を合成することができるので覚醒剤原料として厳格に管理が求められている化合物でもある。また、エフェドリンの構造が神経伝達物質のアドレナリンとよく似ていることからアドレナリンの α 、 β 両受容体にも働き、スポーツ選手の運動能力を一時的に高めることになるので、ドーピング検査の対象薬にもなっている。従って、葛根湯をはじめ麻黄を含有する漢方薬もドーピングの対象となるので注意が必要である。



エフェドリン



アドレナリン

メタンフェタミン
(ヒロポン)